

東小室ボガヤチ遺跡・東小室キンダ遺跡

—県営ほ場整備事業東小室地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

1998

石川県立埋蔵文化財センター

東小室ボガヤチ遺跡・東小室キンダ遺跡

—県営ほ場整備事業東小室地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

1998

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は平成7年度に実施した県営は場整備事業東小室地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書で、石川県羽咋郡富来町東小室地内に所在する東小室ボガヤチ遺跡、東小室キンダ遺跡の報告書である。
2. 上記2遺跡の発掘調査は、石川県農林水産部農地整備課の依頼を受け、石川県立埋蔵文化財センターが実施した。
3. 現地調査および資料整理、報告書の刊行に係る費用は、一部文化庁から補助金を得た他は農地整備課が負担した。なお、出土遺物の整理については(社)石川県埋蔵文化財保存協会に委託、一部石川県立埋蔵文化財センターの直當で実施した。
4. 現地調査の実施から報告書の刊行に至るまでは下記の関係機関の協力を得ている。
　　文化庁記念物課、石川県農林水産部農地整備課、石川県羽咋土地改良事務所、富来町教育委員会
5. 本書における挿図などの扱いは以下のとおりである。
 - (1) 挿図中に指示した方位は座標北である。また、土層断面図等の水準線に付した数値は海拔高(単位m)である。
 - (2) 挿図の縮尺は図中に示した。
 - (3) 写真図版の出土遺物の縮尺は不定であり、付した番号は挿図番号に一致する。
6. 調査によって得られた実測図、写真などの記録資料および出土遺物は、石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　　次

第1章 はじめに	(松山)	1
第1節 遺跡の位置		1
第2節 経緯と経過		1
第2章 東小室ボガヤチ遺跡		6
第1節 遺跡の概要	(松山)	6
第2節 繩文時代～古墳時代の遺構と遺物		6
第3節 古代・中世の遺構と遺物	(本田)	26
第3章 東小室キンダ遺跡		52
第1節 遺跡の概要	(松山)	52
第2節 繩文時代～古墳時代の遺構と遺物		52
第3節 古代・中世の遺構と遺物	(本田)	75
報告書抄録		90

図版目次

図版1上 富来川流域（南西から）

図版1下 木尾城跡から海を臨む（北東から）

東小室ボガヤチ遺跡

図版2上 遺跡遠景（北西から）

図版2中 調査区全景（上が西）

図版2下 縦柱建物完掘状況（北東から）

図版3上 1号竪穴住居

図版3中 2・3号竪穴住居

図版3下 4号竪穴住居

図版4上段左から 7号掘立柱建物（上が北）

P11（北から）・P12（北から）

P15（北から）

図版4右下 P306（東から）

図版4左下 12号溝土器出土状況（南東から）

図版5右上 3・4号溝土層断面・遺物出土状況
(南から)

図版5右下 E・F2・3区造構完掘状況
(南から)

図版5左上 7・9号溝完掘状況（南から）

図版5左下 水場遺構（北西から）

図版6 東小室ボガヤチ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（1）

図版7 東小室ボガヤチ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（2）

図版8 東小室ボガヤチ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（3）

図版9 東小室ボガヤチ遺跡出土

古代・中世遺物（1）

図版10 東小室ボガヤチ遺跡出土

古代・中世遺物（2）

図版11 東小室ボガヤチ遺跡出土

古代・中世遺物（3）

東小室キンダ遺跡

図版12上 遺跡遠景（西から）

図版12中 調査区全景（南西から）

図版12下 A・B1～4区完掘状況

図版13右上 作業風景（北西から）

図版13右下 調査区東半部完掘状況（北から）

図版13左上 4号溝土器出土状況（東から）

図版13左下 6号溝土器出土状況

図版14右上 1号土坑土層断面（南西から）

図版14右下 1号土坑完掘状況（南西から）

図版14左上 P53上師皿出土状況

図版14左下 水田畦畔状遺構（南から）

図版15右上 T・P4土器出土状況（北西から）

図版15右下 T・P7土器出土状況（北から）

図版15左上 Bトレンチ完掘状況（北から）

図版15左下 Cトレンチ完掘状況（南から）

図版16 東小室キンダ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（1）

図版17 東小室キンダ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（2）

図版18 東小室キンダ遺跡出土

縄文～古墳時代の遺物（3）

図版19 東小室キンダ遺跡出土

古代・中世遺物（1）

図版20 東小室キンダ遺跡出土

古代・中世遺物（2）

第1章 はじめに

第1節 遺跡の位置（第1図）

本書で報告されている東小室ボガヤチ遺跡、東小室キンダ遺跡は石川県羽咋郡富来町東小室地内に所在する。富来町は日本海に突き出している能登半島の中央西部にあり、海流に直面する外浦地域の一角を占める。北部と東部は丘陵で、高爪山から酒見川が流れ、切留を源とする富来川が市街地を流れ日本海に入る。

東小室地区は主要河川である富来川下流域左岸の、富来町から中島町へ抜ける県道から県道輪島富来線が分岐するところに位置する。東小室ボガヤチ遺跡は東小室集落南西の標高約15mの低丘陵上に、東小室キンダ遺跡は東小室集落北、大西地区に向かう県道沿いの平地に立地する。両遺跡は直線距離にして約700mほど離れている。

第2節 調査の経緯と経過

東小室ボガヤチ遺跡、東小室キンダ遺跡の発掘調査は、石川県農林水産部農地整備課・石川県羽咋土地改良事務

所主管の県営は場整備事業東小室地区に係るもので、同事業は農業経営の近代化と農村環境の改善をはかることを目的として行われ、水田区画の大型化および用水と排水路の分離と農道の整備などが具体的にはこれらにある。

石川県教育委員会文化課・県立埋蔵文化財センターでは、県営は場整備事業に関する埋蔵文化財について事前の協議によっての試掘分布調査で埋蔵文化財の有無、及び範囲確認を行うとともに、事業区域内に所在する埋蔵文化財に対して保護措置を講ずるよう関係機関と協議を進めてきたが、やむを得ず埋蔵文化財の保護に影響を生ずる箇所については発掘調査を実施することで対応してきた。

県営は場整備事業東小室地区は平成6年度からの施工が予定された。平成6年度の施工予定区域は東小室集落の西部を中心とした範囲である。埋蔵文化財センターでは、当該区域について平成5年12月13、14日に分布調査を実施し、その結果、低地の水田部については埋蔵文化財が確認されなかったので事業の実施について差し支えないと回答を行っている。しかし台地部の土取り予定地については路査により埋蔵文化財の所在する可能性がうすいと判断されていた。平成6年度には、同年秋施工予定区域である東小室集落の北部の試掘分布調査を平成6年10月19日に実施した。その結果、一部で遺構・遺物・包含層が確認され、新発見の遺跡の分布が確実となった（東小室キンダ遺跡）。埋蔵文化財センターでは農地整備課・羽咋土地改良事務所と工法変更での埋蔵文化財の保護を講ずるよう協議し、田面部についてはできるだけ盛土を設けて遺跡を保護すること、盛土が設計上不可能な範囲や包含層・遺構面以下の掘削が避けられない排水路・バイオライン敷設区域については次年度に発掘調査を行うことで合意した。

また、前年度路査により埋蔵文化財の所在する可能性がうすいと思われた台地部も平成6年度秋施工区域となっていた。工事が施工され、台地部南端の一部が土取りのため削られると、そこから土器が出土したとの連絡を受けた。埋蔵文化財センターでは平成7年1月30日に現地確認したところ弥生・古墳時代の土器が検出され、新発見の遺跡であることが判明した。その結果、一時当該地の工事を



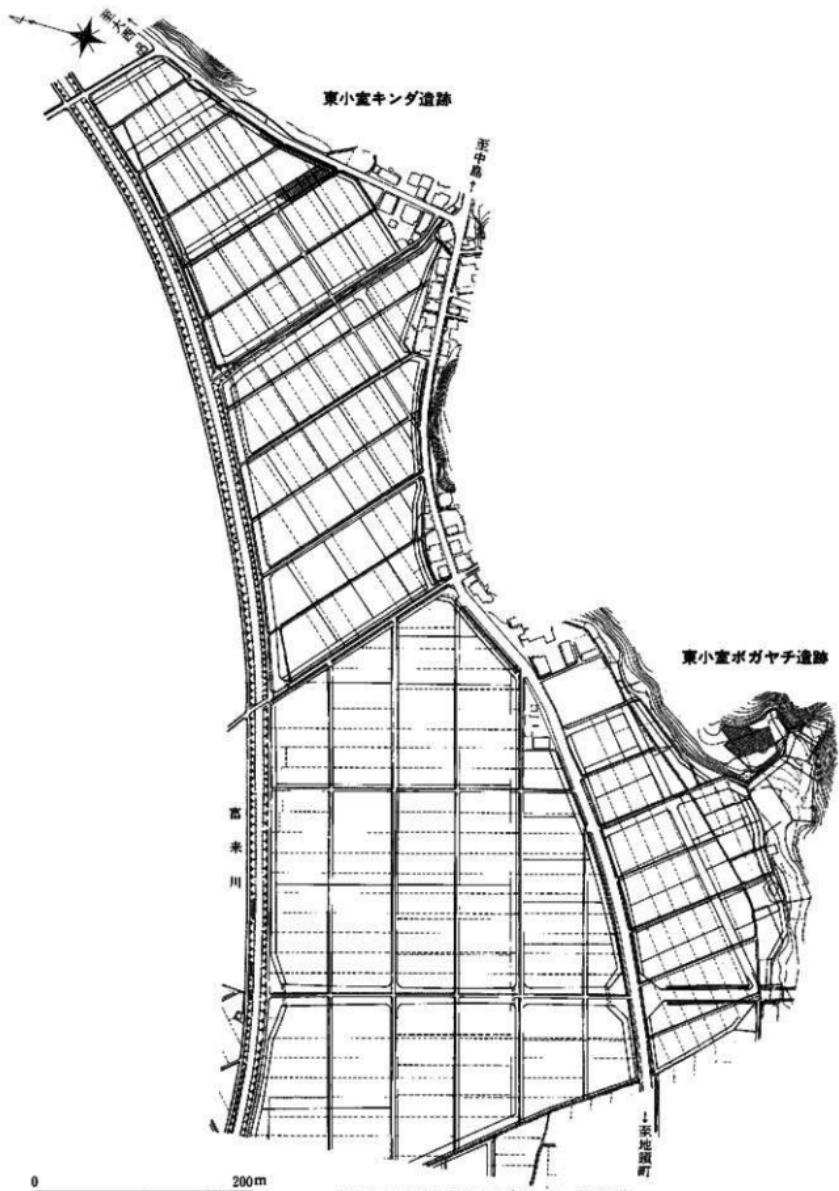
第1図 富来町の位置



第2図 周辺の遺跡 ($S = 1/25,000$)

遺跡No	遺跡名	時代	備考	遺跡No	遺跡名	時代	備考
27046	相坂遺跡	縄文・奈良～近世		27059	山王丸山古墳	古墳	自然地形の可能性もある
27047	小袋遺跡	縄文		27060	八幡ワカグチ遺跡	弥生・平安	
27048	小袋薙跡	平安	1973年町教委発掘調査	27061	高田遺跡	弥生～近世	1969年右考査調査並行調査、一部損壊
27049	小袋製鉄遺跡	不詳		27062	高来八幡遺跡	弥生	耕地整理中発見
27050	里本江遺跡	縄文	磨製石斧単独出土	27063	八幡イチバンダ遺跡	弥生	
27051	富来海岸遺跡	縄文	石器単独出土、損壊	27064	地中世墳墓群	中世	県指定史跡やぐら7基よりなる。
27052	八幡イシカ遺跡	不詳		27068	飛塚古墳	古墳後期	円墳、損壊
27053	八幡座主遺跡	平安		27069	貝田B遺跡	平安	
27054	富来城跡	不詳		27070	貝田C遺跡	弥生後期～中世	1992、1993年県埋文センター発掘調査
27055	貝田遺跡	縄文～中世	1991年、1992年県埋文センター発掘調査	27071	東小塙遺跡	縄文	磨製石斧単独出土
27056	八幡バケモンザカ遺跡	縄文		27072	木尾城跡	不詳	町指定史跡
27057	八幡山王遺跡	不詳		27073	田中遺跡	奈良・平安	1986年町教委発掘調査
27058	山王丸山遺跡	縄文～中世	1991、1992年町教委発掘調査	27074	ボケワラ遺跡	縄文	

第1表 遺跡一覧表



第3図 調査区位置図 ($S = 1/5,000$)

停止して農地整備課・羽咋土地改良事務所と工法変更での対処を協議したが、変更是困難なため田面工事にかかる切土部分について次年度早々から発掘調査を行うこととなった（東小室ボガヤチ遺跡）。

東小室ボガヤチ遺跡（調査面積1,200m²）

現地調査は平成7年4月18日～9月7日に、調査第一課主任主事本田秀生、同主事松山温代が担当して実施した。調査補助員として大藤雅男の補助を得た。

調査参加者：岡 フミ子・小谷信子・谷 きよ・畠 みつい・千場文江・向 かず子・森山美喜子・大門文化（富来町東小室）、高 京子・高 恒徳・西 ハル・橋谷定吉・舟木米子（同町貝田）、川端信子・小坂国代・佐藤ちよい・茶谷正義・平島一雄・平島 博・山田みつい（同町地頭町）、宮下和久・宮下慶之・横道 修（同町里本江）、佐藤かおる（同町高田）、高 義晴（同町草江）中勢登史文（同町給文）、岡田みつ・岡本三宏・坂下隆重（同町相神）、井上 清・出口一吉・中 信盛・山本外弘（同町笠波）、谷内尾政巳（同町福浦港）

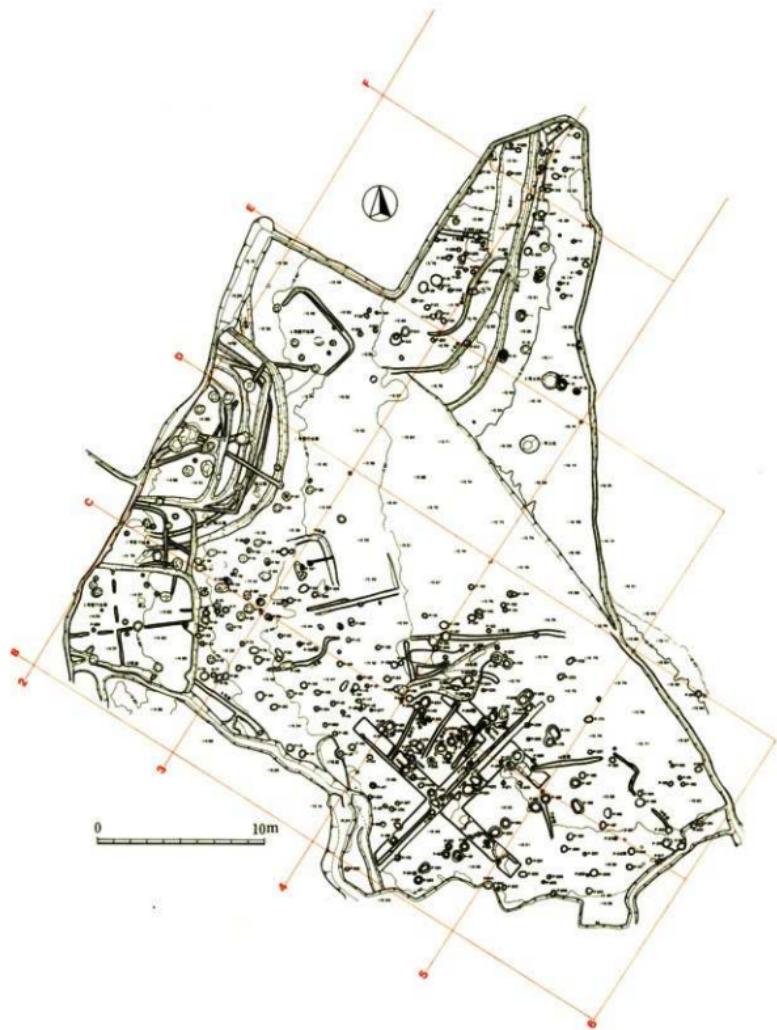
4月18・19日	重機による表土除去	20・21日	プレハブ内整理、機材整理、機材搬入	24～27・29日	遺構検出、 北部壁面整形、杭打ち作業、E・F2・3区遺構検出・遺構掘り下げ
5月8～11日	E・F2・3区遺構掘り下げ	17～19日	排水作業、土層断面測定作業、D・C2区遺構検出、4号溝 掘り下げ、3～6号溝土層断面測定	23～26・30・31日	B・D2・3区遺構検出、B・C2・3区遺構掘り下げ
6月1・2日	B・C2・3区遺構掘り下げ、7・9号溝平面図測定作業	6・7・9日	B・C2・3区遺構掘り下げ、3・8号溝掘り下げ、1号住掘り下げ	12・13・15日	1・2号住掘り下げ、3号住断ち削り、1・2・12号溝 掘り下げ、12号溝遺物実測・取り上げ
6月1～23日	1～3号住掘り下げ、3号住断ち削り、12号溝掘り 下げ、pit掘り下げ	27～29日	1～3号住掘り下げ、3号住断ち削り、12号溝掘り 下げ、pit掘り下げ	30日	1～3号住掘り下げ、3号住断ち削り、12号溝掘り 下げ、pit掘り下げ
7月4～7日	B・C4区包含層掘り下げ、1号住上面柱穴実測	10・11・13日	B・C3～5区遺構検出	17～20 日	R・2・3号住掘り下げ、B・3区柱穴掘り下げ
7月24～28日	24～28・31日	B・C4・5区遺構掘り下げ、B・C3～5区写真 撮影準備、掘立柱建物写真撮影、1～4号住掘り下げ、B・C4・5区灰色土層り下げ	B・C4・5区	11日	B・C4・5区断ち削り、1～4号住掘り下げ、2号住平面図実測
8月1～3日	1～4号住掘り下げ、2号住断ち削り、2号住平面図実測	4・7～11日	B・C4・5区	17～18・21～25日	1～4号住掘り下げ 28～31日
8月31日	3号住掘り下げ、E・F2・3区清掃、B・C3～5区清掃	1～4号住掘り下げ	B・C4・5区	1～4号住掘り下げ	3号住掘り下げ、E・F2・3区清掃、B・C3～5区清掃
9月1～4日	排水作業、調査区全体清掃、ラジコンヘリによる航測、機材整理・移動	5・7日	柱根・礎板等の取 り上げ、重機による下層確認調査		

東小室キンダ遺跡（調査面積830m²）

現地調査は平成7年8月30日～11月16日に、調査第一課主任主事本田秀生、同主事松山温代が担当して実施した。

調査参加者：岡 フミ子・小谷信子・谷 きよ・畠 みつい・千場文江・向 かず子・森山美喜子・大門文化（富来町東小室）、高 京子・橋谷定吉（同町貝田）、川端信子・佐藤ちよい・藤森 初・山田みつい（同町地頭町）、横道 修（同町里本江）、高 義晴・出村やす子（同町草江）、旭 外量・中勢登史文（同町給文）、岡田みつ・岡本三宏・坂下隆重（同町相神）、井上 清（同町笠波）

8月30・31日	重機による表土除去				
9月5～7・8日	機材整理、壁立て作業、暗渠・現代排水溝・側溝掘削、杭打ち作業、レベル移動	11～13日	ベル トコンベアの設置作業、A・1～3区遺構検出・包含層剥削	18～22・25・26日	A・B1～6区（包含層剥削、A3 区南壁断ち削り掘削、A3・4・B3区水田遺構掘り下げ
9月27～29日	27～29日	B6区包含層剥削、A・B1～4区遺構検出、B2・3区北壁断ち削り掘削	B2・3区水田遺構掘削		
10月3～6・9・11～13日	A3・4区不明落ち込み掘削、A・B3区南北壁断ち削り掘削、A・B1～3区遺構掘り下 げ、B2・3区精査、遺構平面図測定作業	16～20日	A3区遺構検出・遺構剥削、A・B1・2区遺構掘り下げ、 トレンチ調査区の壁立て・遺構検出・遺構剥削作業	23～27・30・31日	A・B1～4・6区遺構充掘作業、排水作



第4図 東小室ボガヤチ遺跡 遺構全体図 ($S = 1/300$)

渠、A・B 1～6区清掃、トレント調査区清掃

11月1・2日 排水作業、航測準備、ラジコンヘリによる航測 6・7・9・10・13～16日 調査区南・北壁立て作業、調査区南・北壁及びトレント調査区土層観察・写真撮影、土層断面図実測、調査区下層調査、機材整理、機材撤収、周辺道路踏査

出土品等整理作業は、(社)石川県埋蔵文化財保存協会に、平成7年度に東小室ボガヤチ遺跡出土遺物の洗浄作業を、平成8年度に東小室キンタ遺跡出土遺物洗浄作業及び両遺跡の出土遺物の接合・実測・トレース、遺構図トレース作業等をそれぞれ委託して実施した。また平成8・9年度には、直當で遺物整理、図面整理、図版作成などの作業を実施した。

第2章 東小室ボガヤチ遺跡

第1節 調査の概要（第4回）

本遺跡は東小室集落南西の丘陵裾部に立地し、標高は16.20～15.20mを測る。調査は地形に合わせて任意に10mグリッドを設定して進めた。北西～南東方向をアラビア数字列とし北から南へ昇らせ、北東～南西方向をアルファベット列とし南から北へ昇らせた。各区画を西側グリッド杭名で呼称した。

遺構は耕土・床土の直下に広がっていた。そのため旧耕地整理による削平を受けて調査区の北側突出部とその南側では段差が生じており、南側が一部削平を受けていると思われる。調査区北側突出部では土坑・掘立柱建物跡（弥生か）、溝群（中世）等、調査区西側では竪穴住居群（弥生～古墳）、調査区中央では溝・縦柱建物跡（中世）を検出した。調査区南端部は土取り工事のために遺跡が破壊されてしまったが、遺構は南側にも延びる。また調査区西側・北側にも遺構は延びるようである。遺物は縄文時代～中世までのものを確認している。

第2節 縄文～古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居

1号竪穴住居（遺構 第5・6図、遺物 第12～15図）

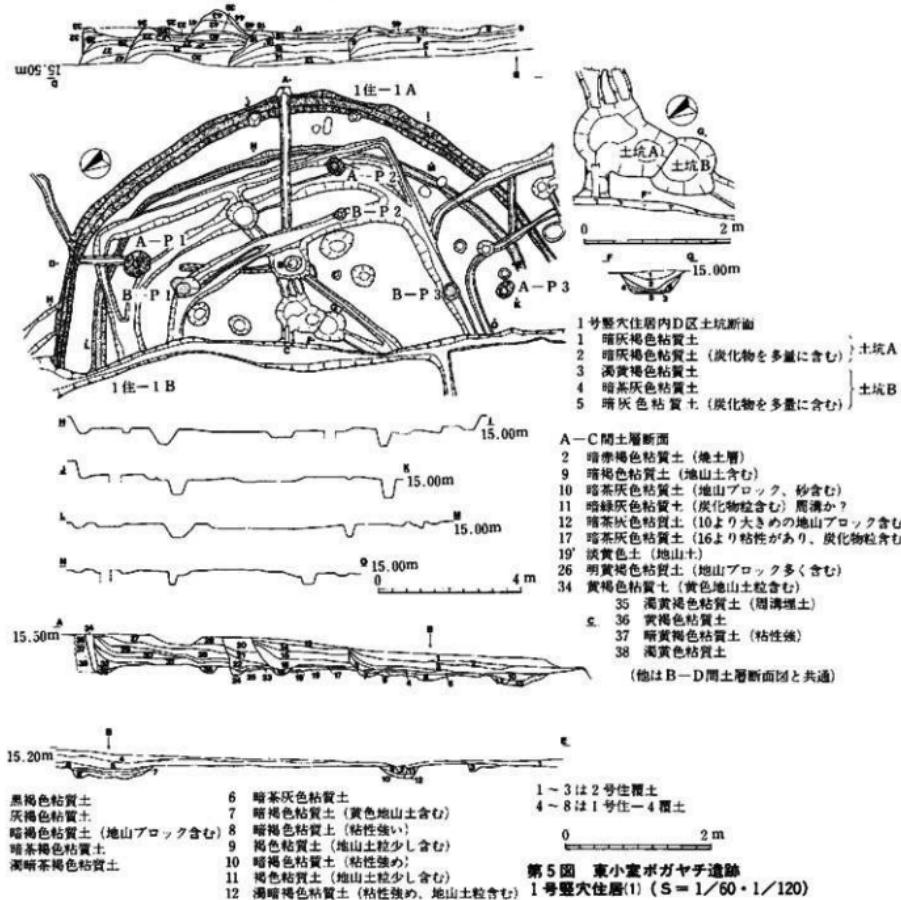
竪穴住居群の中央（C・D-1・2区）に位置する。北東側には約2.2m離れて4号竪穴住居が所在し、南側には2号竪穴住居が切り合う。また上面では7・9号溝、中世の柱穴が重複していた。1号竪穴住居では床面で7本の周溝を確認し、土層断面観察によりおおよそ外から内へと変遷していると考えている。外側から1住-1A、1住-1B、1住-2A、1住-2B、1住-3、1住-4、1住-5とする。

1住-1A竪穴住居（第5図）の平面形は円形（径約14.3m）、検出面からの深さは東側壁で最大46cmを測る。周溝は南側端部が検出できなかったが、幅22～45cm、床面からの深さ6～13cmを測る。主柱穴として1AP1～3（径67～80、43～54、43～51cm、床面からの深さ42、42、59cm、P1-2、P2-3間は約6.14、5.86m）を検出した。おそらく主柱穴は6本主柱の多角形配置になると思われる。

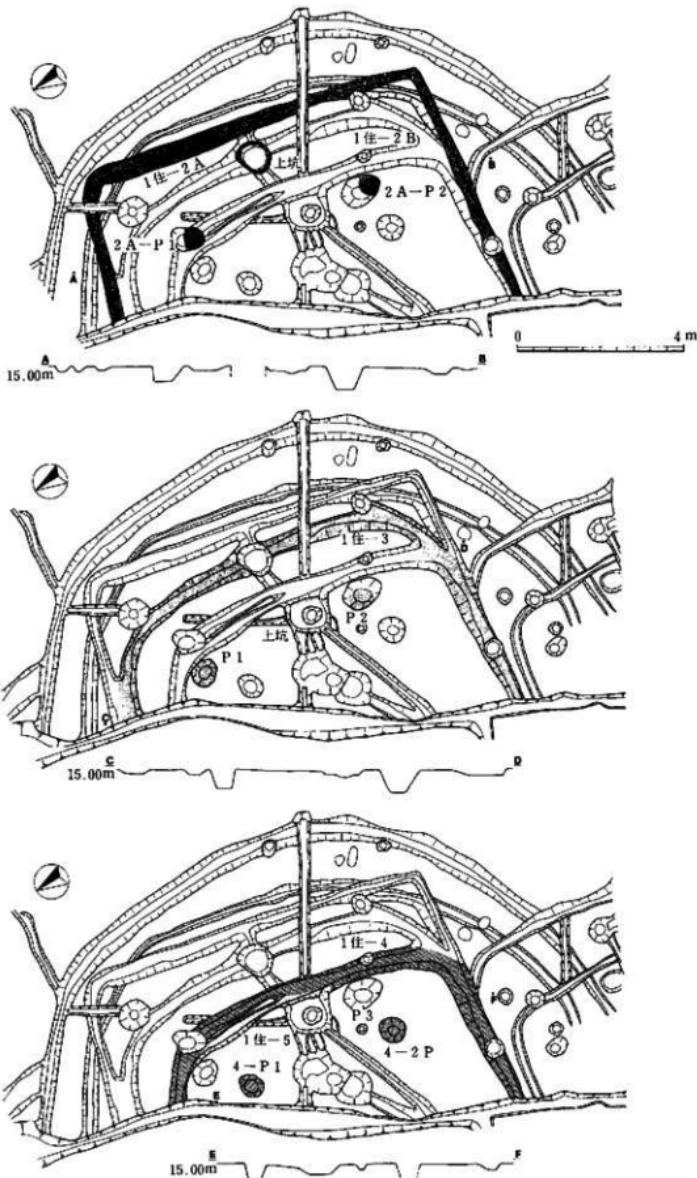
出土遺物は21・25～30である。弥生時代終末のものと思われるくの字口縁・平底の甕、おそらく脚部がつくと思われる体、小型鉢、有台鉢、有段口縁の長頸甕等が出土している。25は床面、26～28は周溝出土のものである。

1住-1B竪穴住居（第5図）の平面形は円形（径約12.4m）である。周溝は1住-1A竪穴と同じく、南側端部が検出できなかった。幅13～38cm、床面からの深さは7～13cmを測り、1号竪穴住居東西セクションの土層より1住-1B竪穴の周溝は1住-1A竪穴築造時に貼り床土で埋め戻されている

B-D間土層断面	46 黄褐色粘質土 (黄色地山土粒混入、粘床)
1 暗茶褐色粘質土	47 茶褐色粘質土 (地山ブロック粒含む)
3 深暗茶褐色粘質土 (地山ブロック粒小多く含む)	21 茶褐色粘質土 (2より地山ブロック粒の含み少ない)
4 暗茶灰色粘質土 (地山土混り)	21 茶褐色粘質土 (2より地山ブロック粒の含み少ない)
5 暗茶褐色粘質土	22 暗褐色粘質土
6 暗褐色粘質土 (地山土含む)	23 黄褐色粘質土 (地山土、粘床)
7 暗褐色粘質土 (粘性強め、炭化物粒含む) 周溝埋土	24 暗緑灰色粘質土 (地山土混入、粘性強、周溝埋土)
8 暗褐色粘質土 (粘性強)	25 暗褐色粘質土 (23の土混入)
11 暗緑灰色粘質土	35 暗黄色粘質土 (35より汚れている。黄褐色土と暗緑灰色粘質土ブロック混入周溝埋土)
45 黑灰色粘質土 (炭化物層)	39 黑褐色粘質土 (炭化物層)
13 暗褐色粘質土 (地山土多く含む)	40 深暗褐色粘質土 (地山土粒、炭化物粒含む)
14 茶褐色粘質土 (地山土粒少し含む)	41 暗灰色粘質土
15 暗褐色粘質土 (地山ブロック含む)	42 黄褐色粘質土 (地山土粒混り)
15' 暗茶褐色粘質土 (地山ブロック粒含む)	43 暗灰色粘質土 (粘性強)
16 暗茶灰色粘質土	44 灰褐色粘質土 (地山土粒多く混じる)
17 黑褐色粘質土 (炭化物層)	47 暗褐色粘質土
18 暗灰色粘質土 (周溝埋土)	27 暗褐色粘質土 (地山ブロック多く含む)
19 黑褐色粘質土 (地山土、粘床)	28 暗褐色粘質土 (地山ブロック粒多く含む)
	29 暗黑褐色粘質土 (炭化物粒多く含む)
	30 茶褐色粘質土 (地山ブロック粒含む)
	31 暗褐色粘質土 (地山ブロック含む)
	32 暗茶褐色粘質土
	33 暗灰色粘質土 (炭化物粒少し含む)



第5図 東小室ガヤチ遺跡
1号竪穴住居(1) (S = 1/60・1/120)



第6図 東小室ボガヤチ遺跡 1号竪穴住居(2) (S = 1/120)

と思われる。主柱穴として1B-P1～3（径54～70、27～35、47cm、床面からの深さ40、34、30cm、P1～2、P2～3間は約4.9、3.8m）を検出した。1B-P1は1住-2A竪穴の柱穴と共有している。主柱穴はおそらく6本主柱の多角形配置になり、同竪穴から1住-1A竪穴への建て替え拡張がなされたと考えられる。団化できた遺物は24・甕のみである。20・22・23は1住-1竪穴覆土出土遺物であるが、1Aと1Bのものが混在している可能性がある。22、23は台部にしては不安定なので蓋にしているが、23は鉢かもしれない。

1住-2A竪穴住居（第6図上）の平面形は方形（東側1辺約8.8m）、深さは東西セクションより約40cmを測る。周溝は幅22～50cm、深さ8～13cmを測り、南側で1住-3、1住-4、1住-5、2住-1竪穴と共有している。主柱穴として2A-P1・2（径54～70、70～100cm、床面からの深さは約40、56cm、P1～2間は約4.5m）を検出している。2A-P1は1住-1Bと、2A-P2は1住-3竪穴と柱穴を共有している。東側周溝と2A-P1～2間との間に平面円形の土坑（72×86cm、床面からの深さ21～24cm）を検出している。

1住-2B竪穴住居（第6図上）の周溝を1住-2A竪穴の南東コーナーの内側でのみ一部確認している。周溝の幅は26～30cm程度、深さは10cm前後である。南東コーナー部以外は1住-2Aの周溝と重複していると思われるがその切り合いは判断できなかった。1住-2Aの周溝と重複していると考えると平面形は隅丸方形になると思われる。

1住-2竪穴住居（1住-2Aと2Bは区別できない）出土遺物は31～36の小型鉢、長頸壺、有段口縁の甕、くの字口縁甕、鉢、有段短頸壺である。32・35・36は床面・周溝上面出土遺物で、他は覆土出土遺物である。1住-2竪穴住居の時期は弥生時代終末から古墳時代初頭頃と思われる。

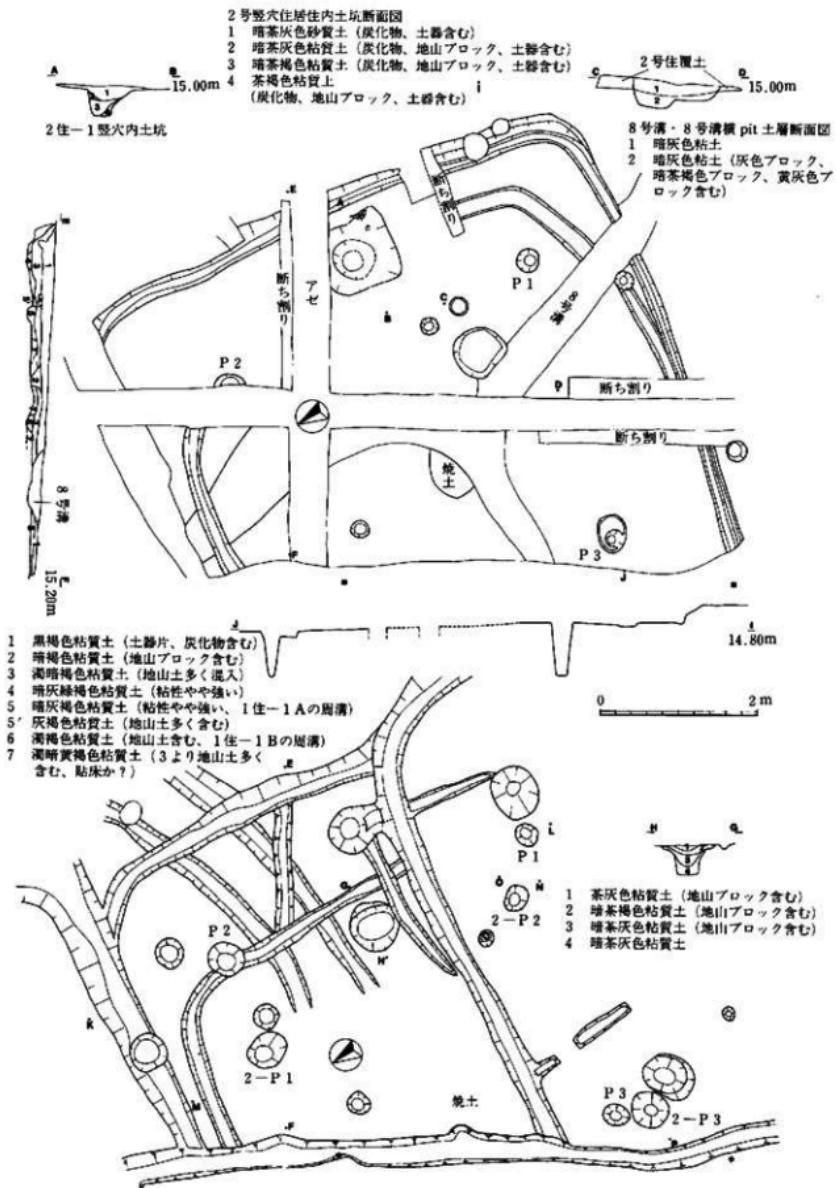
1住-3竪穴住居（第6図中）の平面形は隅丸方形（東側1辺約8.3m）、深さは東西セクションより約40cmを測る。周溝は幅32～67cm、深さ3～11cmを測り、北側で1住-2竪穴の周溝と南側で1住-2～5、2住-1の周溝と重複する。主柱穴としてP1・2（径54～66、70～100cm、床面からの深さは約50、56cm、P1～2間は約4.4m）を検出している。3-P2は1住-2竪穴と柱穴を共有している。P1～2間のP2により平面隅丸長方形の二段掘りの土坑（84×108cm、深さ19cm）を検出している。

出土遺物は37～41の無台鉢、並、有台鉢、有段口縁の甕である。37～39は覆土出土遺物で、40は周溝、41は床面出土遺物である。1住-3竪穴住居の時期は古墳時代初頭頃と思われる。

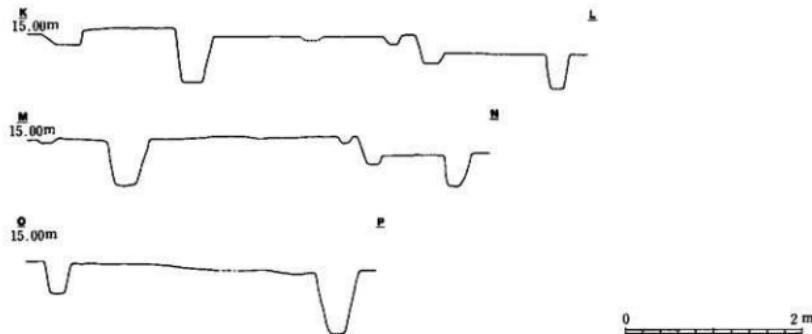
1住-4竪穴住居（第6図下）の平面形は隅丸方形（東側1辺約7.4m）、深さは東西セクションより約28cmを測る。周溝は幅23～51cm、深さ10～12cmを測り、南側で1住-2～5と2住-1竪穴の周溝と重複する。主柱穴として4-P1・2（径52～64、62～66cm、深さ38、?cm、4-P1～2間は約3.8m）を検出している。

1住-4竪穴住居（第6図下）の周溝を1住-4竪穴の北東側の内側に一部検出している。周溝の幅は16～34cm、深さは約12cmを測る。周溝の検出できなかつた部分は1住-4のものと重複し、1住-4と5の間で建て替えが行われたと思われるが、前後関係はわからない。

1住-4・5竪穴覆土出土遺物は42～56の高杯、器台、器種不明の台部、小型壺？、蓋、有段口縁長頸壺、くの字口縁の甕、大型石包丁である。1住-4・5竪穴住居の時期は古墳時代初頭から前期前半頃と思われる。1号竪穴の西端に土坑2基を重複して検出している。土坑Aは平面隅丸方形で約94×132cm、深さ17～23cmを測り、土坑Bを切っている。土坑Aからは鉢か壺の口縁部と思われる57が出土している。土坑Aの北東側はまた別の土坑が重複している可能性がある。土坑Bは平面円形で径約80cm、深さ31cmを測る。土坑Bからは漆町8群頃と思われる器台（58）が出土している。おそらく土坑A・Bは1住-4・5竪穴住居につくものと思われる。



第7図 東小室ボガヤチ遺跡 2号堅穴住居 (S=1/60)



第8図 東小室ボガヤチ遺跡 2号竪穴住居エレベーション図 ($S = 1/60$)

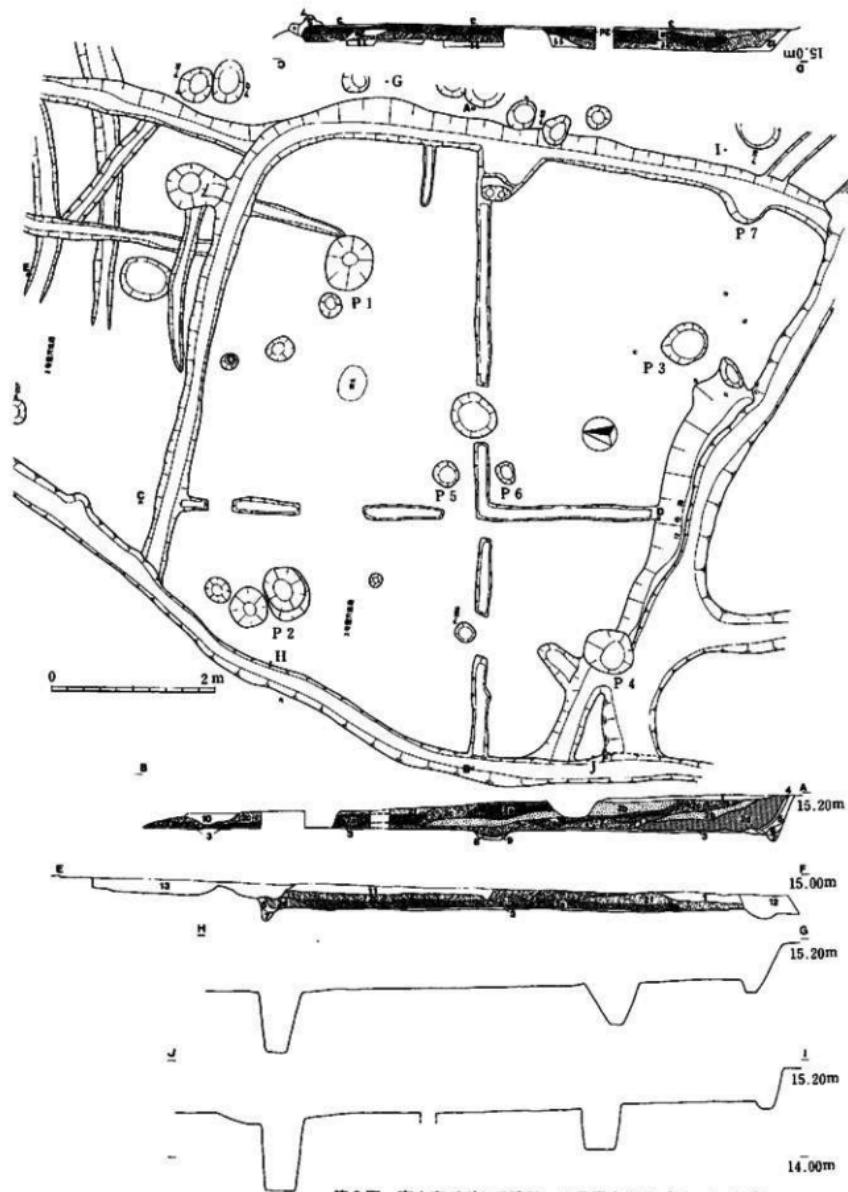
1号竪穴住居では1住-1A、1住-2、1住-3竪穴で地山主体上の黄褐色系粘質土で貼り床がなされていた。また、1住-2竪穴内の土坑東から南西方向に延びる溝(幅20~38cm、深さ11~13cm)を検出している。埋土は貼り床土で埋め戻しが行われているようである。どの竪穴に属するか判断しかねるが、1住-1B竪穴の周溝も同じく貼り床土で埋め戻されているので、1住-1B竪穴に属する遺構の可能性が考えられる。1号竪穴住居覆土出土遺物(1住-Aから1住-5竪穴住居まで含む)は1~19である。

2号竪穴住居(遺構 第7・8図、遺物 第15・16図)

竪穴住居群の中央からやや南(C-B-2区)に位置する。北東側で1住-1竪穴住居、南側で3号竪穴住居と切り合う。上面では8号溝、中世の柱穴が重複している。2号竪穴住居では上層で2住-1竪穴、下層で2住-2竪穴を検出している。

2住-1竪穴住居(第7図上)は上層の黒褐色粘質土を掘り下げた段階で検出された。床面は地山土が多く混入した濁暗褐色粘質土で整地されている。平面形は隅丸方形と思われるが、1辺を完全に検出し切れていないので正確な大きさはわからない。検出面から床面までの深さは東側壁で20cm前後を測る。周溝は東側(長さ約6.6m)と南側(長さ約6m)で検出し、幅18~39cm、床面からの深さ3~7cmを測る。主柱穴としてP 1~3(径30、44、36~48cm、床面からの深さ66、57、58cm、P 2~1、P 1~3間は4.10、3.70m)を、東側壁とP 1~2間との間では平面隅丸方形の二段掘りの土坑(1辺約90cm、深さ35cm)を検出した。土坑南東側上部からはくの字口縁の甕(71)が出土している。また竪穴中央部では8号溝に切られ半椭円形(長さ約74cm)をした焼土の広がりを確認しており、炉跡と思われる。2住-1竪穴住居の周溝の内側にも1本周溝を検出している。南東コーナー部から南側にかけてのみ検出できた。幅16~22cm、深さ3~4cm程度を測り、南側周溝の西端では2住-1の周溝と重なるが切り合い関係は判断できなかった。2住-1竪穴住居は南側で3号竪穴住居を、東側で1住-1A・Bの周溝を切り、北側で1住-2~5竪穴の周溝と重複する。2住-1竪穴と1住-2~5竪穴の関係は平面的には検出できなかったが、土層断面から2住-1竪穴は1住-2~5竪穴より新しいと思われる。

2住-1竪穴覆土出土遺物は59~66である。多時期のものが含まれているのは、1号竪穴住居と切り合っているためと下層の2住-2竪穴の遺物を含んでいる可能性があると思われる。68・71は土坑、69はP 2、72はP 3から出土している。2住-1竪穴住居の時期は古墳時代前期頃と思われる。



第9図 東小室ボガヤチ遺跡 3号竪穴住居 (S = 1/60)

2住-2竪穴住居（第7図・第8図下）は2住-1竪穴の床面から5~10cm程、濁褐色粘質土（2住-1竪穴の整地土）を掘り下げた段階で検出した。南側の3号竪穴住居との重複部分での検出では輪郭がうまく捉えられないままに、3号竪穴住居部分を掘り下げ、結局切り合い関係は判断できなかった。平面形は隅丸方形と思われるが、周溝が北東コーナー部分しか検出できなかつたので正確な大きさはわからない。周溝は幅14~23cm、床面からの深さ最大で約10cmを測り、埋土は暗褐色粘質土である。主柱穴として2P1~3（径42~50、28~34、46~49cm、床面からの深さ51、36、73cm、2P1~2、2P2~3間は3.80、3.24m）を検出した。柱穴の埋土は暗茶褐色土である。東側壁と2P1~2間との間に平面円形の二段掘りの土坑（径60~62cm、深さ33cm）を検出した。調査区西端で小さな焼土の広がりを確認している。2住-2竪穴住居は2住-1竪穴より先行するが、南側の3号竪穴住居との切り合い関係はわからない。東側では1住-1A・Bの周溝を切る。2住-2竪穴覆土出土遺物として67-70を示しているがどちらも3号竪穴住居との重複部分で出土しているので2住-2竪穴の時期を示すとは言い難い。2住-2竪穴住居の時期は不明であるが、2住-1竪穴住居よりは先行する時期である。

3号竪穴住居（遺構 第9図、遺物 第16・17図）

竪穴住居群の南端（B-2区）に位置し、北側では2住-1竪穴住居、南側では12号溝に切られてい。西側は調査区外であり南側も12号溝に切られ、また工事によって削られた部分であるために本遺構は全形を確認できていない。竪穴住居上面では中世の柱穴、8号溝が重複していた。

平面形は隅丸方形と思われ、検出できた東側1辺は約7mを測るが、実際はもう少し大きいであろう。検出面からの深さは東壁側で最大54cmを測る。周溝は幅23~54cm、床面からの深さは最大15cmを測る。埋土は上位に茶褐色砂質土、中位には人為的に埋め戻されたと思われる地山ブロックを含みの黄茶褐~茶褐色系の粘質土（土層図2a~f）、下位には薄く暗灰色粘質土が堆積する。また、北壁・東壁沿いには、自然堆積の茶褐~暗茶褐色粘質土、暗黃灰色粘質土、暗茶褐色粘質土（周溝埋土）が堆積する。埋め戻しは竪穴が廃絶され、床面、壁際に自然堆積が少し進んだ段階で行われたようである。主柱穴としてP1~4（径57~68、53~67、48~56、52~63cm、床面からの深さ50、78、51、92cm、P1~2、P2~4、P4~3、P3~1間はそれぞれ4.16、4.14、4.02、4.30m）を検出した。柱穴埋土は上部に地山質土を含む茶灰色粘質土、下部に暗茶灰~暗灰褐色粘質土が堆積する。中央部では平面円形の地炉床（径50~58cm、床面からの深さ13cm）を検出した。埋土は上層に薄く炭化物層、下層に灰や炭化物層を含む黒灰色粘質土が堆積し、炉跡の底面は焼けていた。炉跡の約40cm程離れた東には小穴P-5、6（径32、22~28cm、深さ8cm）が並んで検出された。埋土は炭化物を含む暗灰褐色粘質土である。

覆土出土遺物は73~88である。高杯、壺、小型鉢、有孔鉢、くの字口縁の甕、有段口縁の甕、砾石等が出土している。3号竪穴住居の埋土は埋め戻し土で、また2住-2竪穴との切り合いもつかめずに掘り下げているのでかなり周囲の遺構の土器が混じっているのではないかと思われる。81は東側壁の周溝上面で検出した土器である。3号竪穴住居の時期は古墳時代初期頃と考えたい。また、3号竪穴住居検出面で管玉1点（100）が出土している。

4号竪穴住居（遺構 第10図）

竪穴住居群の北端（D-2区）に位置し、南西側には約2.2m離れて1号竪穴住居が所在する。遺構検出面は浅く、竪穴の掘り込みは確認でなかつた。周溝、柱穴等も南北側半部は削平されているが、平面形は隅丸方形（1辺5.2m）と思われる。周溝（幅15~35cm、深さ4~7cm）は竪穴住居の北東半部



P11



P12



P13



P14



P15



P16



P17



P18



P19



P20

7号竖穴柱状物 (S = 1 / 60)

8号土坑 (S = 1 / 60)

9号土坑 (S = 1 / 60)

10号土坑 (S = 1 / 60)

- 4号竖穴柱状物断面図
- 1 浅茶灰色粘質土 (塊土ブロック、炭化物を多く含む)
 - 2 茶灰色粘質土 (塊土ブロック、炭化物が上層より少す)
 - 3 灰灰色粘質土 (炭化物含む)
 - 4 黄灰粘質土 (ペースト土主体層、茶灰褐色アロック含む)
 - 5 浅茶褐色粘質土
 - 6 茶灰褐色粘質土 (炭化物含む)

- 1号上坑
- 1 深茶灰色粘質土 (炭化物をわすかに含む)
 - 2 深灰白色粘土 (炭化物をわすかに含む)
 - 3 白灰白色粘質土 (炭化物をわすかに含む)
 - 4 乳白色粘質土 (炭化物をわすかに含む)



- 2号土坑
- 1 深茶灰色粘質土 (炭化物をわすかに含む)
 - 2 白茶灰白色粘土 (炭化物、土塊片わすかに含む)
 - 3 白茶灰白色粘土 (炭化物含む)



4号竖穴柱状物 (S = 1 / 60)



5号竖穴柱状物 (S = 1 / 60)



6号竖穴柱状物 (S = 1 / 60)

を半周し、埋土は茶灰色粘質土である。北東の1辺では2本の周溝が確認でき、建て替えが行われている思われるが、前後関係はわからない。柱穴は竪穴内でいくつか検出しているが、主柱穴はわからなかった。P1～5のそれぞれ深さは15cm、6cm、12cm、14cm、29cmで埋土はやや赤みを帯びた暗褐色粘質土である。北東の内側の周溝そばにある小穴の埋土は他とは違った茶灰色粘質土である。竪穴中央部では炉跡（径44～47cm、深さ4cm）を検出した。埋土は上層に焼土ブロック、炭化物を多く含む暗茶灰色粘質土、下層は焼土・炭化物の含みが少ない茶灰褐色粘質土である。また、南側周溝そばにはおそらくは平面隅丸長方形の二段掘りと思われる土坑（下段の径46～52cm、深さ31cm）を検出した。埋土は上位に炭化物を含む茶灰色粘質土、中位に地山主体層の黄灰色粘質土、下位に暗茶褐色粘質土が堆積している。

出土遺物は少なく、実測でき得るものはなかった。土師器の小片が出土しているが、本遺構の所属時期は不明である。

掘立柱建物

7号掘立柱建物（遺構 第10図）

E-3区に位置する。梁行1間（約4m）×桁行2間（約5.4m）で、梁行柱間は約2.7mである。東側桁行列の北端の柱穴は調査区外で検出できなかった。主軸は南北から東へ少し振っている。柱穴は楕円形で径78～60cm、深さは54～67cm程度である。いずれの柱穴も掘り方部分から10～15cm大の根固めの石の詰め込みが確認できた。根固め石はP306では深さ5cm程から、その他の柱穴は深さ30～40cm程のところから底部にかけて検出した。根固め石が柱底部分を全周するもの（P12）、3/4周するものの（P306、P11）、半周するもの（P15）がある。P10は全部を検出できてないので不明であるが、全周はないようである。P306では柱底が残っていたが、他の柱穴では柱底は抜き取られていた。埋土は柱底抜き取り跡上位に淡灰褐～淡灰黄褐色粘質土、中位に地山ブロック混入の濁灰黄～濁暗灰褐色粘質土、下位に炭化物粒が多く含み、粘性強の灰～暗灰色粘質土である。また掘り方の埋土は地山ブロック混入の灰～黄褐色粘質土である。柱穴覆土から時期を特定できるような遺物の出土はなく、実測しうるものは得られていないが、おそらく竪穴住居群が存在する時期であろうと思われる。

土坑

1号土坑（遺構 第10図）

7号掘立柱建物の南、D-3区に位置する。平面形は円形（110×100cm）、深さは60cmを測る。埋土は上位に淡茶灰色粘質土、中位に淡灰白色粘質土と淡灰白砂質土、下位に薄く乳白色粘質土が堆積している。埋土は周囲の地山とよく似た土で、わずかに炭化物粒を含んでいる。遺物の出土は極少量で実測しうるもののが得られなかったため所属時期は不明である。

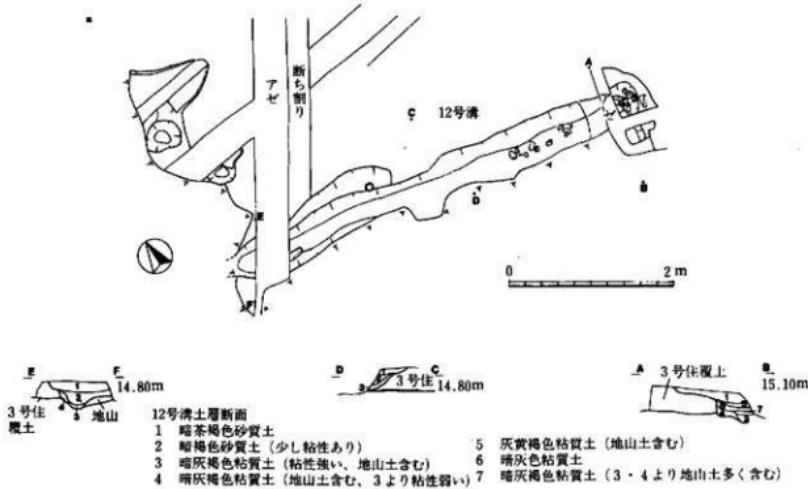
2号土坑（遺構 第10図）

E-3区に位置し、東側をP14とP15に切られている。平面形は円形（径約100cm）、深さは42cmを測る。埋土は上位に淡茶灰色粘質土、中位に白茶灰色粘質土、下位に白茶灰色砂質土が堆積する。埋土は1号土坑同様、周囲の地山とよく似た土でわずかに炭化物粒を含む。遺物の出土は極少量で実測しうるもののが得られなかったため所属時期は不明であるが、1号土坑とは埋土が類似しており同時期のものと考えられる。

溝

1号溝

E-2区の調査区北東端に位置する。北東から南西方向へ、延長2.9m検出したが南西側は3・4号溝に切られている。幅48～56cm、深さ20～26cmを測り、断面はU字形を呈する。埋土は、上位に炭化



第11図 東小室ボガヤチ遺跡 12号溝 ($S = 1/60$)

物を含む暗褐～黒褐色粘質土、下位に暗灰～暗灰褐色粘質土が堆積する。遺物は実測しうるものは得られなかつたが、土器が出土しており古墳時代に属するものであろうか。

12号溝（遺構 第11図、遺物 第17図）

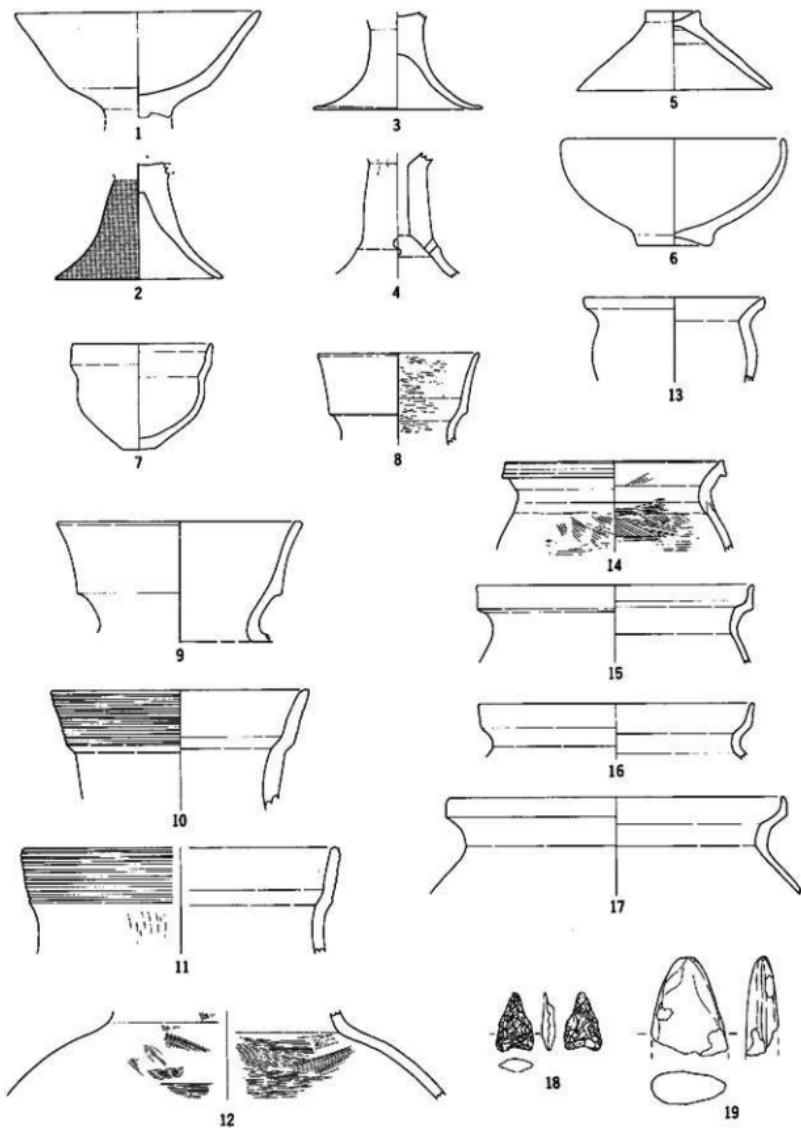
B-2区の調査区南端に位置し、東西方向に延びる。北側には3号竪穴住居があり、それを切っている。溝としているが、調査区端部に位置し南側を工事によって削られ、南側の立ち上がりは確認できないために溝とは異なる遺構の可能性もある。溝の北側の落ち込みはなだらかで、深さは約27~33cmを測る。埋土はおむね上位に暗茶褐～暗褐色砂質土、下位に暗灰～暗灰褐色粘質土が堆積する。溝の東部では中位に地山土が混入する。

夏土出土遺物は92~97、99で高杯、手づくね土器、石製紡錘車などが出土している。92、95、97は下層から出土している。12号溝の時期は古墳時代前期後半頃と思われる。96は外面の上段に円形・半円形の竹管による施文、下段に鋸歯状の刻みを施すもので、装飾器台と思われる。96は古墳時代前期後半につくものではなく、混じりと思われる。

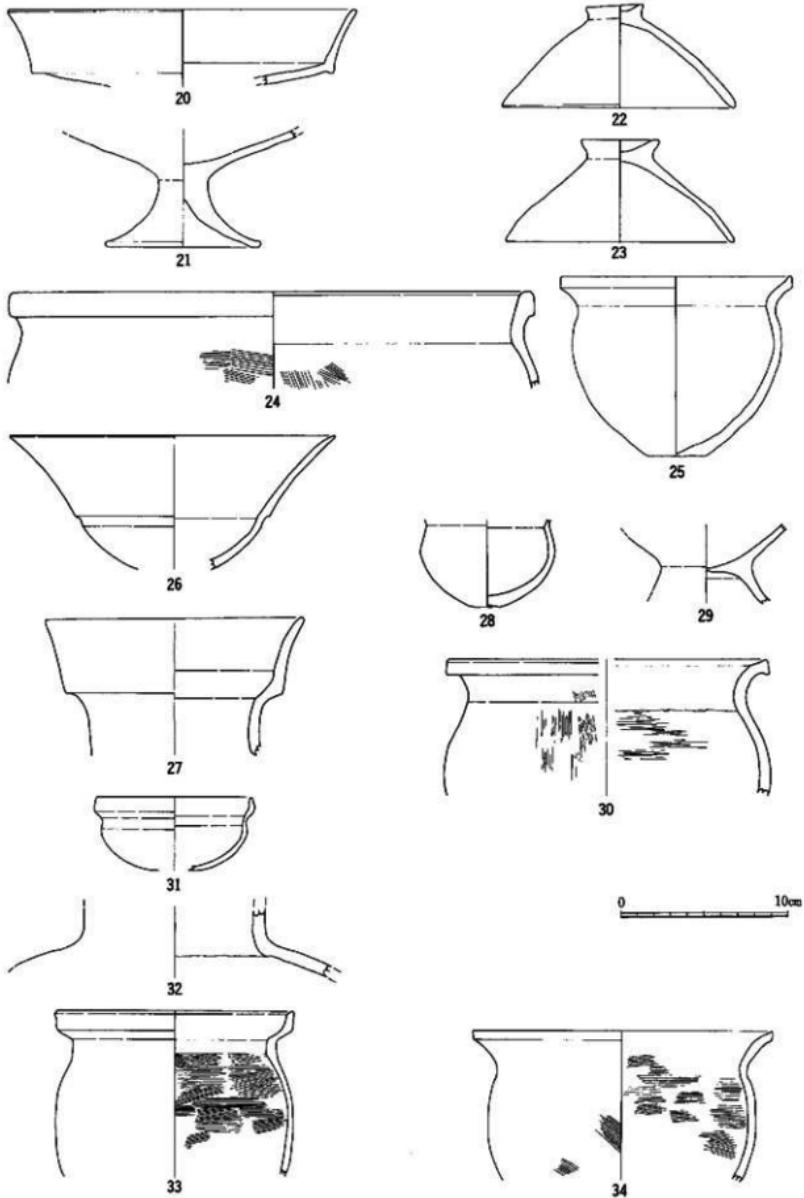
包含層（遺物 第17図）

7・8号溝は古代以降の遺構であるため、90、91、98はこの項で扱うこととする。7号溝はD-1・C-2区の1号竪穴住居の上面に位置する遺構で、脚部部、有段口縁の甕が出土している。8号溝はD-3・B-2・3区にかけて検出した溝で、2・3号竪穴住居と上面で重複している。98の石鏡片は8号溝（B-2区）の覆土中から出土した。石鏡片は斜面に細かな刻み、側面に2段の凹帯をもつ。石質は緑色凝灰岩と思われる。県内では他に鹿島郡鹿西町雨の宮1号墳、金沢市高畠遺跡・藤江C遺跡、羽咋市太田ニシカワダ遺跡で石鏡が出土している。高角遺跡、太田ニシカワダ遺跡ではどちらも玉造りが行われていたと考えられている。本遺跡からは剥片や原石、未製品等の出土はなく玉造りとは関連づけられない。

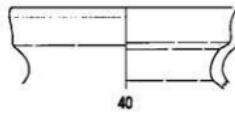
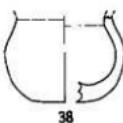
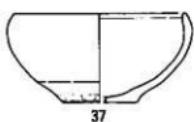
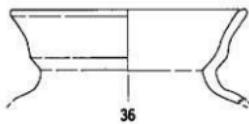
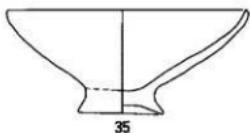
101から115は包含層出土遺物である。101~104のくの字口縁の甕、壺等はB-3区の風倒木跡と思



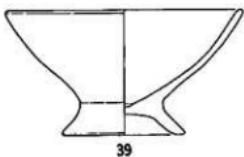
第12図 東小室ボガヤチ遺跡 1号竪穴住居出土遺物 (1) (S=1/3)



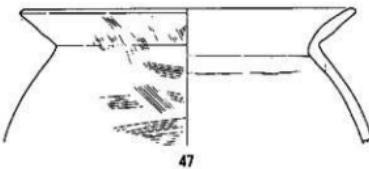
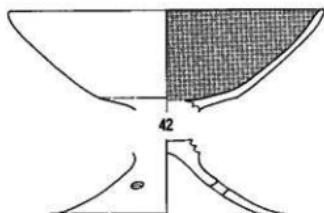
第13図 東小室ボガヤチ遺跡 1号窓穴住居出土遺物〔2〕(S=1/3)



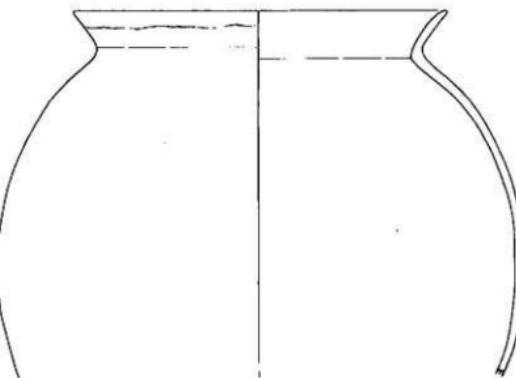
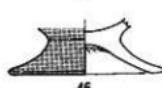
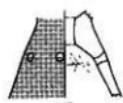
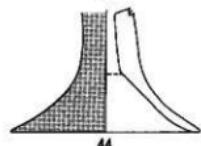
40



41



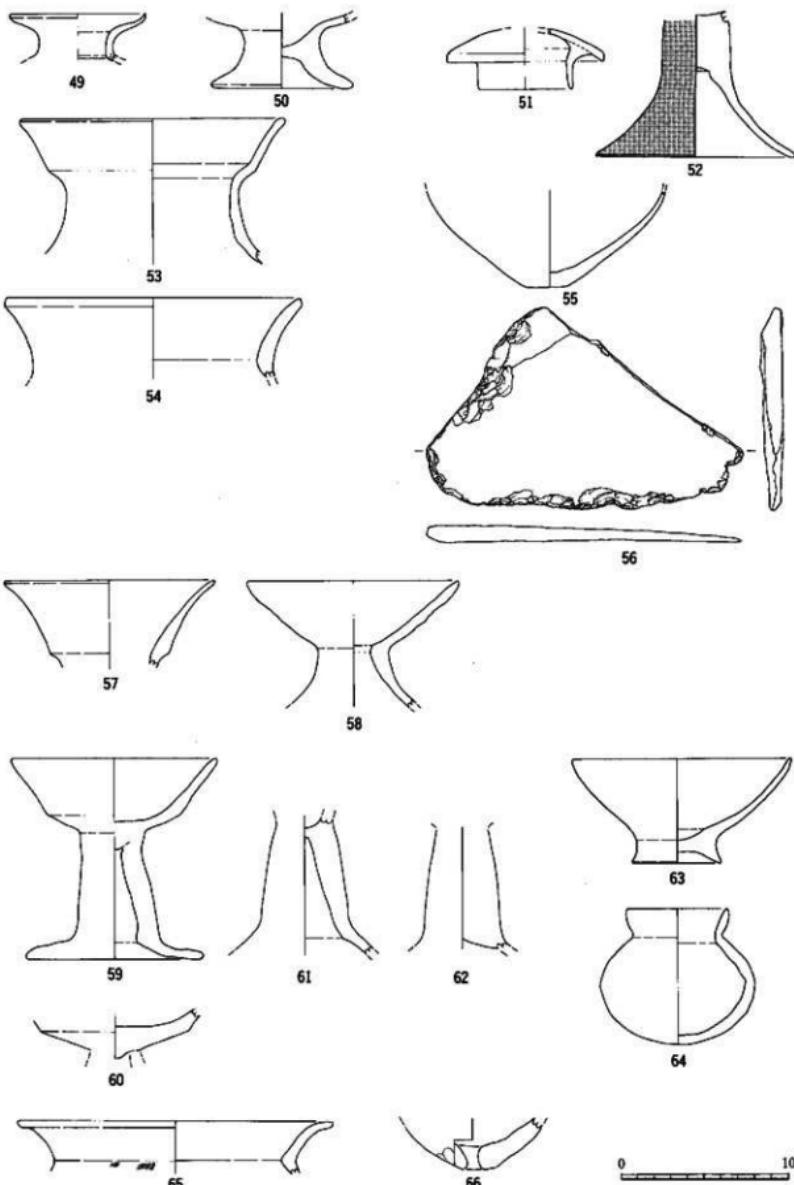
47



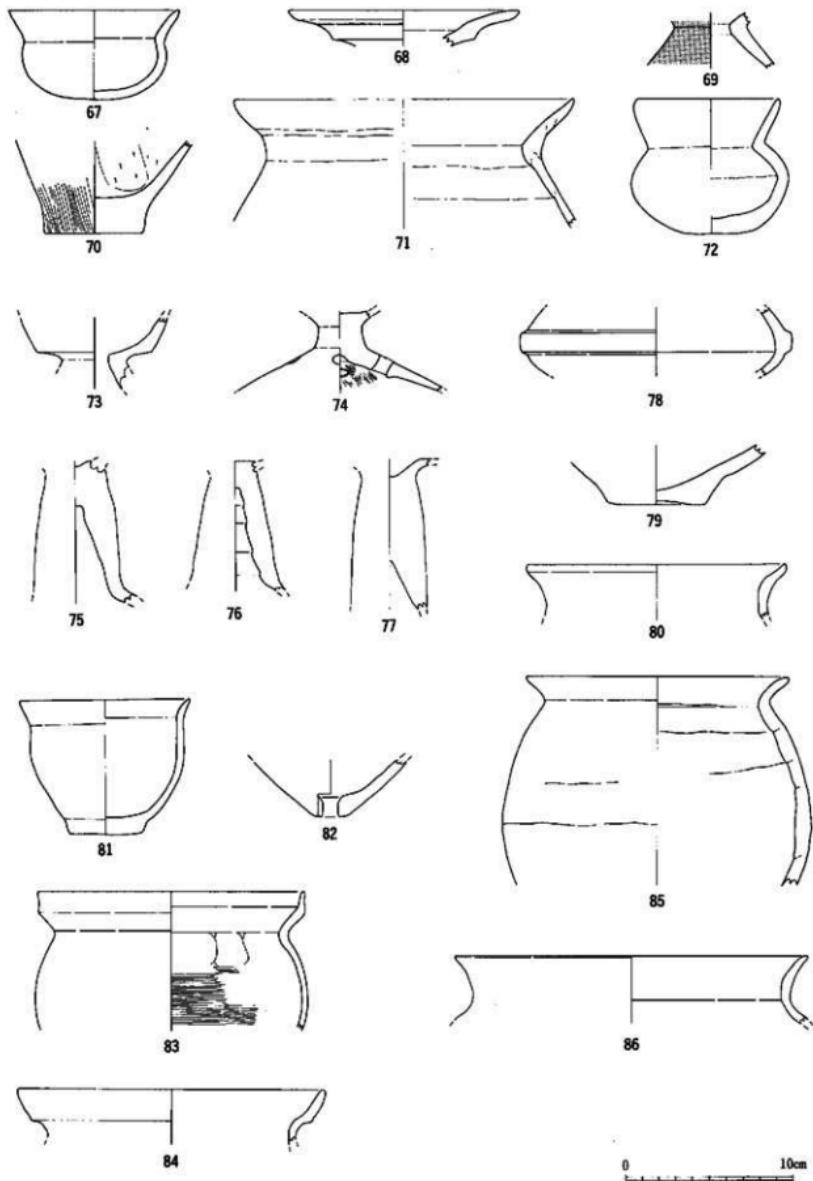
48

0 10cm

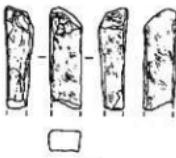
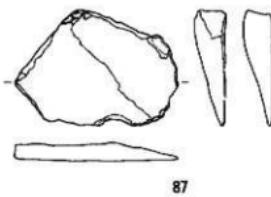
第14図 東小室ボガヤチ遺跡 1号竪穴住居出土物〔3〕(S=1/3)



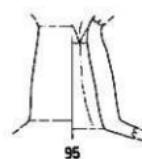
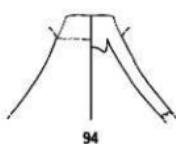
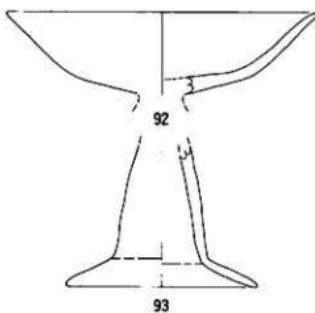
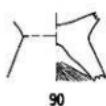
第15図 東小室水ガヤチ遺跡 1・2号竪穴住居出土遺物 (S=1/3)



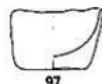
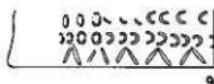
第16図 東小室ボガヤチ遺跡 2・3号竪穴住居出土遺物 (S = 1 / 3)



87-97(± S = 1 / 3)



93



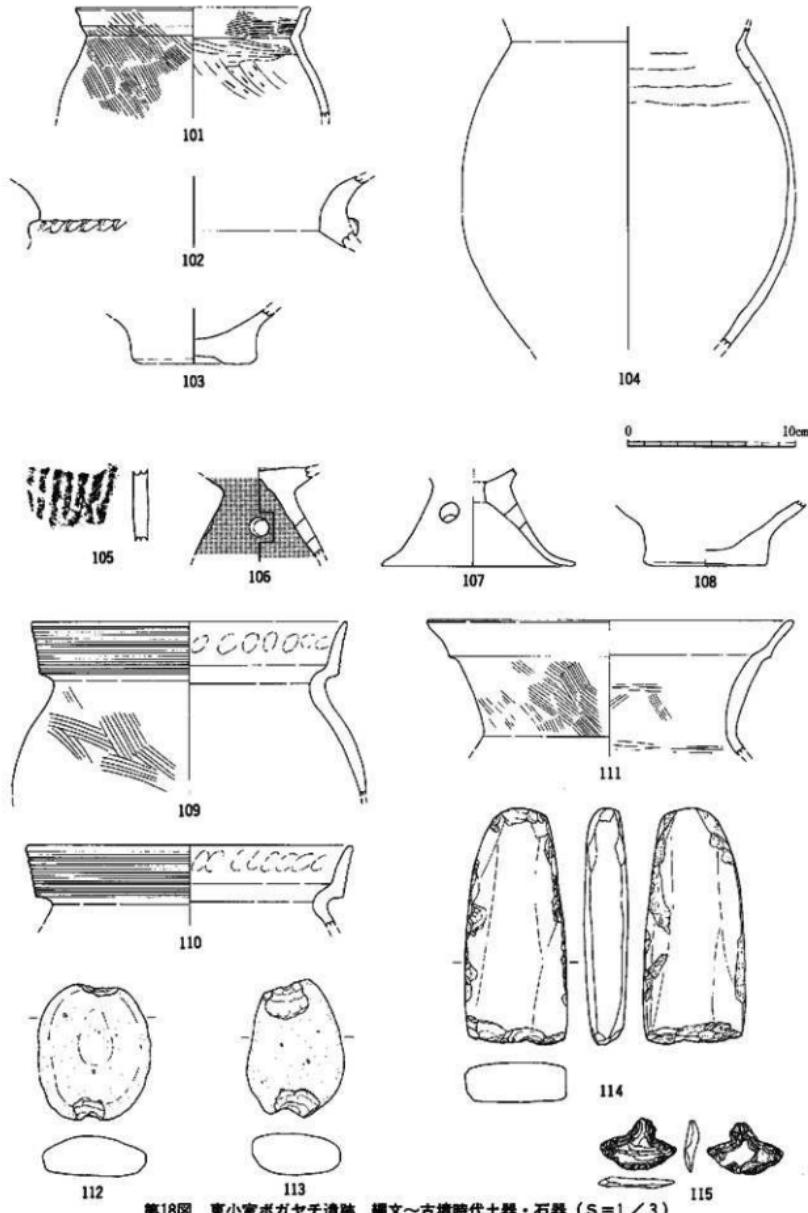
99・100(± S = 1 / 2)

98は厚寸



0 10cm

第17図 東小室ボガヤチ遺跡 2・3号堅穴住居・12号溝他出土遺物 (S = 厚寸、1 / 2・1 / 3)



第18図 東小室ボガヤチ遺跡 繩文～古墳時代土器・石器 (S=1/3)

われる地点から出土した。105は繩文土器である。高杯、器台、擬四線有段口縁で内面に指頭圧痕を残す甕、有段口縁の長頸甕等と、石製品として石錐、磨製石斧、石匙が出土している。

3号穴住居土層（A-B間、C-D間、E-F間）

- | | | | |
|-----|---------------------------------|----|-------------------|
| 1 | 茶褐色砂質土 | 5 | 茶褐色粘質土（やや柔らかい） |
| 2 a | 茶褐色粘質土（地山ブロックを少量含む） | 6 | 暗黄灰色粘質土（固くしまっている） |
| 2 b | 濃茶褐色粘質土（茶褐色ブロックと地山ブロックを含む） | 7 | 暗茶褐色粘質土 |
| 2 c | 濃黄褐色粘質土（地山ブロック主体層、茶褐色ブロックを少量含む） | 8 | 炭化物層 |
| 2 d | 黄褐色粘質土（地山ブロック層） | 9 | 黒灰色粘質土（灰、炭化物層） |
| 2 e | 暗褐色粘質土（地山ブロックを含まない） | 10 | 黒褐色砂質土 |
| 2 f | 暗茶灰色粘質土（地山ブロックを含む） | 11 | 暗茶褐色砂質土（2号住居土） |
| 3 | 暗灰色粘質土（炭化物層） | 12 | 12号溝覆土 |
| 4 | 暗茶褐色粘質土（やや柔らかい） | 13 | 8号溝覆土 |

第2表 東小室ボガヤチ遺跡出土縄文～古墳時代土器計測表

番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号	番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号
1	1号竪 高環	口：14.8	C51		28	1住1A堅 周溝	鉢	底：1.4	C30
2	1号竪 高環	幅：10.0	外赤彩 C62		29	1住1A堅 周溝			C18
3	1号竪 高環	幅：10.2	透かし孔4 C50		30	1住1A堅 pit	縦		C20
4	1号竪 高環		C53		31	1住2堅 鉢	口：9.2		C21
5	1号竪 甕	口：(11.6) 高：4.8	C34		32	1住2堅 床面	壺		C22
6	1号竪 鉢	口：13.4 高：6.5	C32		33	1住2堅 甕	口：14.4		C23
7	1号竪 鉢	口：8.4 高：6.4 底：2.0	C61		34	1住2堅 縦	口：18.0		C24
8	1号竪 甕	口：9.6	C71		35	1住2堅 床面	鉢	口：14.3 高：6.3 底：4.4	C27
9	1号竪 甕	口：14.5	C69		36	1住2堅 周溝上面	甕	口：14.0	C26
10	1号竪 甕	口：15.4	C73		37	1住3堅 鉢	口：10.4 高：5.4 底：4.4		C55
11	1号竪 甕		C72		38	1住3堅 甕	底：4.2		C33
12	1号竪 甕		C97		39	1住3堅 鉢	口：14.0 高：7.6 底：7.3		C56
13	1号竪 甕	口：10.6	C70		40	1住3堅 周溝上面	口：13.6		C98
14	1号竪 焼	口：12.9	C49		41	1住3堅 床面	鉢	口：17.8 高：7.4 底：6.4	C28
15	1号竪 甕	口：16.4	C99		42	1住4・5堅 高環	口：18.8	内赤彩(外赤彩か?)	C54
16	1・2号竪 甕	口：16.2	C39		43	1住4・5堅 高環	幅：14.2	透かし孔3 C64	
17	1号竪 甕	口：19.8	C52		44	1住4・5堅 器台	幅：11.3	外赤彩 C67	
20	1住1堅 高環	口：(21.7)	C100		45	1住4・5堅 あせ		外赤彩 C63	
21	1住1堅 高環	幅：(9.3)	C16		46	1住4・5堅 あせ	底：9.3	外赤彩 C68	
22	1住1堅 甕	口：13.9 高：6.5	C15		47	1住4・5堅 あせ	口：19.7		C65
23	1住1堅 甕	口：(13.6) 高：6.2	C14		48	1住4・5堅 甕	口：22.4		C66
24	1住1B堅 床面	口：31.2	C29		49	1住4・5堅 甕?	口：8.2		C59
25	1住1A堅 床面	口：13.7 高：10.85 底：3.2	C25		50	1住4・5堅 内部	底：8.6		C60
26	1住1A堅 周溝	幅：19.5	C17		51	1住4・5堅 甕	口：5.7		C74
27	1住1A堅 周溝	口：15.3	C19						

番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号
52	1住4-5號 床面	高环	幅:11.8	外赤彩 C76
53	1住4-5號	口?	口:16.0	C57
54	1号4-5號 床面	口?	口:17.6	C58
55	1号4-5號 床面	底部	底:2.8	C75
57	1号室A 土坑B	鉢?		C77
58	1号室A 土坑B	口?	口:12.8	C31
59	2号壁 上層	L: (12.2) 高: 12.15 幅: 10.6		C38
60	2号壁 上層	高环		C43
61	2号壁 上層	高环		C42
62	2号壁 上層	高环		C41
63	2住1號	L: 13.1 高: 6.3 底: 5.3	1号壁2-4c区間深	C35
64	2号壁 上層	口?	口: 6.0	C37
65	2号壁 上層	口?	口: 19.0	C39
66	2号壁 上層	有孔鉢		C40
67	2号壁 下部	鉢	L: 19.3 高: 4.4	C47
68	2住1號 土坑	口?	口: 14.0	C81
69	2住1號 pit2	器台		C80
70	2号壁 下部	底部	底: 5.8	C44
71	2住1號 土坑	甕		C78
72	2号壁 pit3	口?	口: 8.4 高: 8.2 底: 3.0	C79
73	3号壁	器台		C9
74	3号壁	高环		透かし孔4 C2
75	3号壁	高环		C6
76	3号壁	高环		C7
77	3号壁	高环		C5
78	3号壁	甕		C8
79	3号壁	甕	底: 5.8	C13
80	3号壁	口?	口: (15.2)	C4
81	3号壁 溝上面	鉢	L: 10.2 高: 8.2 底: 4.4	C1
82	3号壁	有孔鉢		C10
83	3号壁	甕	口: 15.0	C46
84	3号壁	甕	口: (18.3)	C11
85	3号壁	甕	口: 15.6	C45
86	3号壁	甕	口: (20.8)	C3

番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号
90	7溝	台部		C8
91	7溝	甕	口: 17.0	C7
92	12溝	高环	口: 18.4	C82
93	12溝	高环	幅: 11.4	C83
94	12溝	高环		C12
95	12溝	高环		C84
96	12溝	裝飾器白	L: 24.8	竹管文 C48
97	12溝	手づくね	口: 5.1 高: 3.6 底: 3.9	C85
101	風呂木	甕	L: (14.1)	C88
102	風呂木	甕		尖蒂 C89
103	風呂木	底部	底: 7.4	C87
104	風呂木	甕		C86
105	包B3	禹文		C91
106	表探	高环		内外赤彩 C94
107	拂土中	器台	幅: 11.6	C92
108	包E2	底部	底: 7.3	C90
109	表探	甕	口: (16.8)	外塗付着 C93
110	表探	甕	口: (19.3)	C96
111	表探	甕	口: 21.6	C95

第3表 東小室ボガヤ遺跡
出土石器・石製品計測表

番号	出土地点 ¹	器種	法量(cm・g)	備考・実測番号
18	1号壁B 覆土	石鑿	長: 3.5 厚: 0.8 幅: 2.2 重: 4.7	石10
19	1号壁B 磨り削り	磨製石斧	長: 6.0 厚: 1.95 幅: 4.65 重: 56.0	石5
56	1号壁B 床面	大形石包丁	長: 12.10 厚: 1.35 幅: 19.05 重: 267.6	石1
87	3号壁A 石器	擦り切り 石器	長: 6.95 厚: 1.85 幅: 9.70 重: 92.4	石2
88	3号壁C 砥石		長: (6.1) 厚: 1.70 幅: 1.95 重: 26.9	石7
89	2号壁B 磨り削り		長: 9.4 厚: 1.6 幅: 4.9 重: 85.7	石3
98	8溝	石劍	高: 1.8 厚: 1.1 重: 5.0	
99	12溝	切端車	長: 4.95 厚: 1.25 幅: 33.0 重:	
100	包B2	菅玉	長: 2.05 幅: 0.5 厚: 1.0 重:	
112	包B3 灰色土層	石鍬	長: 8.3 厚: 2.55 幅: 6.8 重: 198.2	石8
113	包C4	石鍬	長: 8.4 厚: 2.5 幅: 5.9 重: 164.3	石9
114	包B3	磨製石斧	長: 14.3 厚: 2.6 幅: 6.1 重: 449.4	石4
115	17号溝	石匙	長: 3.2 厚: 0.8 幅: 4.5 重: 8.1	石6

第3節 古代・中世の造構と遺物

検出された造構は掘立柱建物、溝の他、調査区から離れるが南側の谷頭部で水場造構としたものがある。掘立柱建物は発掘調査中に確認できたものは2棟のみで、他は造構実測図の検討から復元したものである。柱穴がすべて掘り切れておらず、これ以上の建物は復元できなかった。溝は多くが区画および排水溝と思われる。

溝

2～6号溝（造構 第19図、第20図上、遺物 第27図、第28図）

調査区北側に位置する。2号溝が東西方向に延長を持つに対し、他は南北からやや東に振れた方向に延長を持ち、3、5、6号溝は南側で西に緩く曲がっている。この方向の延長はすべてとぎれているが削平によるものと思われる。上面は旧水田の耕作土、床土が覆っている。12世紀後半～13世紀の同一区画の区画溝と思われるが、その変化をうまく捉えることはできなかった。

2号溝は上幅30cm、深さ10cm程で浅いコ字状の横断面形を呈する。覆土は暗灰色の砂質土で、上部が削平され溝下部のみが残っていると思われる。土師器小片が出土しているが、時期の特定はできない。また、他の溝との関係も不明である。

3号溝は溝群の一一番東に位置し、4、5号溝より新しい。上部を水田により削られている。残りの良い所で上幅80cm、深さ20cm程で、横断面はV字状を呈する。覆土は上部が灰色系の粘質土で、下部では淡灰色の粘質土となる。遺物は上部に多く、板材が流れに沿うような方向で出土している。掘り下げ段階では4～6号溝との切り合いか不明で、遺物が混在し時期ははっきりしない。12世紀後半から13世紀代の土師器、珠洲焼、白磁の他、若干の木製品が出土している。

4号溝は調査区北端から7.5m程の所でとがれる。3号溝に東側を切られるため正確な幅は不明だが2m程度と思われる。深さは10cmで、溝底は平坦である。覆土は地山のブロックを含む灰色の粘質土で、土層断面では地山ブロックを含まない6号溝が確認された。上面で礫が出土しており旧水田に係わるものと考えたが、これら溝群のどれかに伴う可能性も否定できない。出土遺物は前述したよう12世紀後半～13世紀代のものが混在している。

5号溝はE-2・3区に3本ならぶ溝の内、真ん中に位置するもので、溝が重なる地点では、3号溝の下位に最深部が残存している様に判断された。覆土は灰色の粘質土とこれを含む地山質土との互層状態が確認された。残りの良い所で上幅30cm、深さ25cm程で、U字状の溝底から上部では開く横断面形となっている。土師器小片が出土している。

6号溝はE-2・3区に3本ならぶ溝の内、一番西側に位置し、北側では3号溝と重なる。土層断面からは4号溝より新しく、3号溝より古いと考えられるが、第20図の木、礫の出土状態を見ると板の並び方が6号溝と連続しており、土層観察を誤っている可能性がある。上幅20cm、深さ10cm程で、逆台形状の横断面形を呈す。図化できた遺物は土師器小皿1点のみであるが、この他、13世紀代と考えられる珠洲焼檜鉢の破片が出土している。

7、8号溝（造構 第19図、第20図中、遺物 第28図）

7号溝はD-1区中央からC-2区中央にかけて南北に延びる溝で、おそらくC-2区中央で西に折れ、さらにC-2区西端で南に折れ、8号溝にY字状に接続すると思われる。8号溝はB-3区中央からB-2区にかけて緩く弧状に延びる溝で、B-2区北端で西に折れている。いずれも暗灰色の粘質土を覆土とし、7号溝は溝底に丸みを持ち、8号溝はやや溝底が平らな逆台形状の横断面形を呈する。上幅は、7号溝、8号溝とも60cm強で深さは7号溝が10cm、8号溝が20cm程である。いずれの

覆土からも12世紀後半頃の土師器小皿が出土している他、8号溝からは石鉄の破片が出土している。

9号溝（遺構 第19図、第21図）

C—2区北側に位置する。後述する1号掘立柱建物の北東コーナーを画するようL字状を呈し、一連のものと思われる。7号溝に切られている。本来的には西、あるいは南に延びるものと思われる。上幅20cm強、深さ10cm程でU字状の横断面形を呈す。出土遺物は時期を判断できるものがない。

10号溝（遺構 第19図、第23図、遺物 第28図）

C—2区と3区の境中央に位置する。後述する3号掘立柱建物の北東コーナーを画するようL字状を呈し、一連のものと思われる。覆土は黒褐色の粘質土で、上幅50cm、深さは5cm程である。9号溝と同様、西、あるいは南に延びるものと思われる。図示した遺物は白磁と須恵器様の甕の破片であるが、この他、產地不明の陶器、土師器小片が出土している。12世紀中葉のものと思われる。

11、13、14号溝（遺構 第19図）

11号溝はB—3区とC—3区の境中央に位置する。13号溝はC—4区北東端中央あたりからC—2区南東端あたりにかけて東西に延びる溝である。11号溝は13号溝の西延長部に位置し、80cm程の東西方向部分を通ぎると、南に緩く弧状に折れ、再び西に延びている。後述する2号掘立柱建物の南東コーナーを画すような位置にあり、一連のものと思われる。両者とも上幅30cm程で深さは11号溝が5cm、13号溝が10cm程である。いずれも黒褐色の粘質土を覆土としている。遺物は図示できるようなものがないが、土師器小片の他13号溝から白磁が出土している。12世紀後半あたりと思われる。14号溝はC—4区と5区の境、やや南西よりに位置し、東西方向に延長を持つ溝で、規模等は13号溝に類似するが、方向は若干ずれている。時期を特定できるような遺物の出土はない。

16、20号溝（遺構 第19図、第26図、遺物 第28図）

C—4区南西コーナー付近に位置する。20号溝は東西からやや西に振れて、16号溝は北東—南西の方向に延長を持つ。20号溝は上幅60cm弱、深さ5cm程で黒褐色の粘質土を覆土とする。東端はやや南に折れている。16号溝との関係は捉えられなかった。後述する6号掘立柱建物の北東コーナー部に位置し、一連のものと思われる。時期を特定できるような遺物は出土していない。16号溝は検出した両端で上幅約1m、中央部がやや南東に張り出し最大で2m20cm程度の幅となる。北東側にも浅い落ち込みがありこれと一連となる浅い落ち込みが切り合っているのかもしれない。深さは、10cm程であるが溝底は一定していない。覆土からは12世紀前半代と考えられる土師器小皿の他、珠洲焼甕、白磁などが出土している。

15、17、19号溝（遺構 第19図）

いずれも南北方向に延長を持つ溝である。15号溝はB—5区北コーナー部に位置する。残りの良いところで上幅30cm、深さ5cm程である。19号溝はC—3区南コーナーからB—4区北コーナー付近に位置する。上幅30cm、深さ5cm程で、覆土は15号溝が灰色、19号溝が黒褐色の粘質土を覆土としている。時期を特定できるような遺物は出土していない。17号溝はB—3区南コーナーあたりからB—4区中央にかけて位置し、南側は工事により壊されている。また、中央部も同様に壊されており連續がうまくつかまえられない。北側がやや広く1.3m、南側では70cm程の上幅で、深さは10cm程度、溝底は平らである。覆土は黒褐色の粘質土で、土師器小片の他、13世紀前半代と思われる珠洲焼擂鉢の破片が出土している。

18号溝（遺構 第19図）

C—5区中央付近に位置する。クランク状を呈し、延長は北西—南東の方向にとる。上幅20cm、深さ5cm程である。土師器小片が出土しているが時期を特定できるものはない。

21～23号溝（遺構 第19図）

北東—南西方向に延長を持つものでC—4区からB—4区北西よりに位置する。いずれも上幅30cm、深さ5cm程で、2mほど間隔をあけ平行している。覆土は灰色の粘質土で、18号溝の延長とは直交する様な方向をとる。

掘立柱建物

1号掘立柱建物（遺構 第19図、第21図、遺物 第29図）

C—2、3区、B—2、3区にまたがって位置する。桁行5間（約13.4m）、梁行2間（約5m）に復元したが、西側は豎穴住居跡覆土に柱穴が彌り込まれており、見落としを考えるとさらに西へ広がる可能性がある。主軸は南北より若干西に振れている。梁行柱間は約2.5m程でばらつきはあるまいが、桁行柱間は中央が約3m、その両側が約2.7m、両端が約2.5mとなっている。柱穴は不整円形を呈するものが多く、径は40cm前後、深さは40cm前後のものが多い。柱穴覆土からは時期を特定できるような遺物の出土はない。

2号掘立柱建物（遺構 第19図、第22図、遺物 第34図）

1号掘立柱建物と同様な地点に位置するが、若干南に位置する。桁行4間（約9.5m）、梁行3間（約7m）に復元した。検出されていない柱穴がいくつかあるが見落としと思われる。桁行列は北側が若干開き気味で、主軸は1号掘立柱建物よりわずかに西に振れている。桁行柱間は北から2本目と3本目がやや狭く約2.2mで、他は約2.4mである。梁行柱間は平均で東側から約2.2m、約2.6m、約2mとなっている。柱穴は不整円形を呈するものが多く、径は30～60cm程度、深さは40cm前後のものが多い。柱穴覆土からは時期を特定できるような遺物の出土はない。

3号掘立柱建物（遺構 第19図、第23図、遺物 第34図）

1号掘立柱建物と同様な地点に位置するが、2号掘立柱建物よりさらに南に位置する。桁行4間（約11m）、梁行3間（約7.8m）に復元した。これも検出されていない柱穴がいくつかある。北側梁行列が南に振れ、北側から2列目の梁行列は逆にわずかに北に振れている。主軸は2号掘立柱建物よりさらに西へ振れている。桁行柱間は東から2列目の柱列で、北から約2.5m、約2.5m、約3m、約2.5mとなっている。梁行柱間は中央列で、東から約2.7m、約2.7m、約2.5mとなっている。柱穴は不整円形のものが多く、径は20～60cm、深さは40cm程のものが多い。柱穴覆土からは時期を特定できるものの出土はないが、P—85から内外面平行叩きの須恵器様の甕の破片が出土しており、10号溝出土のものと同一個体と思われる。

4号掘立柱建物（遺構 第19図、第24図、遺物 第29図、第34図）

前述の3棟とは位置を違えC—3～5区、B—3～5区に位置する。主軸も北西—南東にとる。調査中に確認できたが、南コーナー部のいくつかの柱穴を工事で失っている。桁行6間（約17.4m）、梁行5間（約13.7m）である。桁行柱間は約2.8mでばらつきは少ない。梁行柱間も約2.7mでこれもばらつきは少ない。柱穴は円形を呈するものが多く、径は30～60cm、深さは40cm程度である。柱穴覆土からは土師器小皿、高台付碗の他、灰釉陶器碗、白磁皿などが出土している。

5号掘立柱建物（遺構 第19図、第25図、遺物 第29図、第34図）

4号掘立柱建物と同様な位置にあり、同様な主軸方向をとる。桁行6間（約16.8m）、梁行4間（約10.6m）である。桁行柱間は約2.8mで、北から4間目が3mとやや長く、南東端の1間が約2.5mと

短い。梁行柱間は北東から約2.5m、約2.8m、約2.5mとなっている。柱穴の形態は4号掘立柱建物と同様であるが、規模は一回り小さいものが多い。柱穴覆土からは土師器小皿、椀の他、白磁碗、灰釉の小さな蓋、産地不明の陶器甕などが出土している。4、5号掘立柱建物はそれぞれ6間×5間、6間×4間として捉えたものの、他の柱穴を含め建て替える可能性が窺えこれら以外の構成も考えられる。柱穴出土遺物は5号掘立柱建物が土師器小皿の形態がまとまっているものの、4号掘立柱建物はややばらつきがみられる。年代的には陶器甕を含め11世紀後半～12世紀中葉あたりまでの幅を持っており、柱穴の選定に再考が必要なのかもしれない。

6号掘立柱建物（遺構 第19図、第26図）

位置的には4、5号掘立柱建物と同様な地点に位置するが、主軸は南北にしている。桁行3間（約9.6m）、梁行2間（約5.5m）に復元した。桁行、梁行とも柱間は3m前後であるが、ばらつきが大きい。柱穴は円形のものが多いが、径は20cm～50cmとこれもばらつきがある。柱底部分のみ掘っている可能性を否定できない。P-222から椀あるいは皿の高台の破片が出土している。

柱穴出土遺物（第30図、第34図）

25は椀、あるいは皿の高台部分、27は無台椀の底部で11世紀代のものと思われる。28～34は無台の上師器小皿、あるいは椀で体部がやや外反するのが特徴である。12世紀前半から中葉のものと思われる。35、36は白磁皿、37は白磁碗で11世紀後半～12世紀前半頃のものと思われる。38、40は産地不明の中世陶器、39は珠洲焼と思われるがよく解らない。

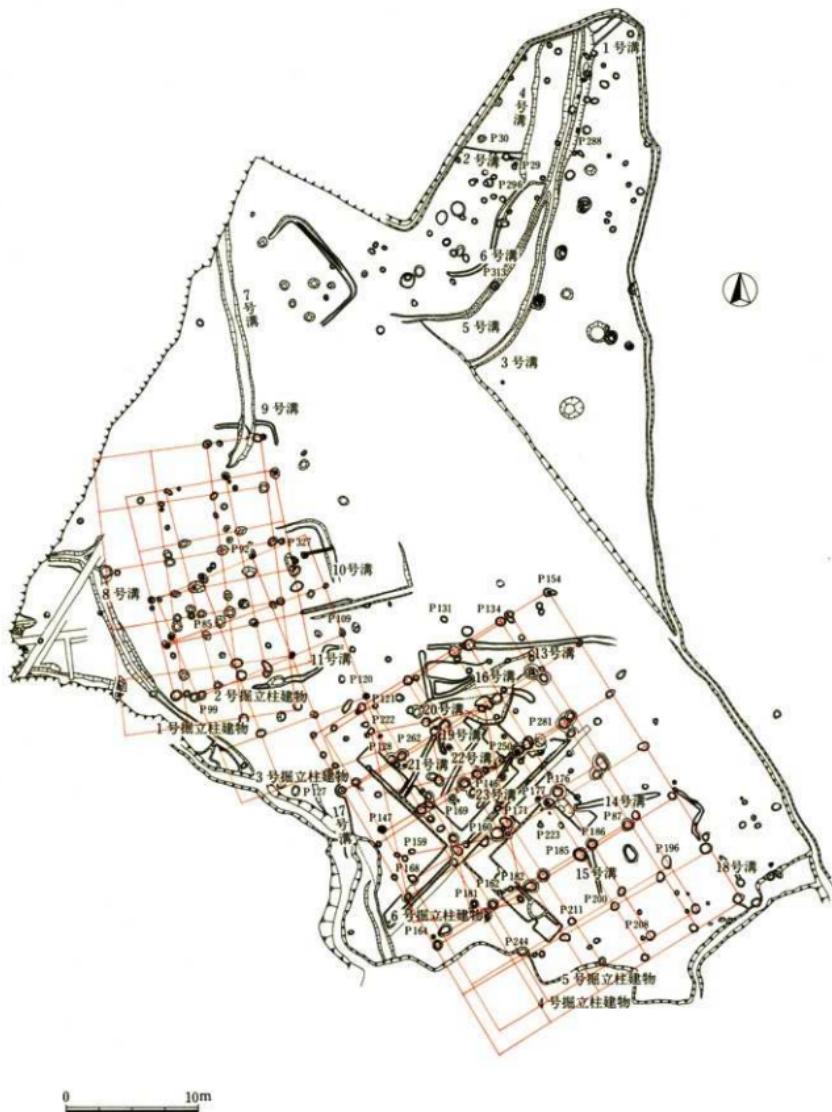
水場遺構（遺構 第20図、遺物 第28図、第33図）

調査区に南側に背後の丘陵の谷間から流れ出る小川があるが、この流れが水田に出るあたりに位置する。工事で削られていた法面から遺物が採集されたことから、流れの右岸側を精査したところ、現流路に対し半円状の落ち込みが確認され、掘り下げるとき柱穴などが確認できた。土層断面を見ると柱穴は灰色の粘土層の上面から切り込まれ、上面には木のケズリかすなどを多量に含む暗灰色の砂混じり粘土層がある。その上面は、大形の礫混じりの砂層や粘土層で覆われている。灰色の粘土層の下位は淡灰色の粘土と砂の瓦層となっている。遺物は土師器皿、珠洲焼壠体の破片の他、箸状木製品、北宋銭（紹聖元寶）が出土している。13世紀代のものと思われる。

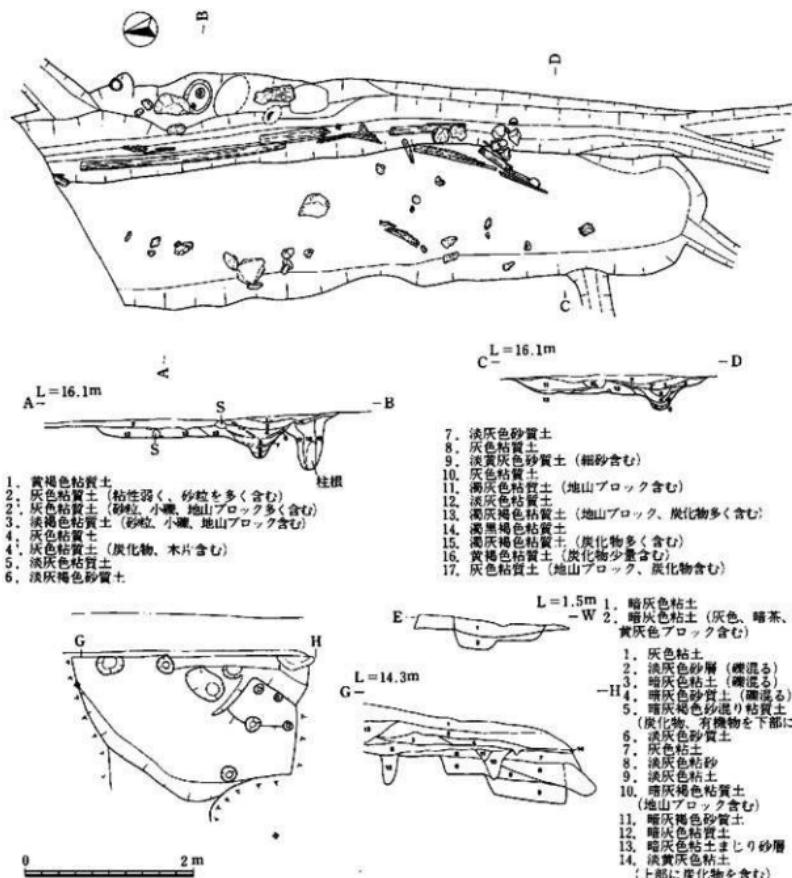
包含層出土遺物（第31～33図）

1～6は須恵器である。坏蓋、無台坏、甕、長頸瓶などがある。おおむね9世紀代のものと思われる。7～10は土師器高台付きの椀、あるいは皿である。11～16は無台の土師器小皿、椀である。体部が外反するのが特徴である。17は柱状高台の付く土師器小皿。これらは12世紀前半から中葉くらいのものと思われる。21～25は灰釉陶器の椀皿類で、11世紀代、28～37は白磁の碗皿類で11世紀末から12世紀後半にかけてのものと思われる。38は天目の椀、39は瀬戸のおろし皿である。ともに14世紀代のものと思われる。

40～45、47、48は産地不明の中世陶器甕で、40～45は格子目、47、48は矢羽状の押印が施されている。12世紀中葉くらいのものと思われる。46、49は珠洲焼甕で14世紀代、50～53は珠洲焼壠体で50～52が13世紀代、53は12世紀末頃のものと思われる。54はよく解らない。56は北宋銭で元符通寶である。

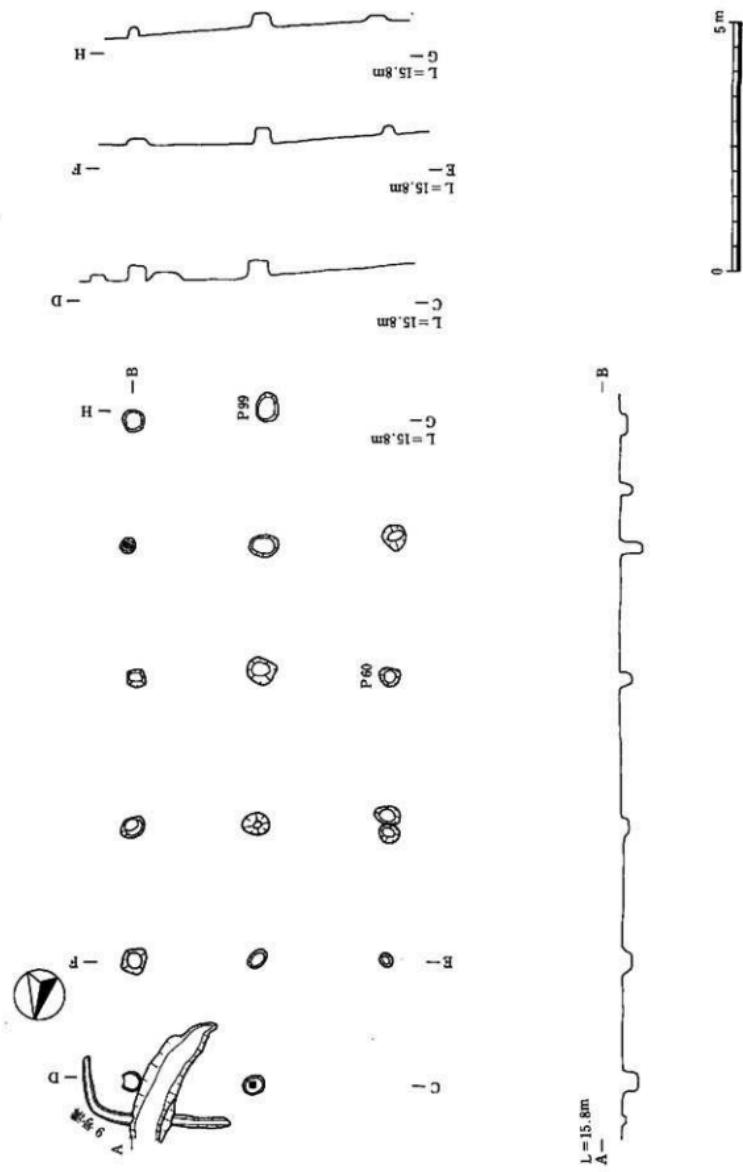


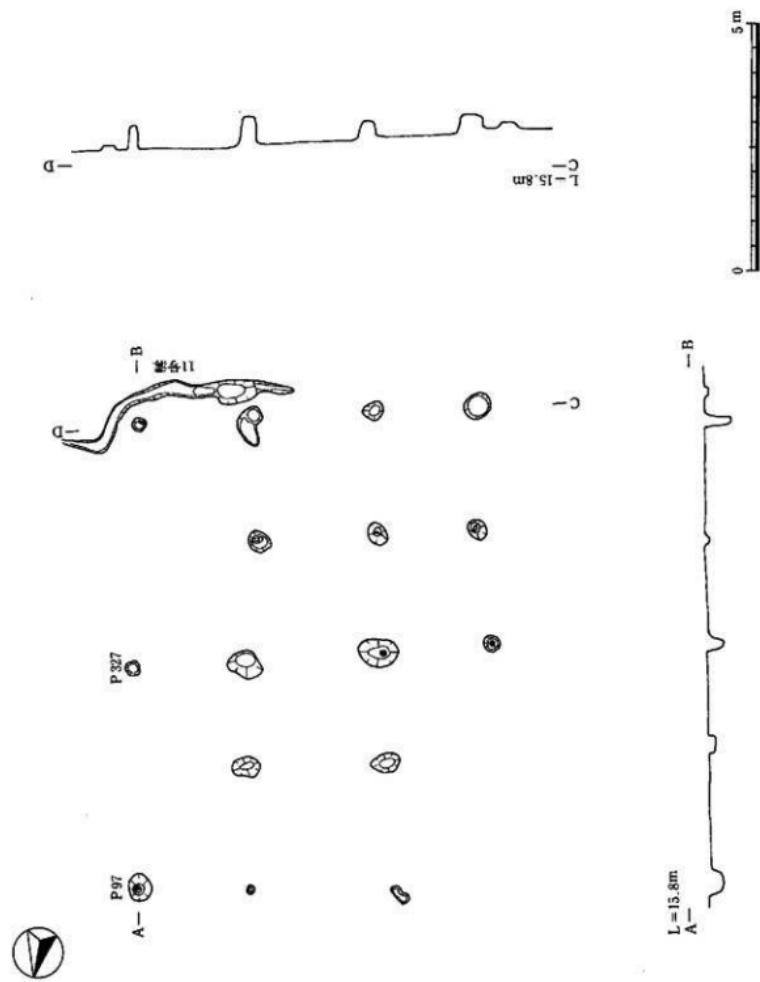
第19図 東小室ボガヤチ遺跡 古代・中世造構分布図 (S = 1 / 240)



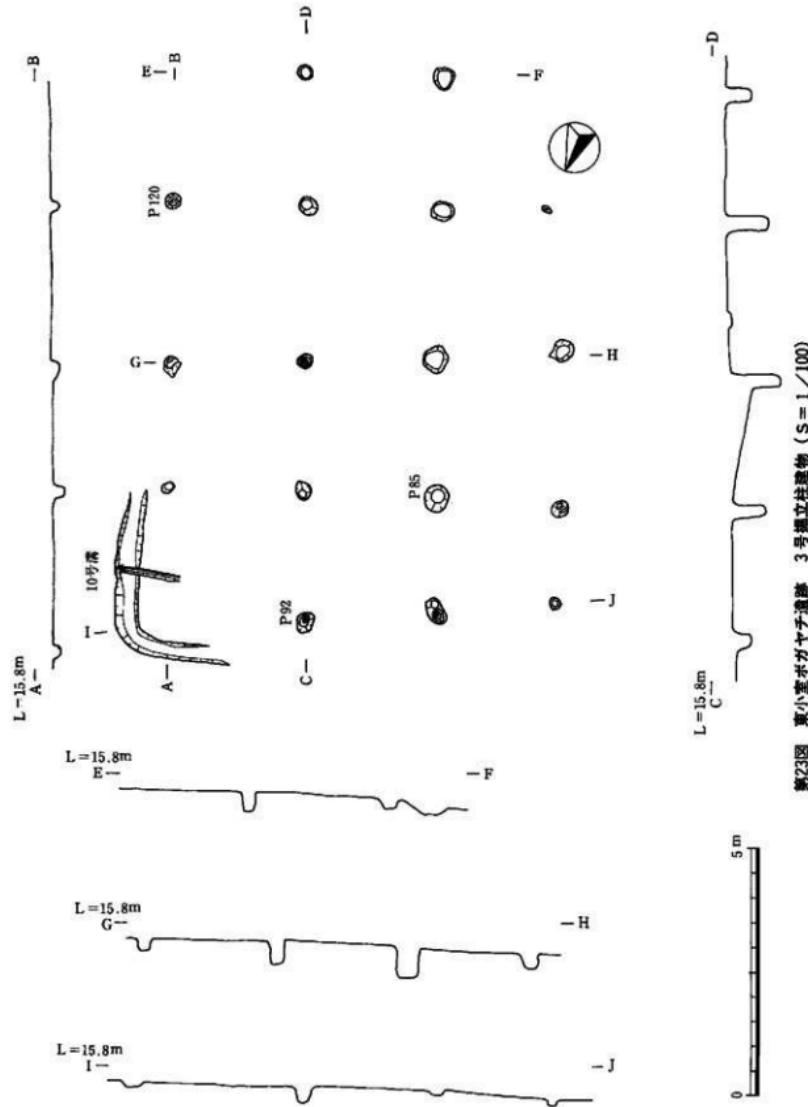
第20図 東小室ボガヤチ遺跡 3～6号溝 木、礫出土状態および土層断面図（上）(S = 1 / 60)
8号溝土層断面図（中）
水場造構造構図（下）

第2圖 東小笠水ガヤ子遺跡 1号獨立柱體物 (S = 1/100)

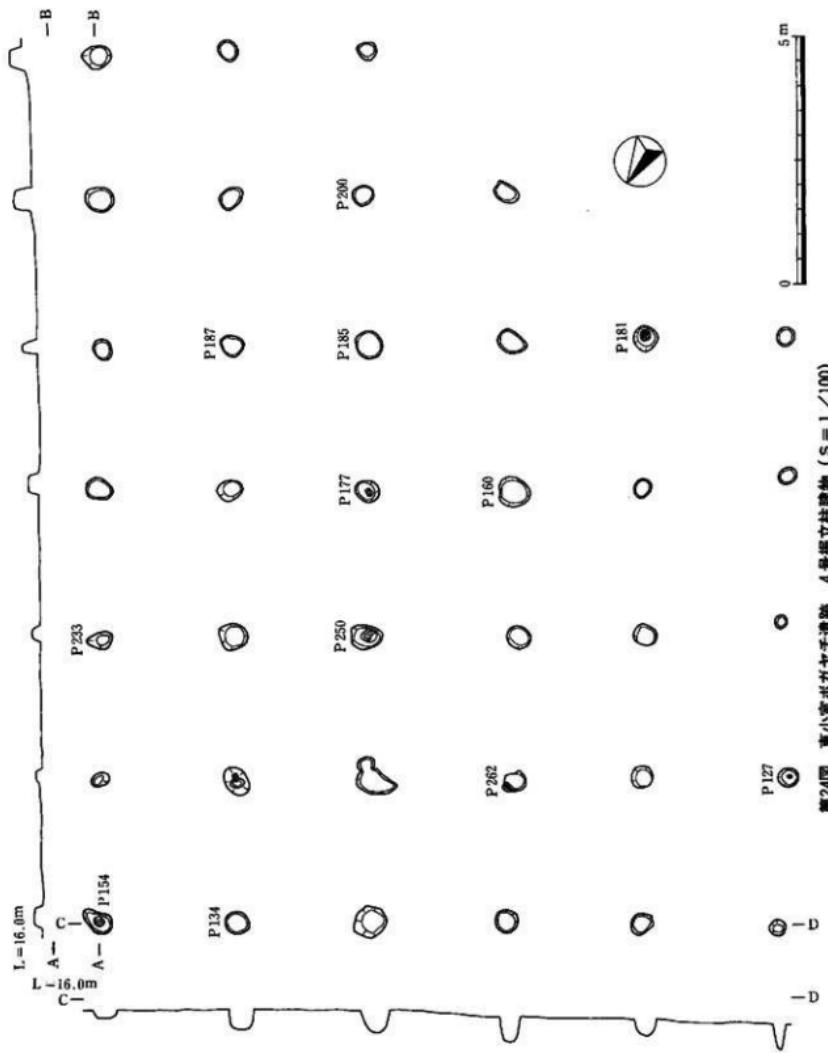




第22図 東小堂水ガヤチ道跡 2号標立柱植物 ($S = 1/100$)

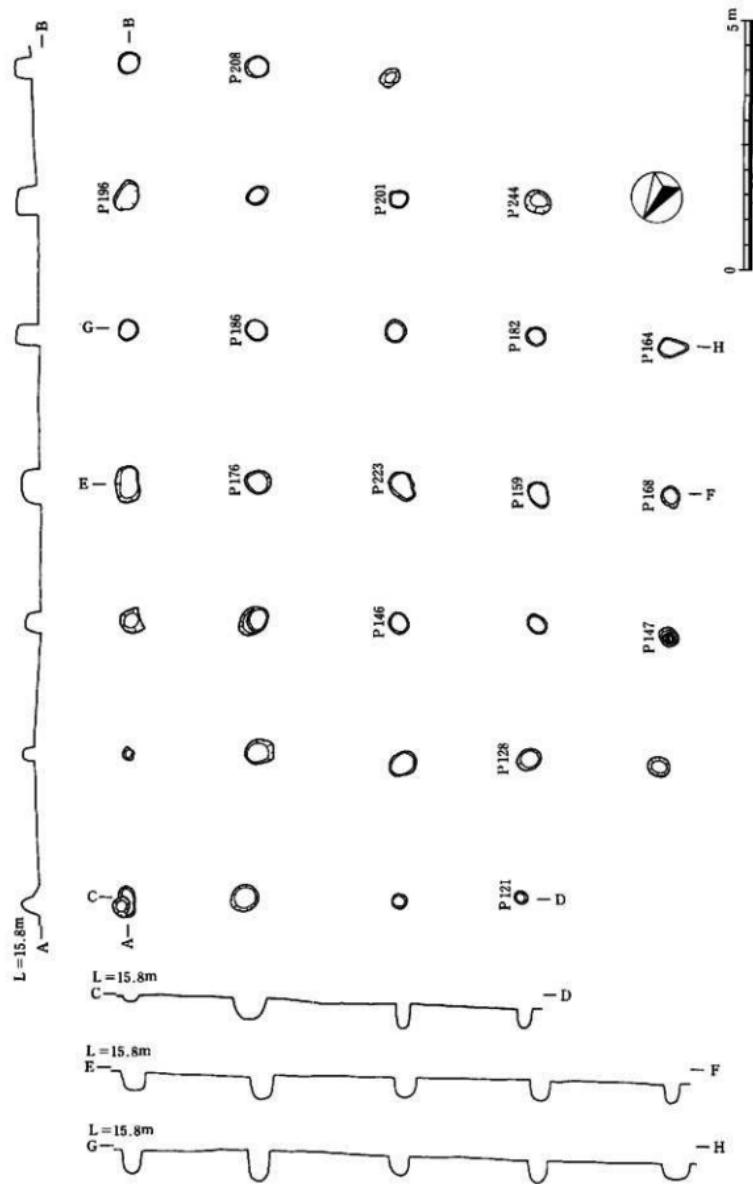


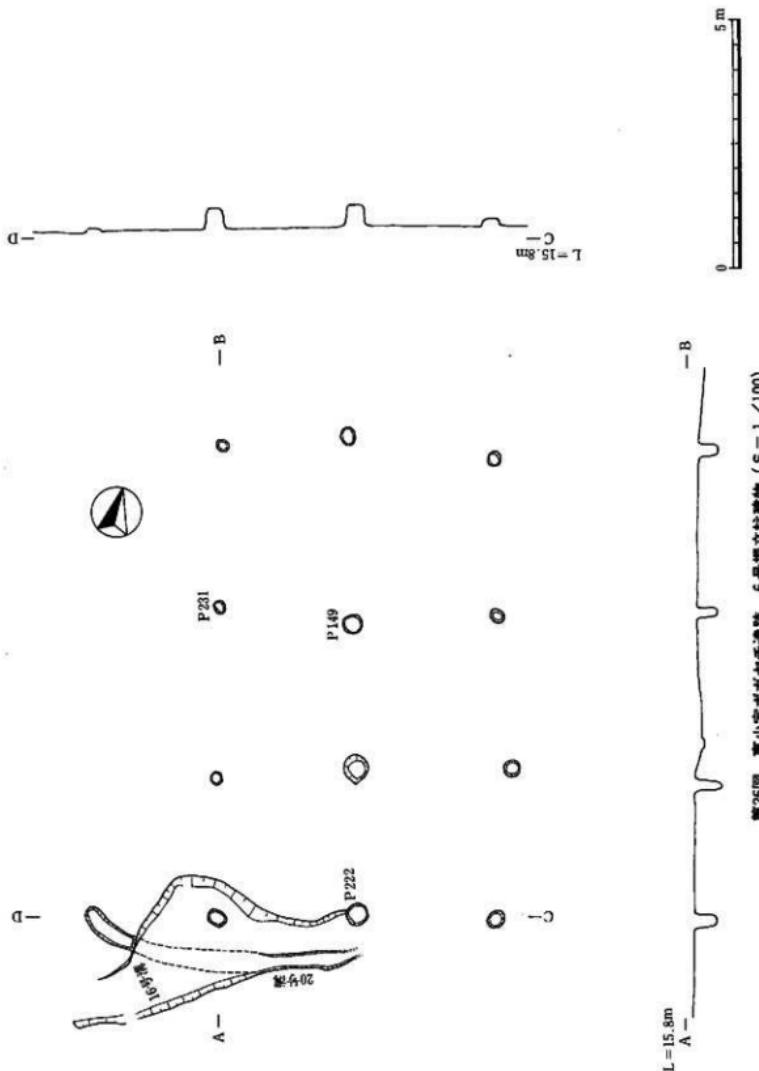
第23図 東小室水ガヤチ遺跡 3号 sondage trench (S = 1/100)



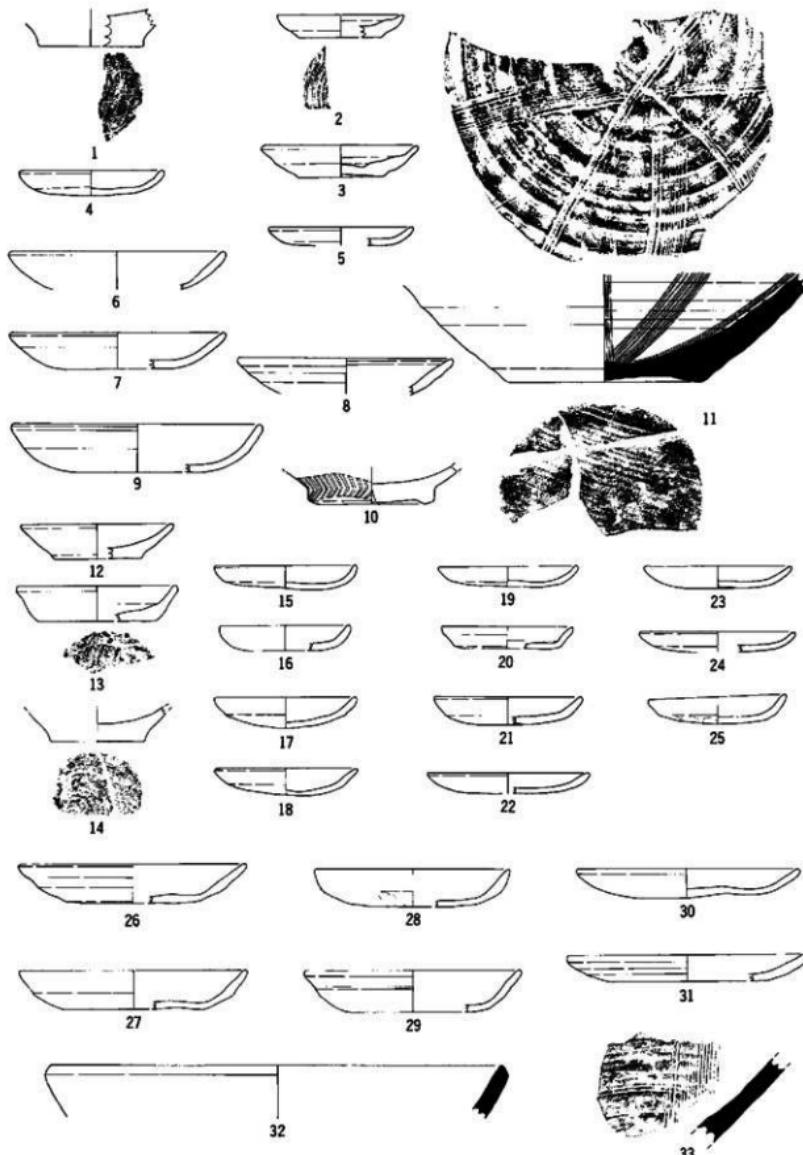
第24図 東小室井ガヤ子遺跡 4号掘立柱遺物 ($S = 1/100$)

第25圖 東小室井戸ヤチ通路 5号掘立柱跡 (S=1/100)

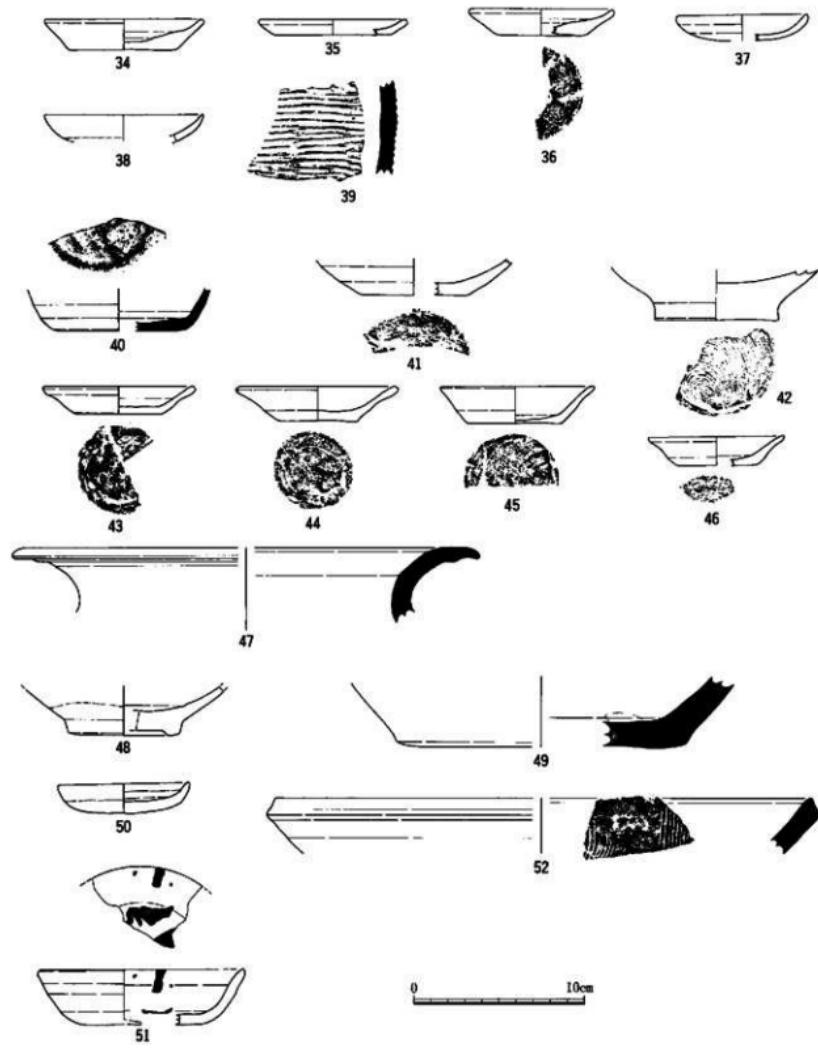




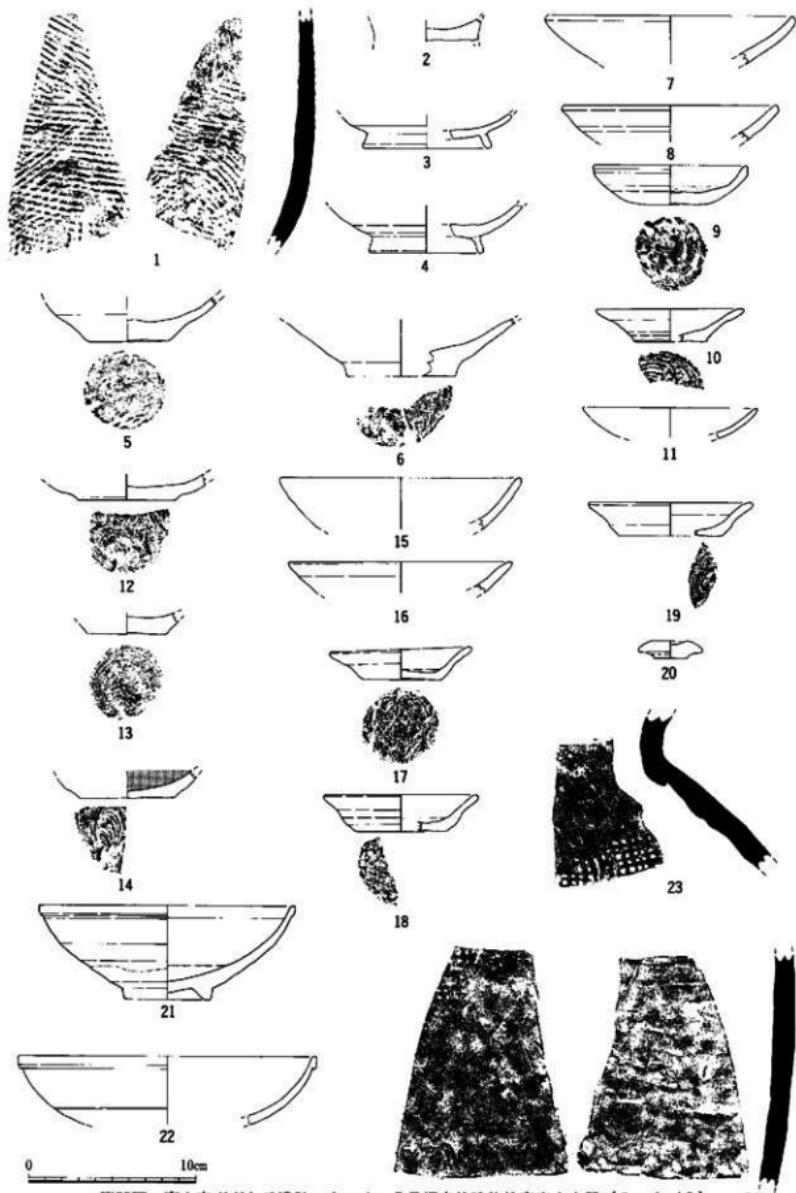
第26圖 東小室水力因子測定 6号掘立柱總物 ($S = 1/100$)



第27図 東小室ボガヤチ遺跡 3、4号窯出土土器 (S=1/3)

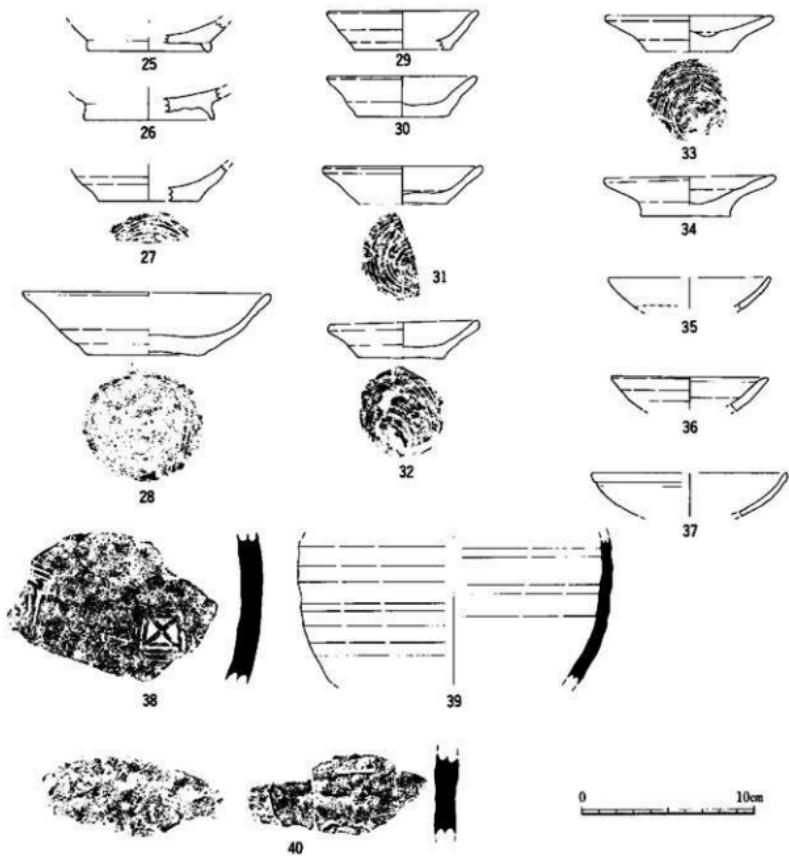


第28図 東小室ボガヤチ遺跡 6～8、10、16、17号溝・水場造構出土土器 (S = 1 / 3)

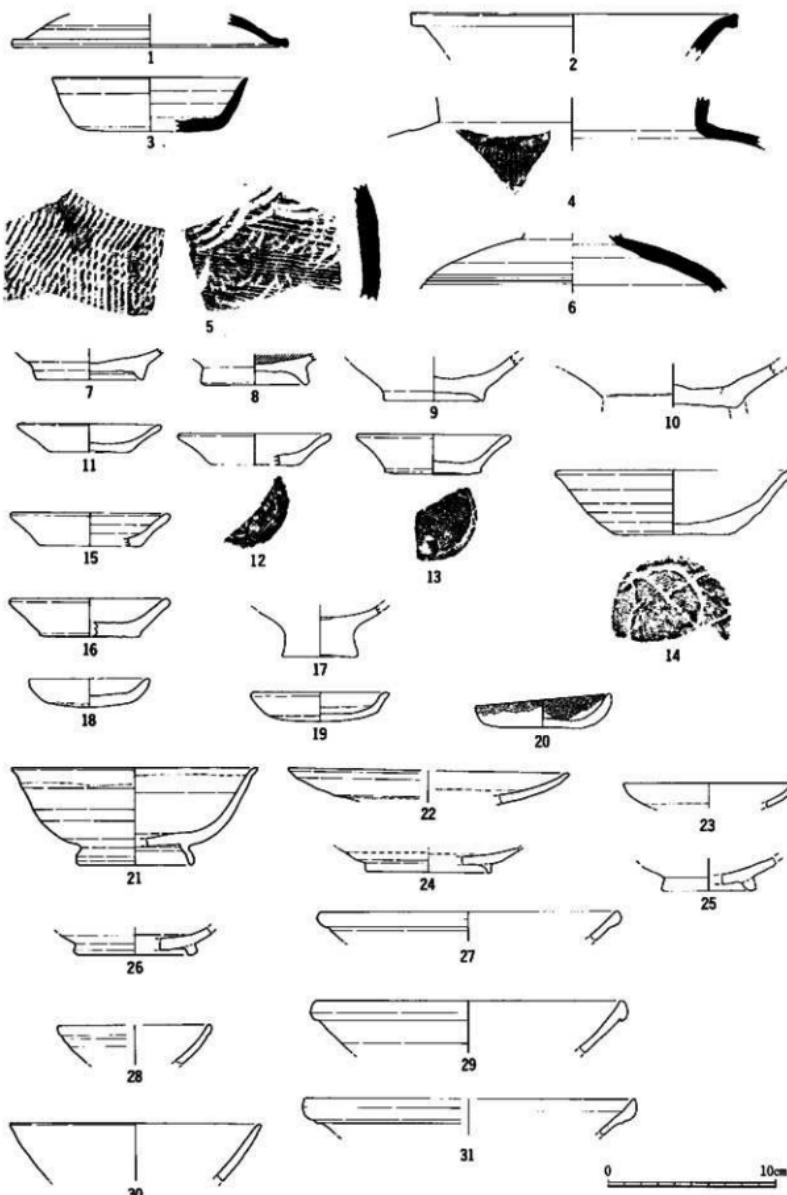


第29図 東小室ボガヤチ遺跡 1、4、5号掘立柱建物柱穴出土土器 ($S = 1/3$)

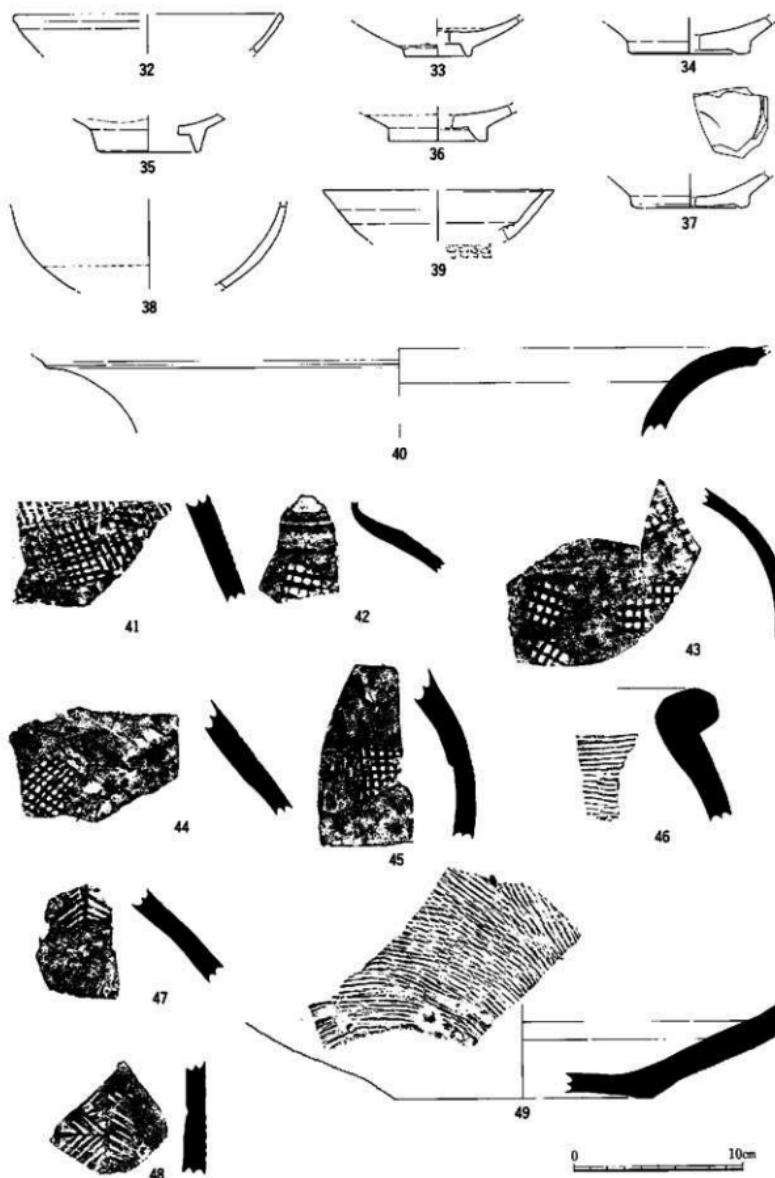
24



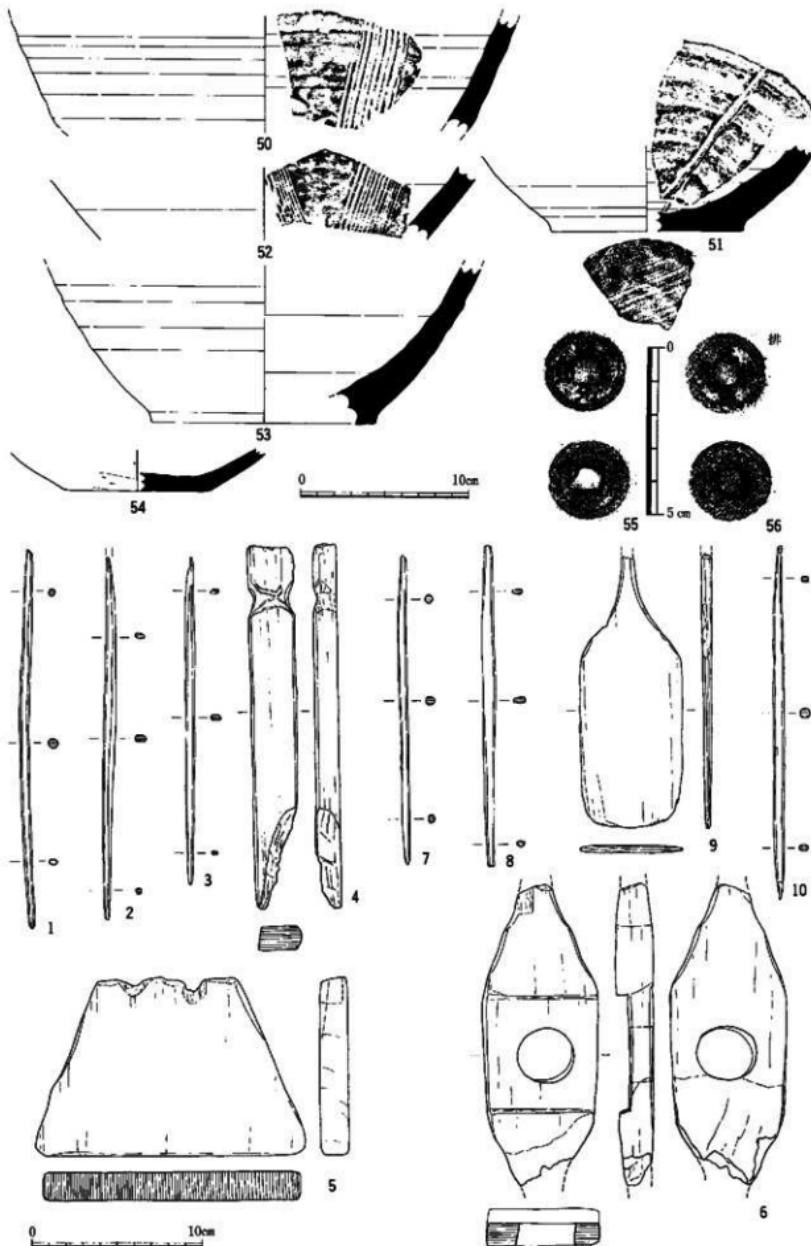
第30図 東小室ボガヤチ遺跡 柱穴出土古代・中世土器 (S = 1 / 3)



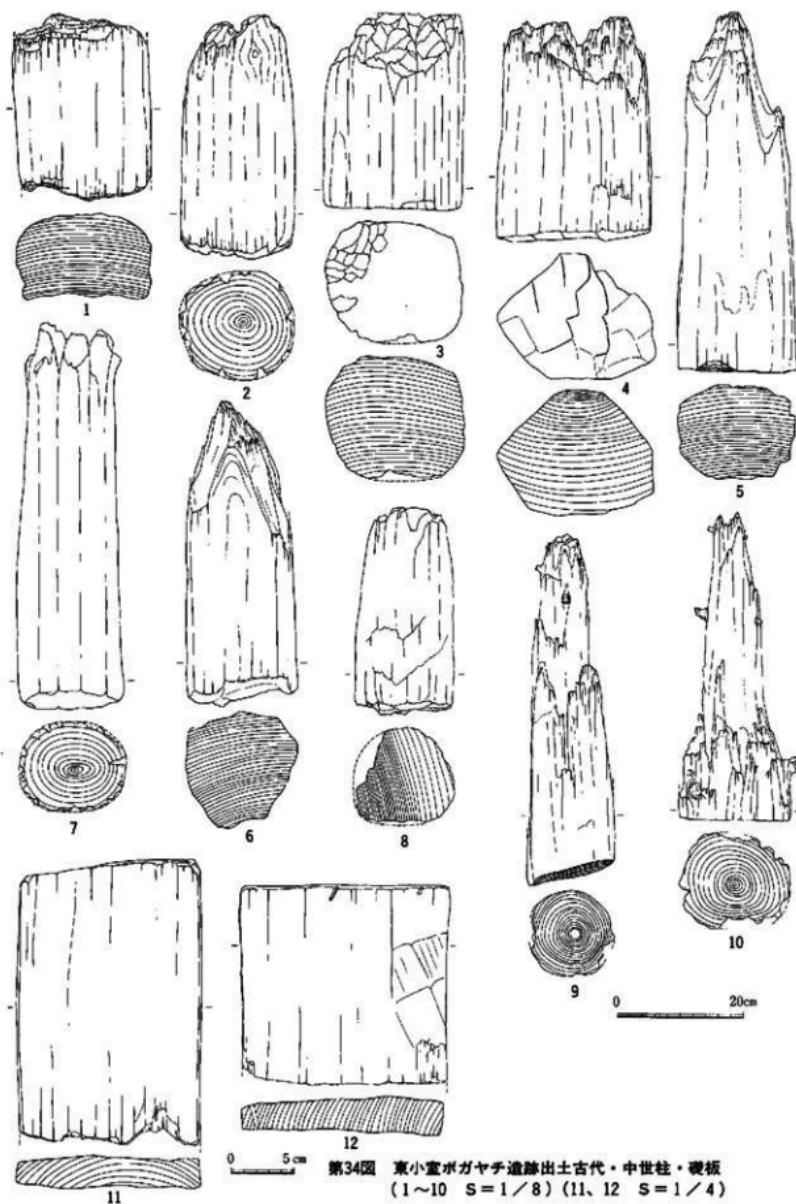
第31図 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世土器〔1〕(S = 1/3)



第32図 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世土器〔2〕(S=1/3)



第33図 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世土器他〔上〕(50~53 S=1/3)(55, 56 S=2/3)
東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世木製品〔下〕(S=1/4)



第34図 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世柱・板
(1~10 S=1/8) (11、12 S=1/4)

第4表 東小室ボガヤチ遺跡 古代・中世 溝、水場造構出土土器観察表

種別 No.	出土地點	器種	法量(cm)		色調 調査	成形	調整 (上位より)	粘土	備考
			口径	器高					
第27回 1	3溝	土師器 桶		6.2	灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂を多く含む	糸切り底
2	3溝	土師器 小皿	7.5	1.4	4.9	良		粗砂較多く焼土塊を 少しまむ	糸切り底
3	3溝	土師器 小皿	9.2	1.9	5.2	陶灰質 陶灰質	良 摩耗の為調整不明	粗砂較多く石英、石 半も少し含む	糸切り底
4	3溝	土師器 小皿	8.4	1.5	5.0	陶灰白 陶灰白	良 陶ヨコナヂ、ナヂ 陶ヨコナヂ、指ナヂ	粗砂較多く海綿骨針 を含む	
5	3溝	土師器 小皿	8.6	0.9	陶灰白 陶灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂、燒土塊をわず かに含む	
6	3溝	土師器 小皿	12.6		陶灰白 陶灰白	良	摩耗の為調整不明	砂粒の進入はあまり 含まない	
7	3溝	土師器 皿	12.6	2.2	陶灰白 陶灰白	良	陶摩耗の為調整不明 陶ヨコナヂ、ナヂ	粗砂を少し含む	
8	3溝	土師器 皿	12.6		陶灰白 陶灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂較多く含む	
9	3溝	土師器 皿	14.6	2.9	陶灰白 陶灰白	良	陶ヨコナヂ、ナヂ 陶ヨコナヂ、指ナヂ	粗砂を含む	
10	3溝	白磁 碗		6.4	陶灰白 陶灰白			粗く気泡を多く含む	
11	3溝	陶製 擂鉢		11.4	陶灰白 陶灰白	良		粗砂較多く海綿骨針 を含む	
12	3・4溝	土師器 小皿	8.9	2.0	5.2	陶粉 陶粉	良 摩耗の為調整不明	粗砂をわずかに含む	糸切り底
13	3・4溝	土師器 小皿	9.2	2.1	6.9	陶灰白 陶灰白	並 陶ヨコナヂ 陶ヨコナヂ	粗砂較多く石英、長 石を含む	糸切り底
14	3・4溝	土師器 机			5.4	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明	粗砂較多く石英、長 石、雲母を含む	糸切り底
15	3・4溝	土師器 小皿	8.3	1.4	7.1	陶灰白 陶灰白	並 陶ヨコナヂ? 陶ヨコナヂ、指頭圧痕?		
16	3・4溝	土師器 小皿	7.5	1.5	4.5	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明	粗砂較多く長石を含 む	
17	3・4溝	土師器 小皿	8.2	1.8	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明		粗砂較多く石英、長 石、海綿骨針を含む	
18	3・4溝	土師器 小皿	8.4	1.6	陶灰白 陶灰白	良 陶ナヂ 陶ヨコナヂ		粗砂を少し含む	
19	3・4溝	土師器 小皿	8.1	1.75 8.05	陶灰白 陶灰白	並 陶摩耗の為調整不明 陶ヨコナヂ、指頭圧痕		粗砂較多く石英、長 石、海綿骨針を含む	
20	3・4溝	土師器 小皿	7.6	1.3	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明		粗砂較多く石英、長 石を含む	
21	3・4溝	土師器 小皿	8.8	1.5	陶灰白 陶灰白	良 陶ヨコナヂ 陶ヨコナヂ、指ナヂ		粗砂を多く含む	
22	3・4溝	土師器 小皿	9.6	1.2	陶灰白 陶灰白	良 陶ヨコナヂ、ナヂ 陶ヨコナヂ、ナヂ		粗砂を少し含む	
23	3・4溝	土師器 小皿	8.6	1.3	陶灰白 陶灰白	良 陶ヨコナヂ 陶ヨコナヂ		粗砂をわずかに含む	
24	3・4溝	土師器 小皿	9.0		陶灰白 陶灰白	良 陶ヨコナヂ、ナヂ 陶ヨコナヂ、ナヂ		粗砂をわずかに含む	
25	3・4溝	土師器 小皿	7.9	1.6	陶灰白 陶灰白	並 陶ヨコナヂ 陶ヨコナヂ、指頭圧痕		粗砂較多く石英、長 石、海綿骨針を含む	
26	3・4溝	土師器 皿	13.4	2.3	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明 陶ヨコナヂ、指頭圧痕		粗砂較多く石英、長 石、雲母を含む	
27	3・4溝	土師器 皿	13.2	2.3	陶灰白 陶灰白	並 摩耗の為調整不明		粗砂較多く石英、長 石、雲母を含む	
28	3・4溝	土師器 皿	11.6	2.2	陶灰白 陶灰白	並 陶摩耗の為調整不明 陶ヨコナヂ、指頭圧痕		粗砂較多く石英、長 石、雲母を含む	
29	3・4溝	土師器 皿	12.7	2.5	7.5	陶灰白 陶灰白	並 陶摩耗の為調整不明	粗砂較多く石英、長 石を含む	
30	3・4溝	土師器 皿	13.0	1.8	陶灰白 陶灰白	良 摩耗の為調整不明		粗砂を含む	
31	3・4溝	土師器 皿	13.8	1.6	9.2	陶灰白 陶灰白	並 陶ヨコナヂ? 陶ヨコナヂ、指頭圧痕		
32	3・4溝	陶製 擂鉢	26.8			良 陶ヨコナヂ 陶ヨコナヂ		粗砂を少し含む	

標図 No	出土地点	器種	法 量(cm)			色調 (No) 内灰 外灰	焼成	調整 (No) 内コナデ 外コナデ	胎 土	備 考
			口径	器高	底径					
第27回 33	3・4 横	珠洲 錠鉢				内灰 外灰	良	内コナデ 外コナデ	粗砂粒多く長石、海 綿骨針を含む	
第28回 34	6 溝	土師器 小皿	9.4	1.8	6.4	内灰 外灰	良	摩耗の為調整不明	粗砂、石英、長石を 含む	
35	7 溝	土師器 小皿	8.6	0.9	7.0	内灰白 外灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂を少し含む	
36	8 清	土師器 小皿	8.3	1.6	5.4	内灰 外灰白 内灰 外灰	良	内コナデ 外コナデ		無切り底
37	8 清	土師器 小皿	7.6			内灰白 内灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂を多く含む	
38	10 清	灰陶 皿	9.3			(混)内灰 外灰 内灰 外灰 オーバー			粗粒気泡を多く含む	
39	10 清	須恵器 甕					不良	西ナデ 内タキ	粗砂、石英、長石少 し含む	端付蓋
40	16 清	須恵器 杯			7.7	内灰 外灰	良		粗砂と少量の繊を長 石、石英を含む	
41	16 清	土師器 碗			6.5	内灰黄 外灰黄	良	摩耗の為調整不明	粗砂多く、石英、長 石、海綿骨針を含む	無切り底
42	16 清	土師器 碗			7.2	内灰黄 外灰黄	良		粗砂多く、石英、長 石、海綿骨針を含む	回転糸切 り底
43	16 清	土師器 小皿	9.4	1.7	5.4	内灰黄 外灰黄	良		粗砂、石英、長石少 し含む	回転糸切 り底
44	16 清	土師器 小皿	9.6	2.1	4.7	内灰黄 外灰黄	良		粗砂多く石英、長石 含む	回転糸切 り底
45	16 清	土師器 小皿	9.0	2.2	5.5	内灰黄 外灰黄			粗砂多く含む	
46	16 清	土師器 小皿	7.9	1.7	4.6	内灰黄 外灰黄			粗砂多く含む	
47	16 清	中世陶器 甕	(26.4)			内灰 外灰	良		粗砂多く石英、長 石と少量の繊を含む	
48	16 清	白磁 碗			6.6	内白 外白	良		黒い粒子含む	
49	16 清	珠洲燒 甕		(4.2)	(17.0)	内灰 外灰	良	内指仕度 外	長石、石英、繩、海 綿骨針を含む	
50	水場	土師器 小皿	7.8	1.8		内灰 外灰	良	内 外コナデ、スリガラス状	粗砂はほとんど含ま ない	
51	水場	土師器 皿	12.0	3.3	7.0	内灰黄 外灰黄	良		粗砂含まない	
52	水場	珠洲 鐵針	(35.6)			内明灰 外明灰	良		粗砂、長石、石英を 少量含む	

第5表 東小室ボガヤチ遺跡 古代・中世柱穴出土土器類癡表

標図 No	出土地点	器種	法 量(cm)			色調 (No) 内灰 外灰	焼成	調整 (No) 内タキ 外	胎 土	備 考
			口径	器高	底径					
第29回 1	P - 85	須恵器 甕				内灰 外灰	並	内タキ 外	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
2	P - 200	土師器 有台盤			6.4	内灰白 外灰白	並	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
3	P - 185	灰陶 有台盤			7.7	混(灰白 陶白)透 明白,透明			気泡が見られる、ち 密ではない 粗砂粒を含む	
4	P - 187	灰陶 有台盤			6.7	内灰 外灰	並		気泡、粗砂粒が見ら れる、ち密	
5	P - 134	土師器 碗			4.9	内浅黄褐色 外浅橙色	並		石英、繩、海綿骨針 を含む	
6	P - 181	土師器 碗			6.5	内灰白 外灰白	不良	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
7	P - 187	土師器 碗	14.6			内灰白 外灰白	小良	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石、海綿骨針を含む	
8	P - 177	土師器 碗	12.8			内灰 外灰	並	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、繩 を含む	
9	P - 249	土師器 小皿	9.2	2.35	3.5	内浅黄褐色 外浅黄褐色		内コナデ 外コナデ	粗砂粒多く石英、繩 を含む	端付蓋
10	P - 134	土師器 小皿	8.8	2.0	4.4	内灰 外灰白	並	摩耗の為調整不明 内コナデ	粗砂粒多く石英、繩、 海綿骨針を含む	

拂因 No.	出土地点	器種	法量(cm)			色調明 徴	焼成	調整(上位より) 等	胎土	備考
			口径	器高	底径					
11	P-160	白磁 皿	10.3			(微)灰白 微灰白透明				ち密で粗砂粒気泡が 少々見られる
12	P-196	土師器 碗			5.8	西灰白 側灰白	並	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石、海綿骨針を含む	
13	P-186	土師器 碗			4.7	西灰白 側灰白	並		粗砂粒多く石英、長 石を含む	塗付着
14	P-201	土師器 碗			5.6	側灰 側灰白	不良	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英を含 む	糸切り底
15	P-186	土師器 碗	14.4			側灰白 側灰白	並	内ヨコナデ? 外ヨコナデ?	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
16	P-146	土師器 碗	13.4			側灰白 側灰白	並	内ヨコナデ? 外ヨコナデ?	粗砂粒多く石英、長 石、基母を含む	
17	P-182	土師器 小皿	8.4	1.8	4.7	西灰 側灰白	不良	側摩耗の為調整不明 内ヨコナデ?	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
18	P-176	土師器 小皿	9.4	2.2	5.6	側灰白 側灰白		内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石、海綿骨針を含む	糸切り底
19	P-159	土師器 小皿	9.6	2.0	6.1	側灰白 側灰白	並	内ヨコナデ? 外ヨコナデ?	粗砂粒多く石英、長 石を含む	糸切り底
20	P-176	灰陶 盤	3.8	1.05	1.9	側灰白 側モリーフ	良		粗砂粒多く礫を含む	
21	P-121	白磁 碗	15.4	5.7	5.2	(微)灰白 側灰白透明	良			
22	P-128	白磁 碗	17.7							気泡が見られる、ち 密である
23	P-164	中世陶器 要				側灰 側灰		内ヨコナデ、指摩痕底 内ケズリ、ナダ、タキ	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
24	P-208	中世陶器 要				側灰 側灰	良	内ヨコナデ、指摩痕底 内タキ、ヘラケズリ	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
第30回	P-223	土師器 有柄碗			7.0	側黒 側灰白	不良	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石、窓母を含む	
	P-222	土師器 有柄碗			7.6	側灰白 側灰白	並	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
	P-109	土師器 碗			6.0	側灰 側灰	並	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石を含む	糸切り底
	P-281	土師器 碗	14.7	3.8	6.8	側灰 側灰	良	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く礫、石英、長 石、燒土、塊含む	
	P-99	土師器 小皿	8.8	2.3	5.8	側灰 側灰	並	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石、窓母を含む	糸切り底
	P-168	土師器 小皿	8.7	2.45	5.4	側灰 側灰	並	摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英を含 む	
	P-296	土師器 小皿	9.2	2.25	5.2	側灰白 側灰白		摩耗の為調整不明	粗砂粒多く石英、長 石を含む	糸切り底
	P-131	土師器 小皿	9.0	2.2	5.1	側灰白 側灰白		内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石を含む	糸切り底 塗付着
	P-169	土師器 小皿	9.5	2.15	4.9	側灰 側灰	並	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石を含む	糸切り底
	P-169	土師器 小皿	9.8	2.4	5.2	側灰 側灰	並	内ヨコナデ 外ヨコナデ	粗砂粒多く石英、長 石、海綿骨針を含む	糸切り底
	P-162	白磁 道	(9.4)			(微)灰白 側灰白透明			粗砂粒が含まれる ら密	
	P-29	白磁 皿	(9.1)			側灰白 側灰白透明			気泡が見られる ら密	
	P-169	白磁 皿	(11.2)			側灰白 側灰白透明 底灰白透明感 あまりない			粗砂粒多くら密	
	P-171	殊無 要				側灰白 側灰白	良		粗砂粒多く石英、長 石を含む	
	P-288	中世陶器 要				側青灰 側青灰	良	内ケズリ 外ナダ?	粗砂粒多く石英、長 石を含む	
	P-109	中世陶器 要				側灰 側灰	良			

第6表 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世土器他觀察表

擇別 No.	出土地点	器種	法 量(cm)			色調 (N)	焼成	調査 (上位より)	胎 土	備 考
			口径	器高	底径					
第31区 1	旧水田	須恵器 蓋	16.4			暗灰 陶板	良		粗砂、長石、石英、 海綿骨針を少含む	
2	旧水田	須恵器 底	19.4			暗灰白 陶灰灰	良	附ヨコナデ 附ヨコナデ	粗砂多く石英、長 石を含む	
3	灰色土層	須恵器 無柄碗	11.7	8.8	3.3	暗灰 陶灰灰	良	附ヨコナデ 附ヨコナデ、ヘラ切	織を少し含む	直ね燒き 灰
4	包含層	須恵器 蓋				暗灰 陶灰	良		粗砂を少し含む	
5	旧水田	須恵器 蓋				暗灰 陶灰	良	附タタキ、カキメ	粗砂多く、長石、石 英も含む	
6	包含層	須恵器 瓶				暗灰 陶灰灰	良		粗砂、長石、石英を 含む	
7	包含層	土師器 有柄瓶		6.4		内黒 陶淡黃澄		摩耗の為調整不明 附オサエナデ	粗砂が多く、 長石も含む	回転糸切 り底
8	包含層	土師器 有柄瓶		6.5		内黒 陶にい豆青 陶にい豆青	良	内内黒 附ヨコナデ	粗砂を含む	
9	灰色土層	土師器 有柄瓶		6.0		暗灰白 陶灰白		摩耗の為調整不明	粗砂多く石英、長 石、雲母を含む	
10	包含層	土師器 有柄瓶				陶淡黃澄 陶淡黃澄		附オサエナデ	粗砂多く長石、石英 含む	回転糸切 り底
11	包含層	土師器 小皿	8.6	1.7	4.8	暗灰白 陶に土け層	並	摩耗により調整不明	粗砂を多く織、石英 を含む	糸切り底
12	包含層	土師器 小皿	9.2	1.9	5.4	陶淡黃澄 陶淡黃澄	並	摩耗により調整不明	粗砂多く織、石英、 雲母(?)含む	
13	不明	土師器 小皿	9.2	2.4	6.0	暗灰白 陶灰白	良	摩耗の為調整不明	粗砂を含む	糸切り底
14	街北た かわり	土師器 瓶	14.2	3.9	6.8	陶淡黃澄 陶淡黃澄	並	摩耗の為調整不明 附ヨコナデ	粗砂を多く織、石英、 地土、織を含む	糸切り底
15	灰色土層	土師器 小皿	9.6	2.0	6.2	暗灰灰 陶淡黃澄	並	附ヨコナデ 附ヨコナデ	粗砂多く織、雲母を 含む	糸切り底 ?
16	包含層	土師器 小皿	9.4	2.3	6.0	陶淡黃澄 陶淡黃澄	良	摩耗の為調整不明	粗砂を含む	
17	包含層	土師器 桂状高 脚小皿			4.5	暗灰白 陶灰白	並	摩耗の為調整不明	粗砂を多く織、石英、 地土、織を含む	糸切り底
18	包含層	土師器 小皿	7.1	1.7		陶淡黃澄 陶淡黃澄	良		粗砂多く石英、長石、 雲母も含む	
19	包含層	土師器 小皿	8.3	1.8		陶淡黃澄 陶淡黃澄	良		粗砂を少し含む	
20	旧水田	土師器 小皿	8.0	2.2		陶灰白 陶灰白	並	内ナデ 附ナデ	粗砂多く石英、海 綿骨針を含む	灯明模様 ?
21	灰色土層	灰輪 底	14.8	5.9	7.0	(深)暗灰白 陶灰白	良	附ヨコナデ 附ヨコナデ、ヘラ切	粗砂を多く織、石英 を含む	
22	灰色土層	灰輪 底	(17.0)			陶灰灰 陶灰オリーブ	良		粗砂を少し含む やや滑らか	
23	包含層	灰輪 底	10.2							
24	旧耕土	灰輪 底			7.7	深(暗)灰白 陶明るいオ リーブ	良			
25	旧水田	灰輪 底			5.3	深(暗)灰白 陶灰白	良		粗砂粒多く、ち密で ある	
26	包含層	灰輪 底			7.5	深(暗)灰白 陶灰白	良			
27	旧耕土	白輪 底	17.7			陶白 陶白	良			
28	包含層	白輪 底	(9.0)			陶白 陶灰白				
29	包含層	白輪 底	18.3			陶白 陶灰白	良			
30	不明	白輪 底	15.0			陶淡黃 陶淡黃			輕松、氣泡を含む、 粗い	
31	灰色土層	白輪 底	(20.0)			陶灰白 陶灰白	良			
32	旧耕土	白輪 底	(16.0)			陶灰オリーブ 陶灰オリーブ	良			

探査 No	出土地点	器種	法 量(cm)			色調 (約) 白色 白	焼成 良	調整 (上位より) 約カキトリ 約ナリメン	地 土	備 考
			口径	器高	底径					
33	表探	白磁 碗		4.0		白色 白	良	約カキトリ 約ナリメン		
34	包含層	白磁 碗		7.2		白色 白				
35	包含層	白磁 碗				白色 白 約ホーリー灰		約ヨコナデ 約ヨコナデ		
36	包含層	白磁 碗		3.9		白色 白 約ホーリー灰	良			
37	包含層	白磁 碗		7.0		白色 白 白色			気泡を多く含む	
38	包含層	灰目 碗				約赤黒 約赤黒	良			
39	包含層	椎戸 おろし盤	(13.8)			白色 白 約ホーリー灰				
40	包含層	中世青苔 甕				約暗灰 約暗灰	良		粗砂多く石英、長石 が含まれる	
41	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂ごく少量含む	
42	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂、長石、石英含む	
43	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂、長石、石英、 海綿骨針含む	
44	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂少々と長石、石 英含む	
45	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂少々と長石、海 綿骨針含む	
46	旧耕土	珠潤輪 輪	(8.0)			約黄灰 約暗灰	良	約ハクリ 約タタキ	粗砂多く長石、石英 含む	
47	旧耕土	中世青苔 甕				約灰 約灰	良		粗砂少々と長石、石英 含む	
48	包含層	中世青苔 甕				約灰 約灰	良	約ケズリ、ヨコナデ	織を多く含む	
49	不明	珠潤 輪	(5.8)	15.2		約暗灰 約暗灰	良	約タタキ、ナテ 約タタキ	粗砂、長石、石英含 む	
第33区 50	旧耕土	珠潤 輪				約灰色 約淡黃			粗砂、長石、石英、 燒土塊を含む	
51	旧水田	珠潤 輪		11.3		約暗灰 約暗灰	良		粗砂多く長石、石英、 海綿骨針含む	糸切り痕
52	旧水田	珠潤 輪				約灰 約灰	良		粗砂少々含む	
53	表探	珠潤 輪		13.3		約灰 約灰		約ヨコナデ 約ヨコナデ、ナテ	粗砂粒多く長石含む	
54	包含層	須恵器 鉢		7.6		約灰 約灰		約ヨコナデ 約ケズリ、ヨコナデ	織を含む	
55	水場遺構	頬窓元寶	2.4							1094年 北宋鐵
56	耕土中	瓦片遺寶	2.4							1098年 北宋鐵

第7表 東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世木製品計測表

拂区No	出土地点	名 称	法 量	備 考
第33図 1	3・4号溝	箸	22.3 × 0.6 × 0.5	
2	3・4号溝	箸	(21.4) × 0.6 × 0.4	
3	3号溝	箸	19.4 × 0.5 × 0.35	
4	3号溝	不 明	(21.6) × 2.6 × 1.3	一部炭化している
5	4号溝	下駄の齒	(10.6) × 15.9 × 1.7	
6	3・4号溝	糸巻き横木	(17.9) × 6.8 × 2.2	一部炭化している
7	不 明	箸	18.3 × 0.5 × 0.4	
8	"	箸	19.0 × 0.7 × 0.3	漆付着?
9	"	ヘラ状木製品	(16.1) × 6.0 × 0.6	
10	水 場	箸	21.0 × 6.0 × 0.5	

第8表 東小室ボガヤチ遺跡出土柱・礎板計測表

拂区No	出土地点	名 称	法 量	備 考
第34図 1	Pit 250	柱	(30.3) × 21.8 × 13.0	4号掘立柱建物
2	Pit 181	柱	(39.4) × 18.4 × 17.7	4号掘立柱建物
3	Pit 154	柱	(31.5) × 22.5 × 19.7	4号掘立柱建物
4	Pit 147	柱	(36.3) × 24.2 × 20.5	5号掘立柱建物
5	Pit 107	柱	(58.6) × 18.8 × 15.3	3号掘立柱建物
6	Pit 92	柱	(49.7) × 17.7 × 14.9	3号掘立柱建物
7	Pit 30	柱	(62.8) × 17.3 × 14.6	
8	Pit 120	柱	(33.4) × 15.9 × 15.2	3号掘立柱建物
9	Pit 313	柱	(57.0) × 13.8 × 14.0	
10	Pit 327	柱	(49.9) × 17.7 × 14.5	2号掘立柱建物
11	Pit 262	礎 板	13.4 × 4.9 × 2.7	4号掘立柱建物
12	Pit 262	礎 板	16.3 × 17.0 × 3.0	4号掘立柱建物

第9表 東小室ボガヤチ遺跡 1号住出土石計測表

出 土 地 点	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 さ (kg)	石 質	備 考
1住 フク土		20.5	11.4	5.3	1.46		
1住 周溝上面		19.3	9.0	7.0	1.92		
1住 2, 3 フク土 床直		23.0	9.6	5.7	1.74		
1住 周溝上面		20.5	9.9	5.5	1.70		
1住 周溝上面		19.0	10.1	7.5	1.95		
1住 周溝上面		20.2	10.3	6.5	1.94		
1住 周溝上面		16.2	7.0	6.1	0.87		
1住 周溝上面 麗清フク土上部		(16.9)	10.9	6.0	(1.6)		
1住 周溝上面		22.0	9.8	6.0	1.78		
1住 周上フク土上部		19.0	8.3	8.2	2.10		
1住 周溝上面		21.9	8.9	8.7	2.07		
1住 フク土周溝		21.3	8.4	8.6	2.15		
1住 周溝上面		18.2	9.8	7.0	1.72		

東小室キンダ遺跡

第1節 調査の概要（遺構 第35～40・43図）

本遺跡は東小室集落北の平地に立地し、標高は7.5～6.5mを測る。調査区は東小室の集落寄りに田面工事部分を面的に、またこの調査区の南東角から北へ2m幅のトレンチ調査区を設けた。トレンチ調査区は南からA、B、Cトレンチと呼称した。面的に広げた部分では調査区に合わせて任意に10mグリットを設定して進めた。北東一南西方向をアラビア数字列とし南から北へ昇らせ、南東一北西方向をアルファベット列とし南から北へ昇らせた。各区画を南側格子状名で呼称した。

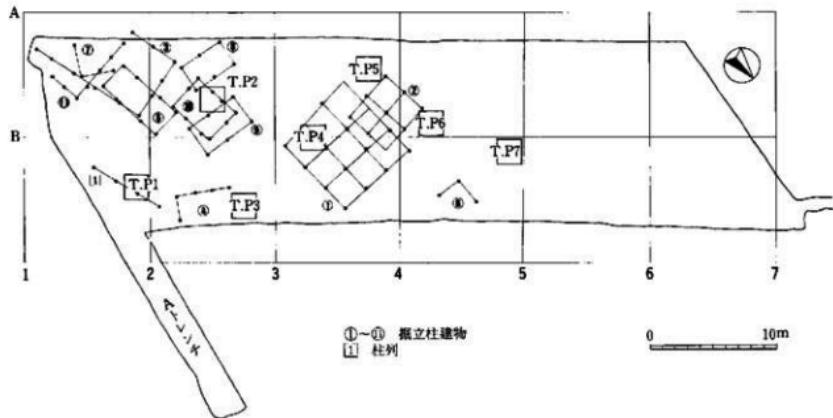
遺構はグリット調査区の東半部に集中し、掘立柱建物、土坑、溝、水田畦畔状遺構等を検出した。遺跡は南東の県道下や南側のは場整備済みの箇所にも伸びていくようである。遺物は縄文一中世までものが出土している。縄文時代、弥生時代の遺物は出土量が少なく、またその時期に相当するような遺構は確認できなかった。トレンチ調査区では遺構・遺物とも稀薄で、Aトレンチでは東壁沿いに溝状遺構（幅32～64cm、深さ10cm前後）の片側の落ち込みと深さ10cm前後の浅い小穴を数ヶ所検出した。Bトレンチでは北側で溝状遺構（幅約110cm、深さ5～10cm）と浅い小穴を、Cトレンチでは中央部に溝状遺構（幅40cm以上、深さ10cm前後）を検出した。調査最終段階では、グリット調査区に2×2m程の試掘坑（T.P1～7）を7ヶ所設けて下層確認調査を行った。

第2節 縄文～古墳時代の遺構と遺物

溝

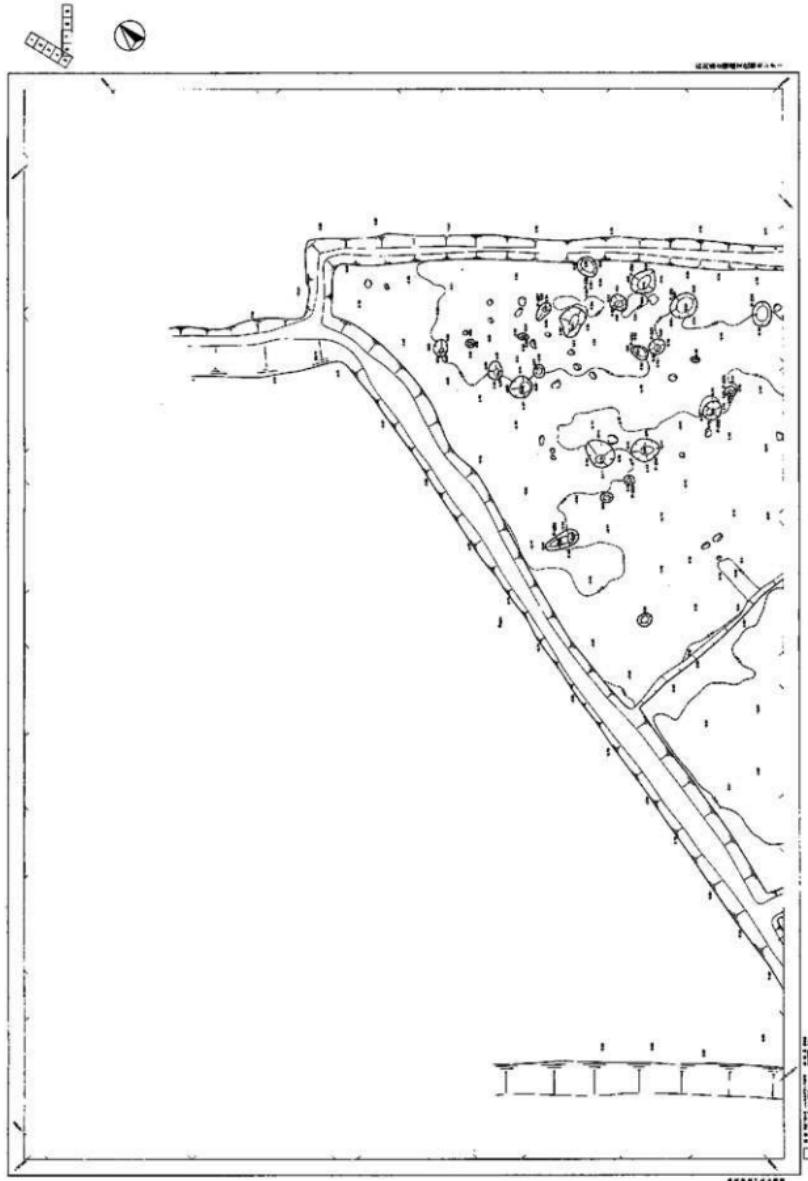
4号溝（遺構 第39、40図、遺物 46、47図）

B-1・2区に位置し、北西方向に延長をもつ。幅2.8～3.2m、深さ13cm程で横断面は緩い弧状を呈す。覆土は炭化物粒を含む灰褐色粘質土である。遺物の出土量は多く、布留式の甕、山陰系有段口縁の甕、くの字口縁の甕、鉢、蓋、小型器台等が出土しており、遺構の時期は古墳時代初頭頃と思われる。

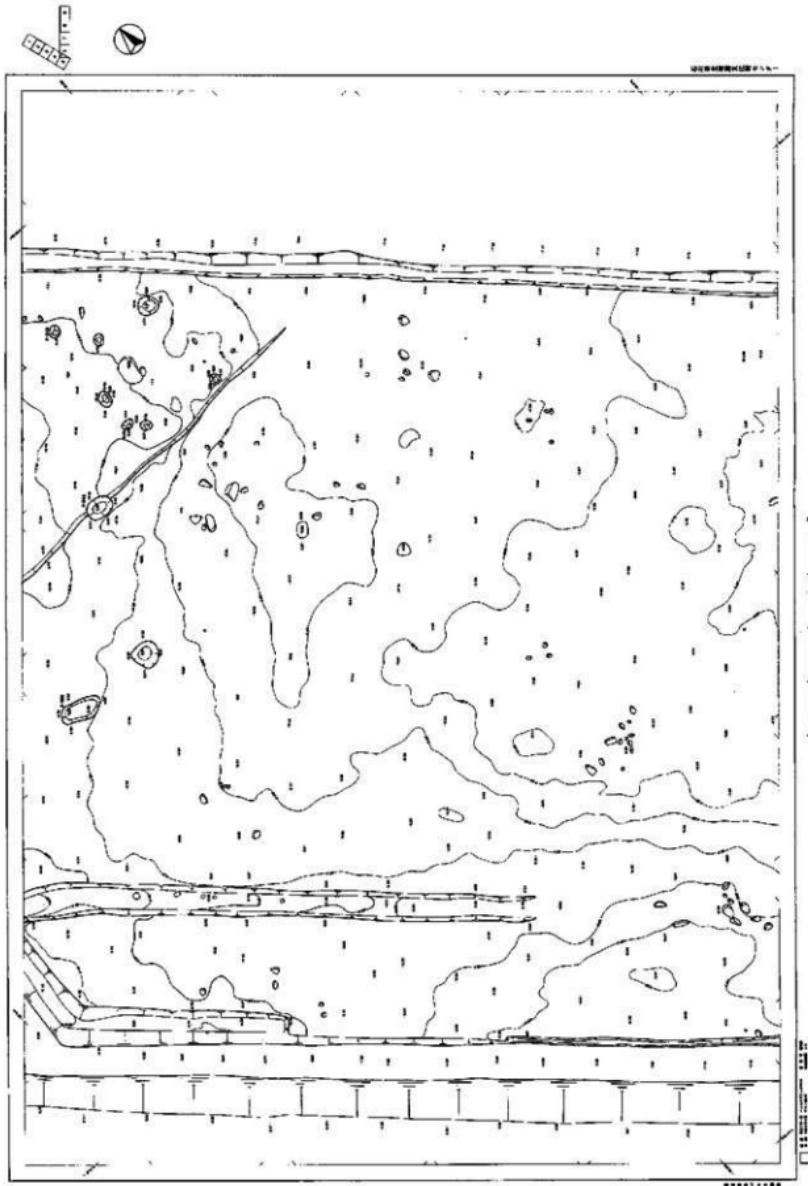


第35図 東小室キンダ遺跡 掘立柱建物・柱列・T.P位置図 (S = 1/400)

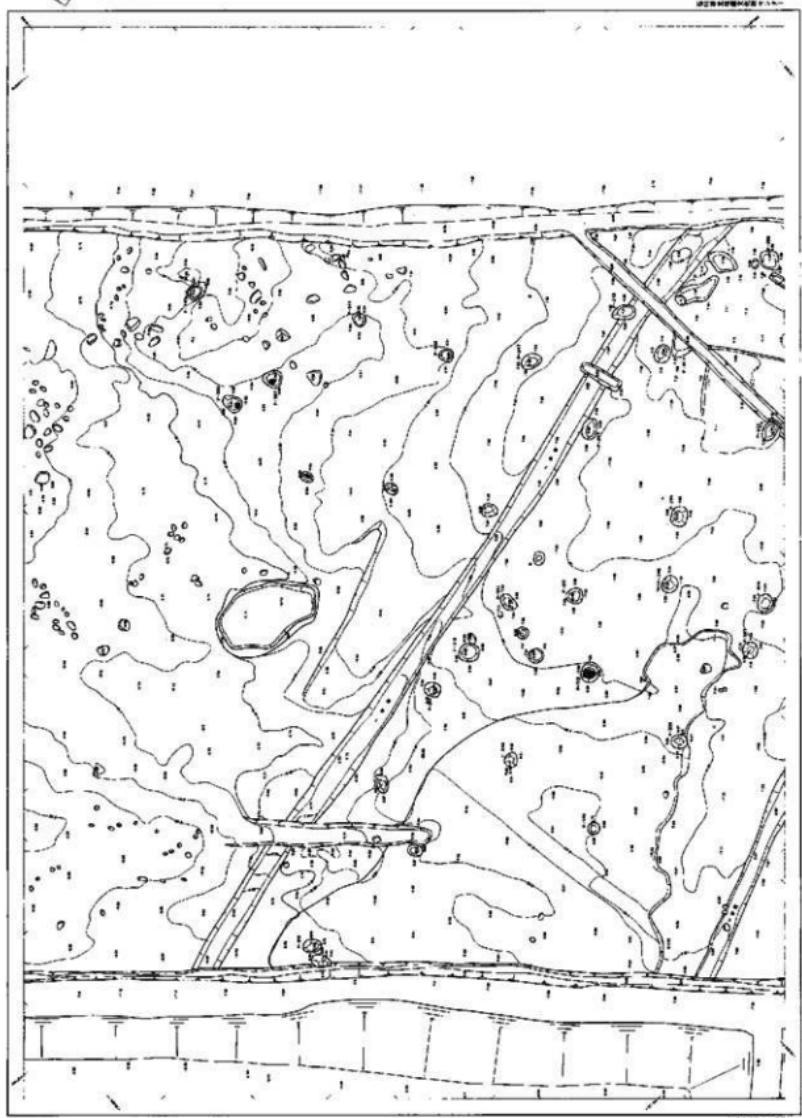
第36図 東小笠シングル道場 造構平面図 (1) ($S = 1/100$)



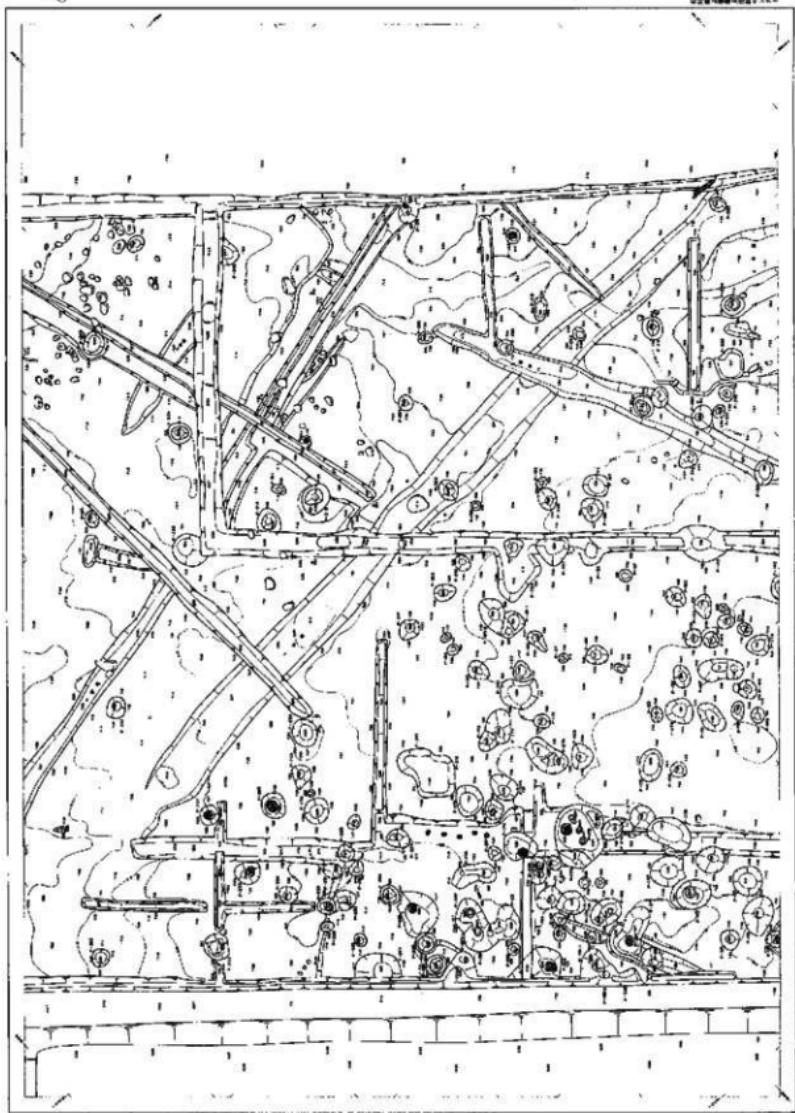
第37図 東小室キシダ遺跡 遺構平面図(2) ($S = 1/100$)



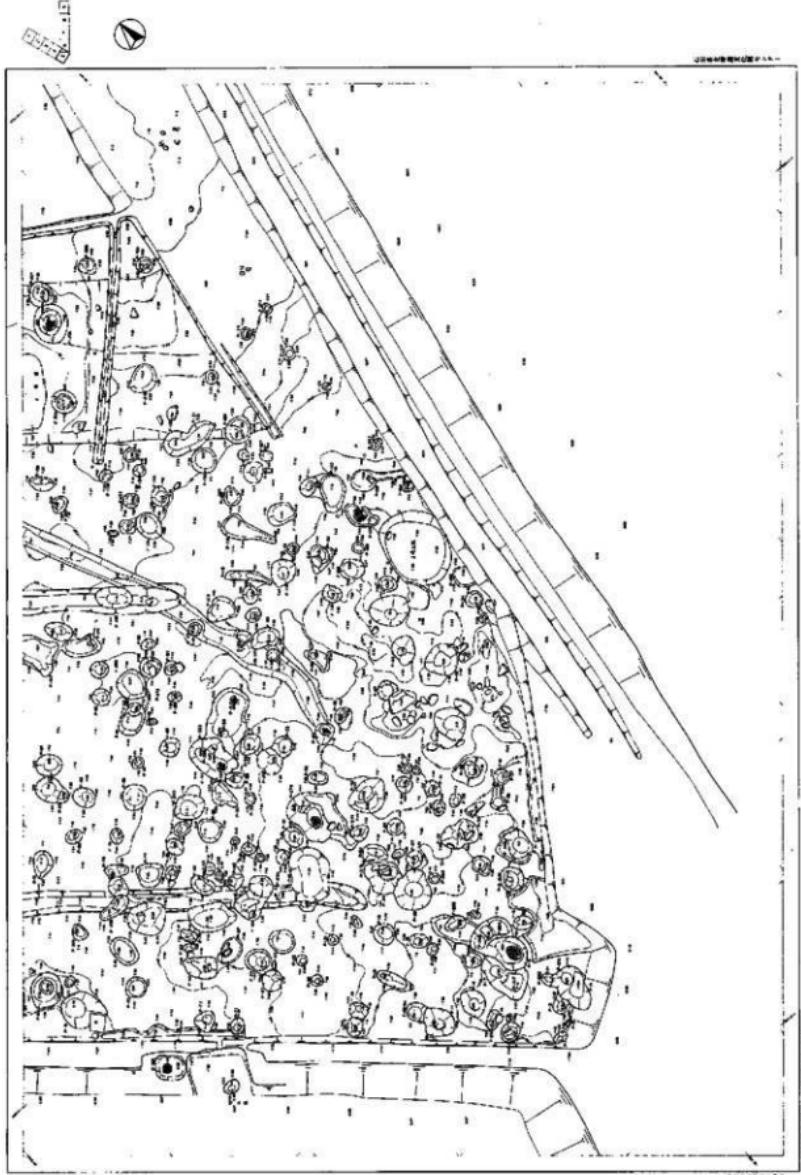
第39図 東小笠キンダ造跡 造林平面図(3) ($S=1/100$)

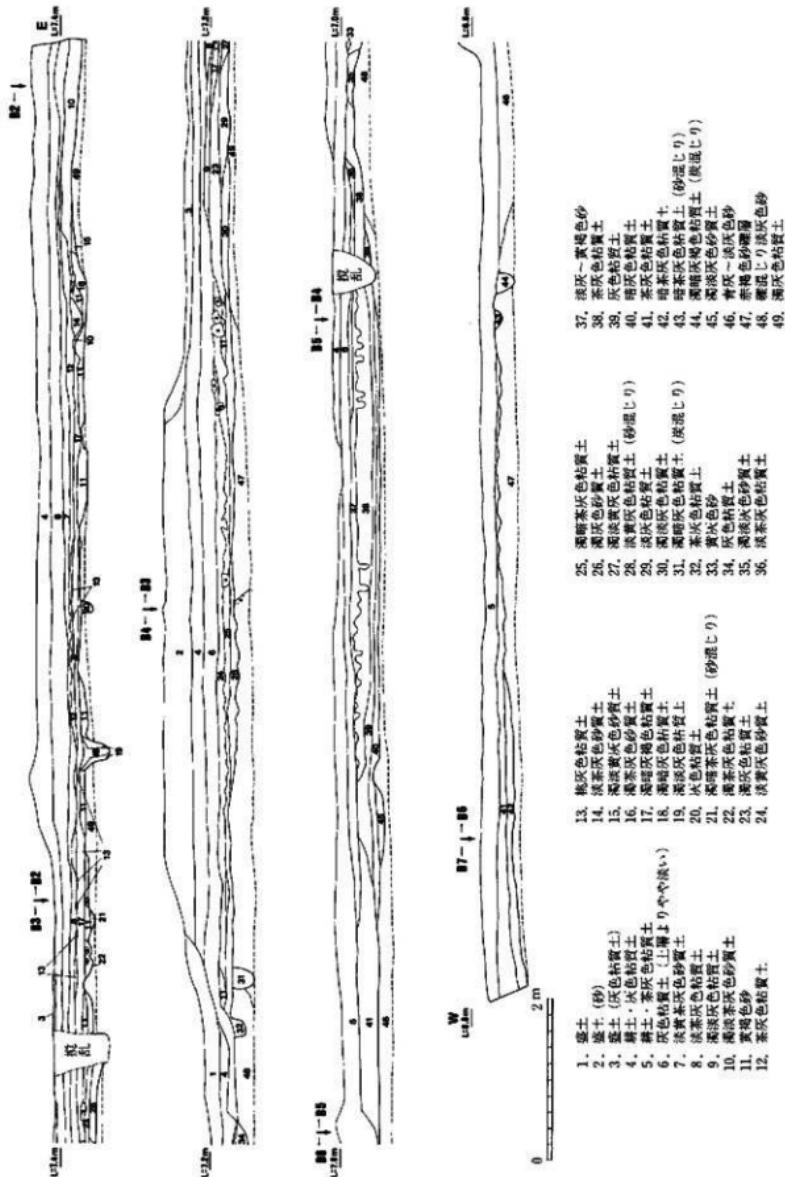


第39図 東小室キンドウ地盤 透視平面図(4) ($S = 1/100$)

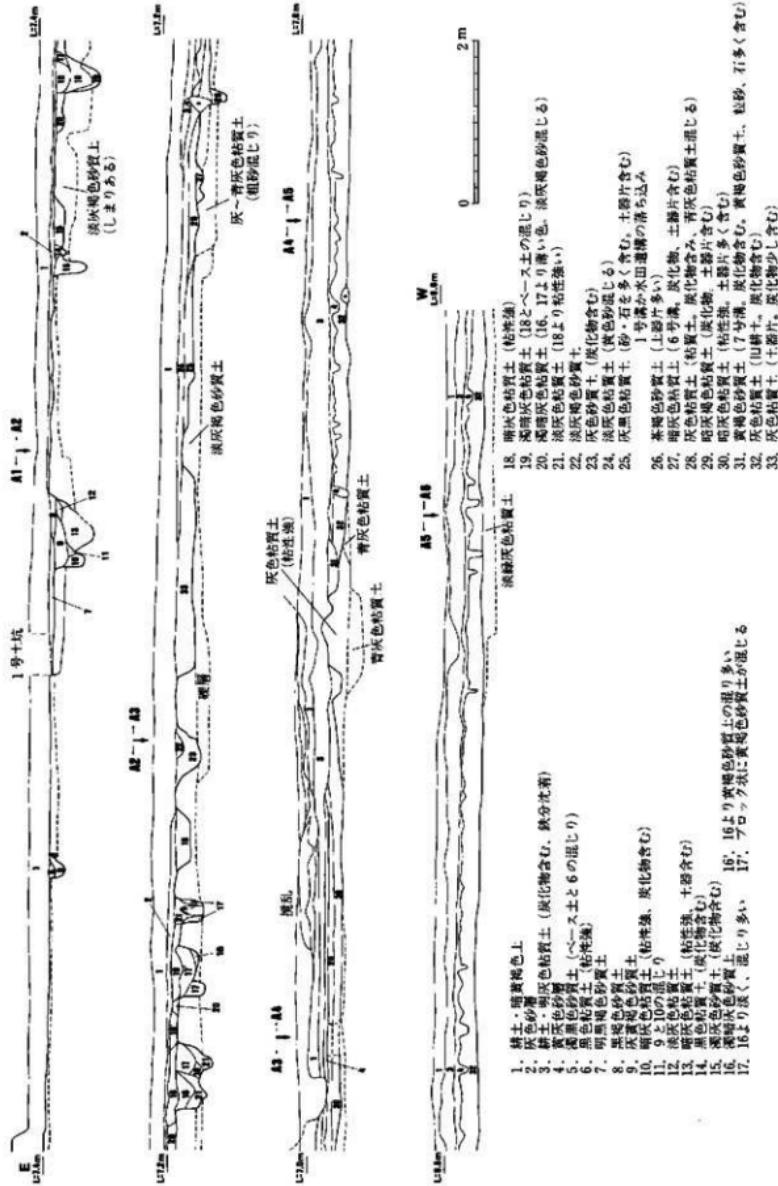


第40回 東小室キンド造跡 遺構平面図(5) ($S=1/100$)

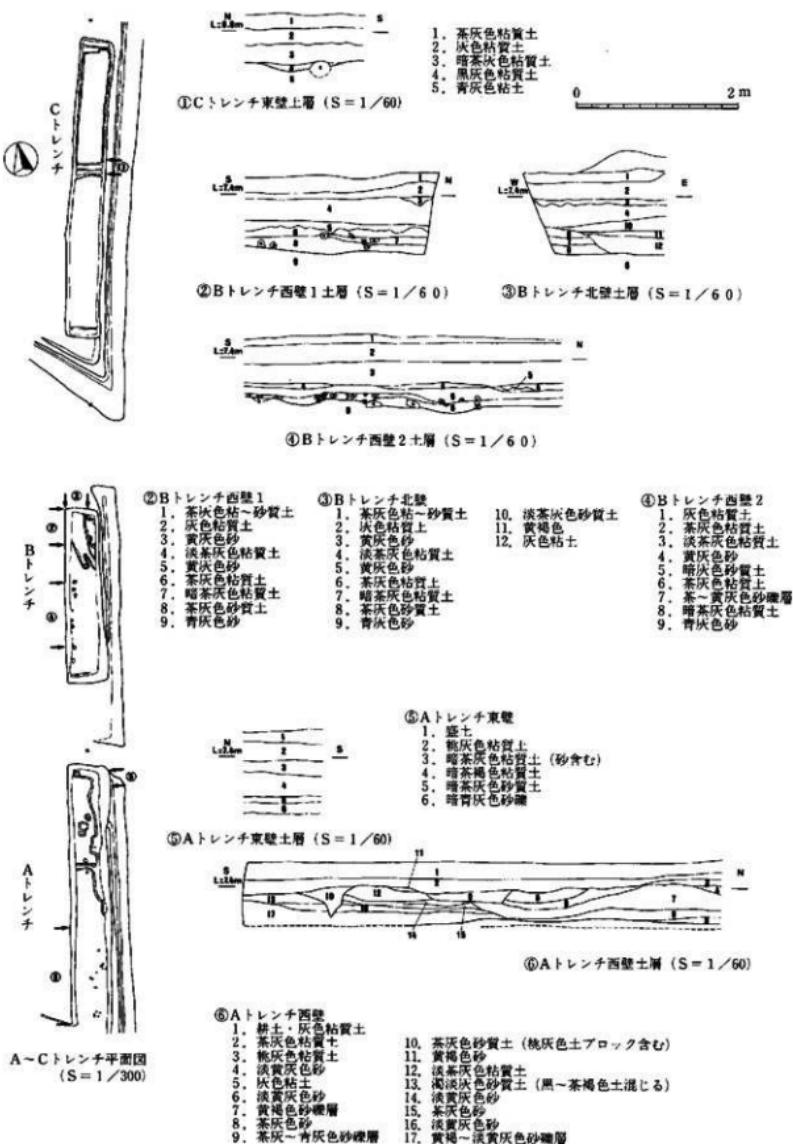




第41図 東小堂キンタ道跡 北壁上層断面図 (S = 1/60)



第42図 東小室キンド遺跡 南壁土層断面図 (S = 1 / 60)



第43図 東小室キンダ遺跡 A～C トレンチ平面図・土層断面図 (S = 1/60、S = 1/300)

れる。16は弥生土器と思われる。9の壺は外面に赤彩が施されている。16は底部外面に記号文を施す。8号溝（遺構 第39図、遺物47図）

A-2区に位置し、北西方向に延長をもつ。幅24~76cm、深さ4~12cmで横断面は緩い弧状を呈す。覆土は炭化物を含む褐灰色砂質土である。出土遺物で図示できたものは土師器で内外面ハケ調整、口縁部外面にヨコナデを施す球刷の直口壺と、9世紀までは下らないと思われる須恵器の杯である。

掘立柱建物（遺構 第44・45図）

なお、下記の掘立柱建物の柱穴出土遺物で実測できるうるものは少なかったので図示できたものは多くはない。

6号掘立柱建物（遺構 第44図）

B-4区に位置し、北側の調査区外へ延びている。1間×1間のみの検出のため、建物の規模はわからない。主軸は南北か東西方向をとるようである。南北の柱間は約2.2m、東西の柱間は約2mを測る。柱穴は円形を呈するものが多く、径約30~40cm、深さは約20~40cmである。柱穴出土遺物は少ない。P334から上師器小片が出土しているが時期は不明である。

7号掘立柱建物（遺構 第44図）

A-1区に位置し、南側の調査区外へ延びている。1間×1間のみの検出のため、建物の規模はわからない。主軸は南北からやや東に振れている。東側の柱間は約2.6m、北側の柱間は約2.7mを測る。柱穴は不整円形を呈し、径は短径で35~50cmほどである。深さは約30~50cmである。柱穴出土遺物は少ない。P29から土師器小片が出土しているが時期は不明である。

8号掘立柱建物（遺構 第44図）

A-2区に位置する。桁行2間（約3.8m）、梁行1間（約2.1~2.2m）に復原した。主軸は東西からやや南へ振れる。間桁行の真ん中の柱穴だけ柱列の軸からやや南へずれている。桁行柱間は約1.9mで、柱穴は切り合いで多く本来的な形態をとどめるものが少ない。柱穴の深さも約23~57cmとばらつきがある。柱穴出土遺物は6世紀代から7世紀前半代と思われる土師器片、内黒陶片、須恵器の杯身の小片が出土している。図示できたP279出土の25は土師器甕である。

9号掘立柱建物（遺構 第44図）

A-B2区にまたがって位置する。桁行2間（約4.4m）、梁行1間（約2.2m）に復原した。主軸は8号掘立柱建物と同じく、東西からやや南に振れる。桁行柱間は西から約2.6m、1.8mである。柱穴はほぼ円形を呈し、径は約30~40cmのものが多く、深さはP197は約40cmと深めだが、それ以外は30cm前後である。柱穴出土遺物は6世紀代から7世紀前半代と思われる土師器内黒陶、須恵器蓋が出土している。

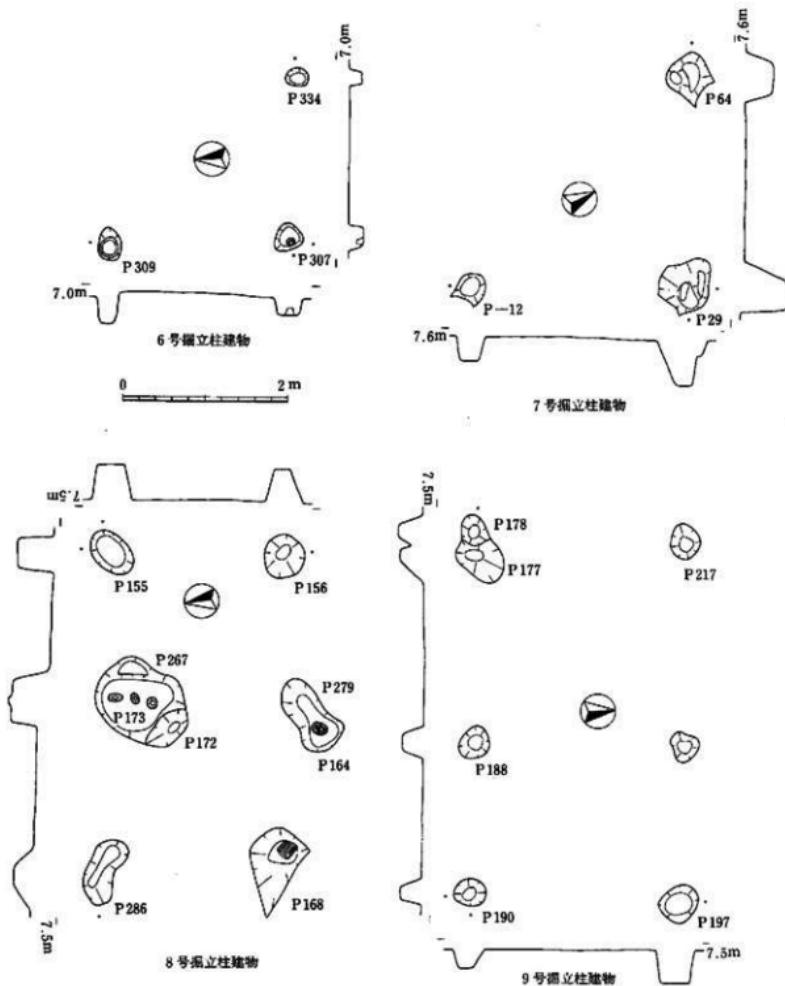
10号掘立柱建物（遺構 第45図）

A-2区に位置する。桁行3間（約8m）、梁行2間（約3.1m）に復原した。主軸は南北からやや西に振れる。

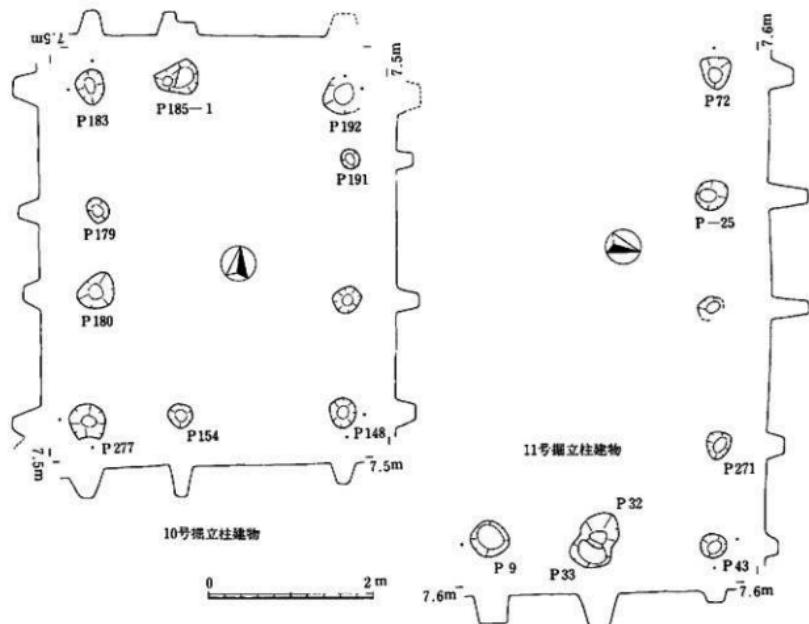
桁行柱間は東列で北から約1.5、1.0、1.5mを測り、西列では約0.9、1.7、1.4mを測る。梁行柱間は西から約1.1、2.0mを測る。柱穴はほぼ円形で径は約20~50cmとややばらつきがあり、小穴が多い。深さは30cm前後のものが多い。柱穴出土遺物は少なく、多時期の土器が混在しており、建物の時期の特定は難しい。10号掘立柱建物は8・9号掘立柱建物と重複する位置に所在しているが、前後関係は不明である。

11号掘立柱建物（遺構 第45図）

A-1区に位置し、南側の調査区外へ広がる。桁行4間（約5.7m）×梁行2間（約2.7m）を検出し



第44図 東小室キンダ遺跡 6~9号据立柱建物 (S = 1 / 60)



第45図 東小室キンダ遺跡 10・11号掘立柱建物 ($S = 1/60$)

ている。主軸は東西からやや北に振れる。北側柱列の柱間は西から約1.5、1.3、1.7、1.2mとややばらつきがある。東側柱列の柱間は南から約1.3、1.4mである。柱穴はほぼ円形を呈し、径30~40cmのものが多い。深さはP43、271は20cm前後で浅めだが、他は30~40cm前後を測る。柱穴出土遺物には須恵器杯・甕片、上師器などの字口縁の甕、内黒梳、瓶等が出上している。図示したP33出土の31は8世紀後半頃の須恵器杯である。多時期にわたる遺物が出土しており、建物の時期は不明である。11号掘立柱建物は7号掘立柱建物と重複する位置に所在しているが、前後関係は不明である。

柱穴出土遺物（遺物 第47図）

多時期の土器が出土しており、図示しているものがその柱穴の時期を示すとは言い難い。古墳時代中期頃から7世紀後半頃までの土師器が出土している。

不明落ち込み（遺構 第39図、遺物 第48図）

A-2区北端の南壁間に位置する。遺構検出面から淡灰褐色~褐色砂質土を約10cm前後掘り下げた。遺物は多時期にわたるもののが出土している。37は土師器内黒の椀、39は土師器長甕で古墳時代後期のものと思われる。40は9世紀後半の須恵器の杯と思われる。

下層試掘（遺構 第35図、遺物 第48~50図）

T.P1はB-1区4号溝上、T.P2はA-2区、T.P3はB-2区2号溝上、T.P4はA-B-3区P238付近、T.P5はA-3区P339付近、T.P6はA-4区7号溝上、T.P7はA-5

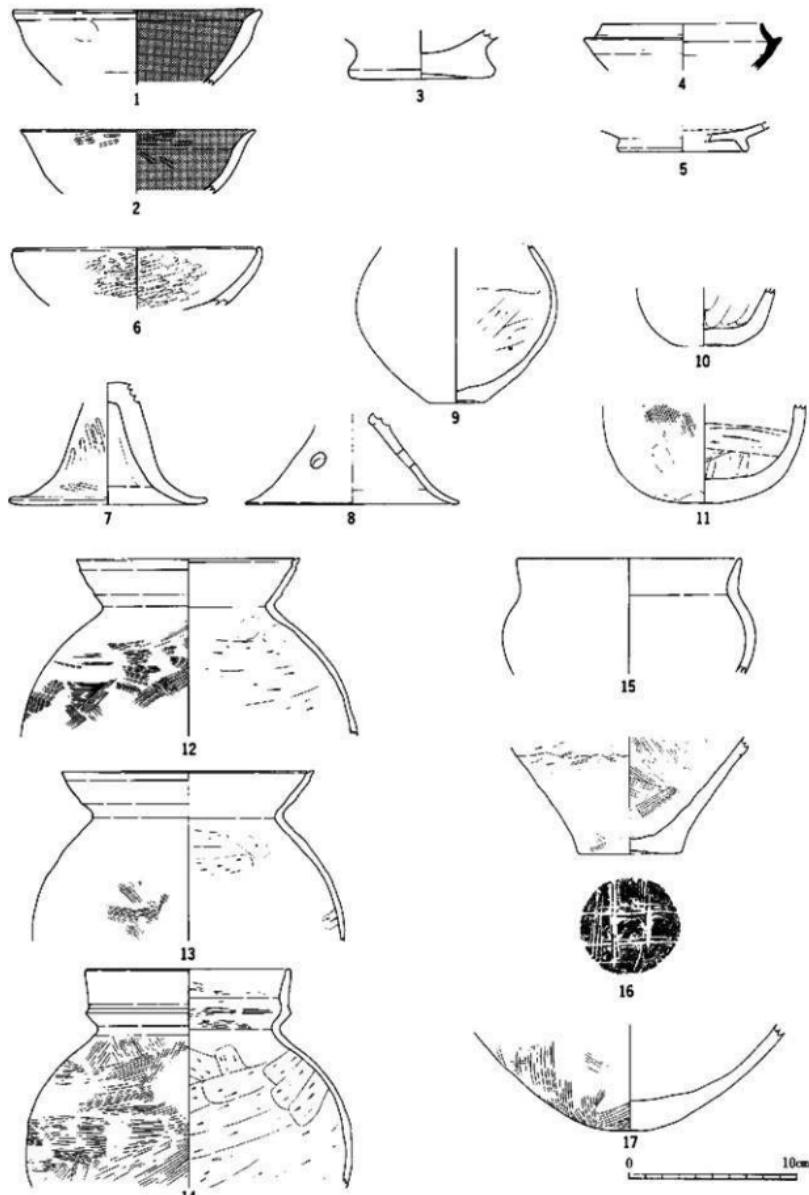
杭の北東側に試掘坑を設定し、約30~40cm掘り下げた。T. P 2以外のところで遺物が出土しているが、遺構の確認はできなかった。T. P 4では土器が集中した状態で出土し、さらに南側を拡張した部分からも土器の集中がみられたが、遺構はとらえられなかった。T. P 4（拡張部含む）からは布留式の壺、くの字口縁の壺、有段口縁壺、直口壺、高杯等が出土しており古府クルビ式のものと思われる（42~51）。

T. P 7出土上の52は有段の口縁をもつ大型の壺と思われる。外面と口縁端部内側に赤彩を施す。
包含層（遺物 第51~53図）

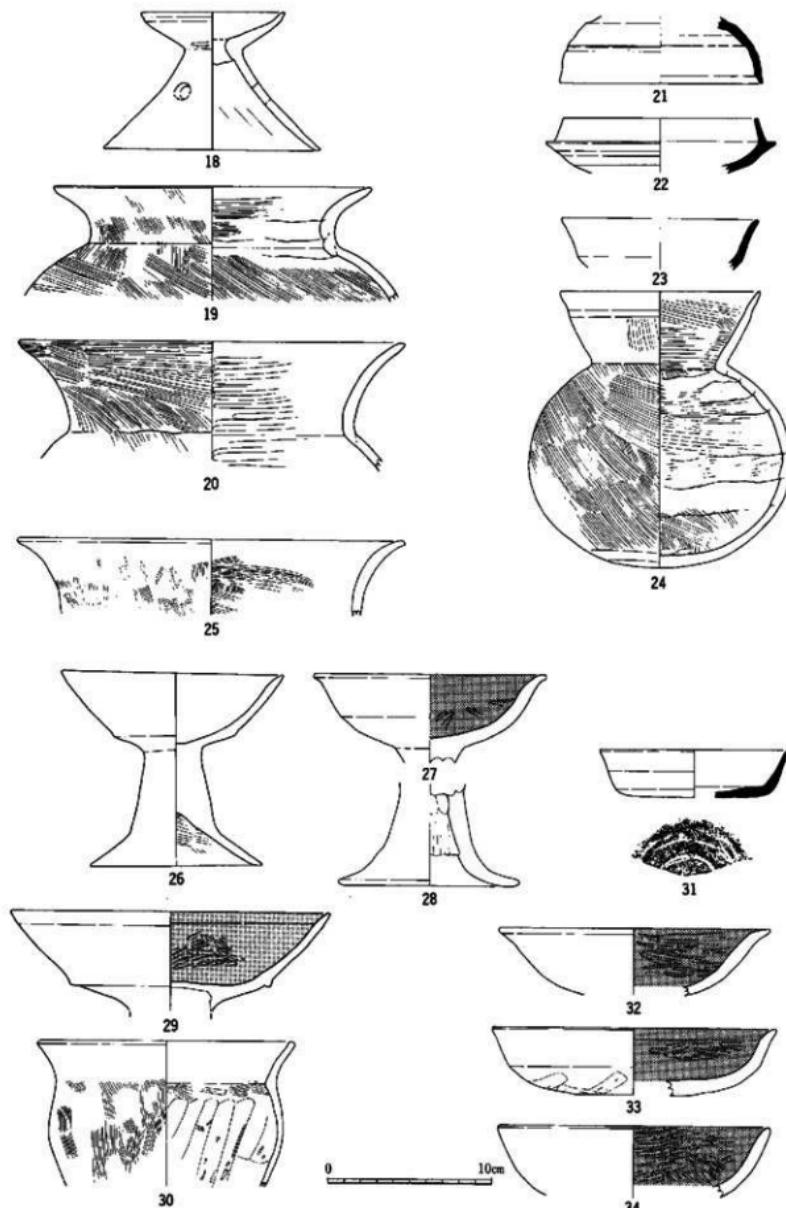
古代以降の遺構と思われる1・6号溝から出土している遺物はこの項で扱う。1・2は土師器内黒の壺である。3は弥生土器と思われる。4は須恵器杯身である。5は9世紀後半の灰釉陶器である。21・22は6世紀代の須恵器の蓋、杯身である。

53~57、61は深鉢と思われる。53は間隔の細かな波状の口縁部をもち、外面にタテの条痕調整が施されている。54、55は波状口縁を呈し、内外面にヨコ方向の条痕調整を施している。57も内外面に条痕調整を施す。54、55、57は同一個体の可能性がある。61の底部外面には網代圧痕がみられる。縄文土器か弥生時代まで下るものなのかは判断できなかった。58~60は縄文土器で58は深鉢の口縁部で中田新式と思われる。59、60は口縁部片で2本の隆帯をもち、その隆帯上に竹管による刺突を施す。外面には赤彩が施されている（内面にも施されていた可能性あり）。縄文中期後葉～後期初頭ぐらいのものであろうか。

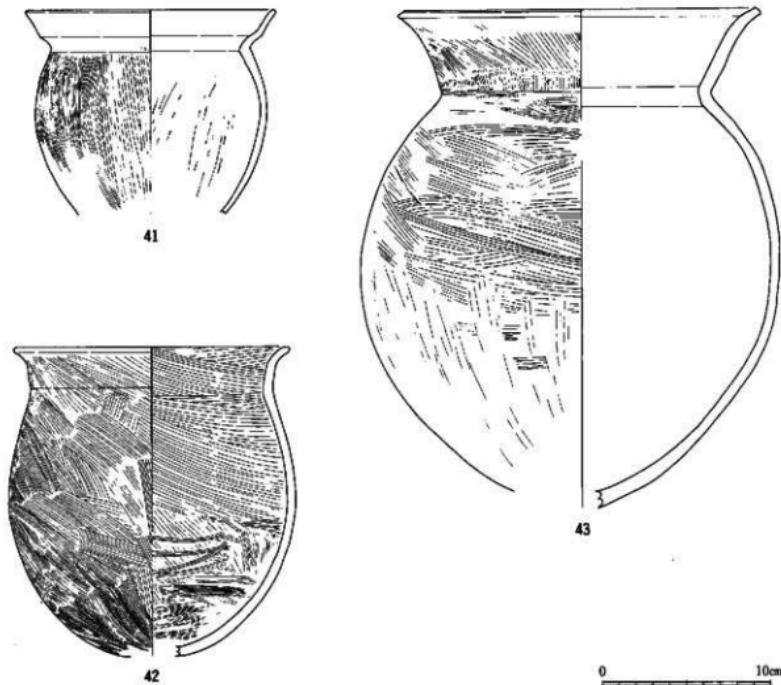
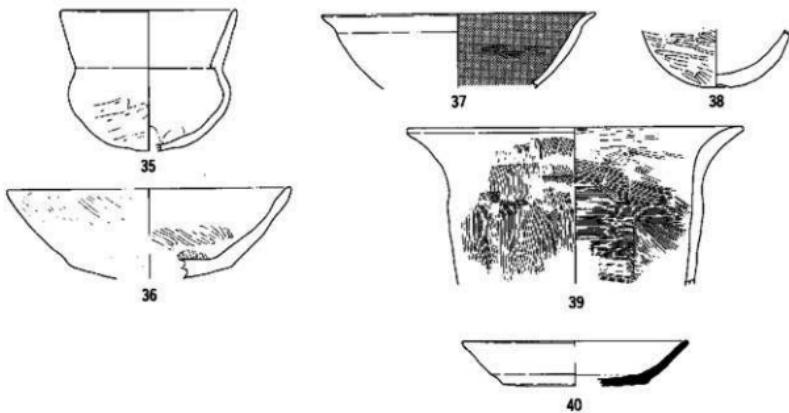
64・71は弥生土器と思われる。35・36・62・63・65~71・72~75は土師器である。土師器は古墳前期から終末期までのものがみられる。76~81は須恵器の蓋、杯、瓶、提瓶で6世紀から7世紀前半までのものである。81には頸部外面にはヘラ描きが施されている。石器、石製品では凹み石、石錐、砾石、扁平片刃石斧、磨製石斧、石鎌、垂玉が出土している。93の垂玉はヒスイ製と思われる。



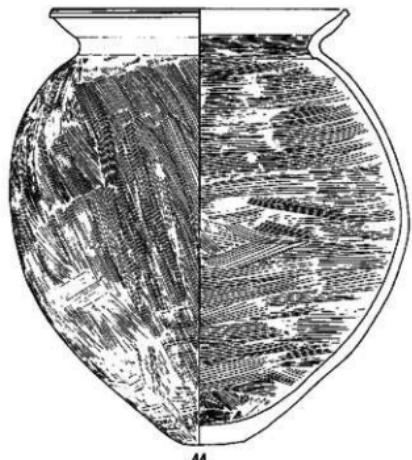
第46図 東小室キングダ造跡 1・4号溝出土土器 ($S = 1/3$)



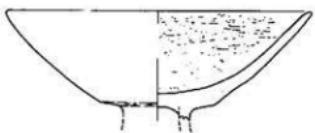
第47図 東小室キンダ造跡 4・6・8号溝・柱穴出土土器



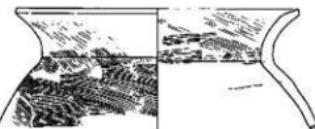
第48図 東小室キンダ造跡 不明落ち込み、T. P 4出土土器 (S=1/3)



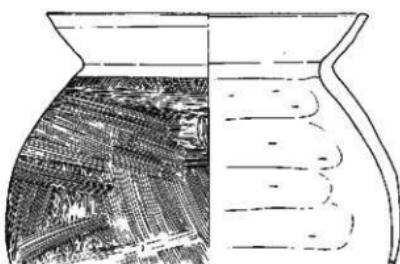
44



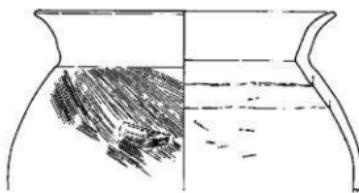
47



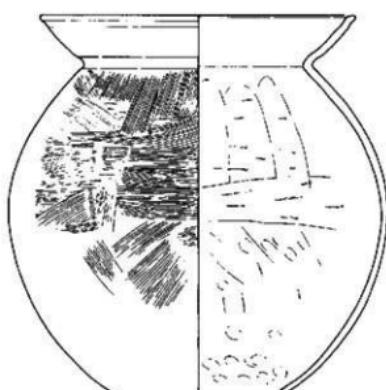
48



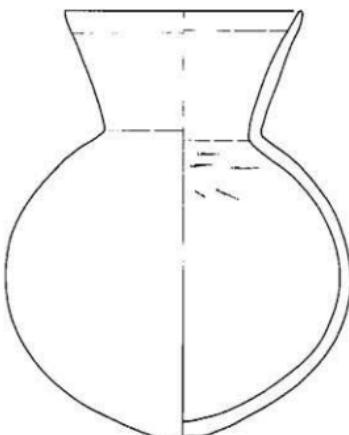
45



49



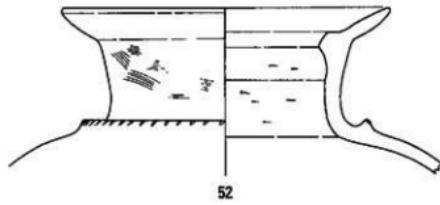
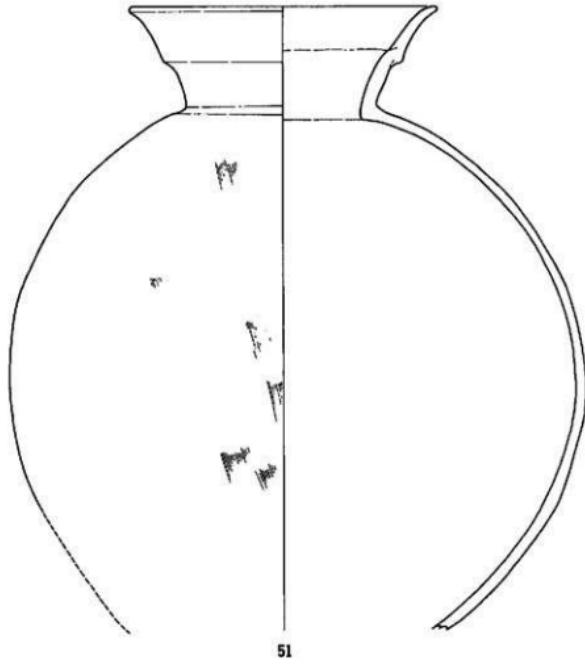
46



50

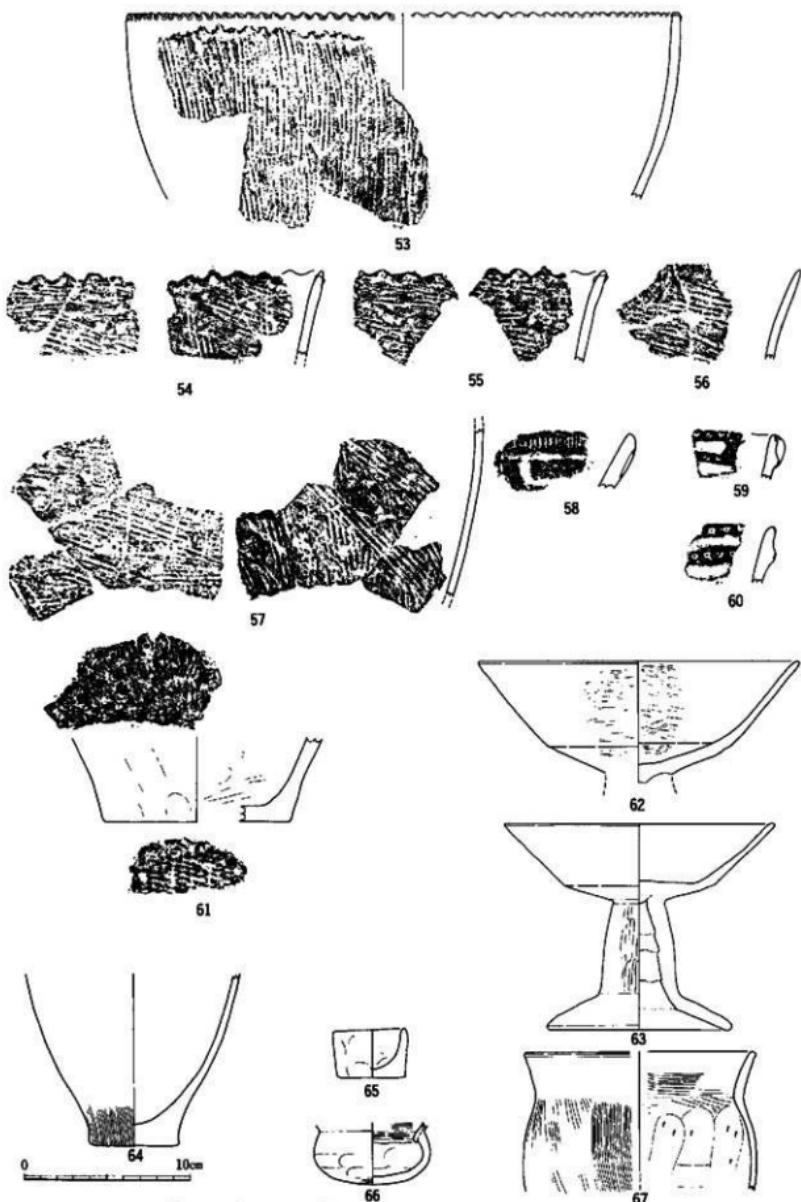
0 10cm

第49図 東小室キンダ遺跡 T. P 4 出土土器 ($S = 1/3$)

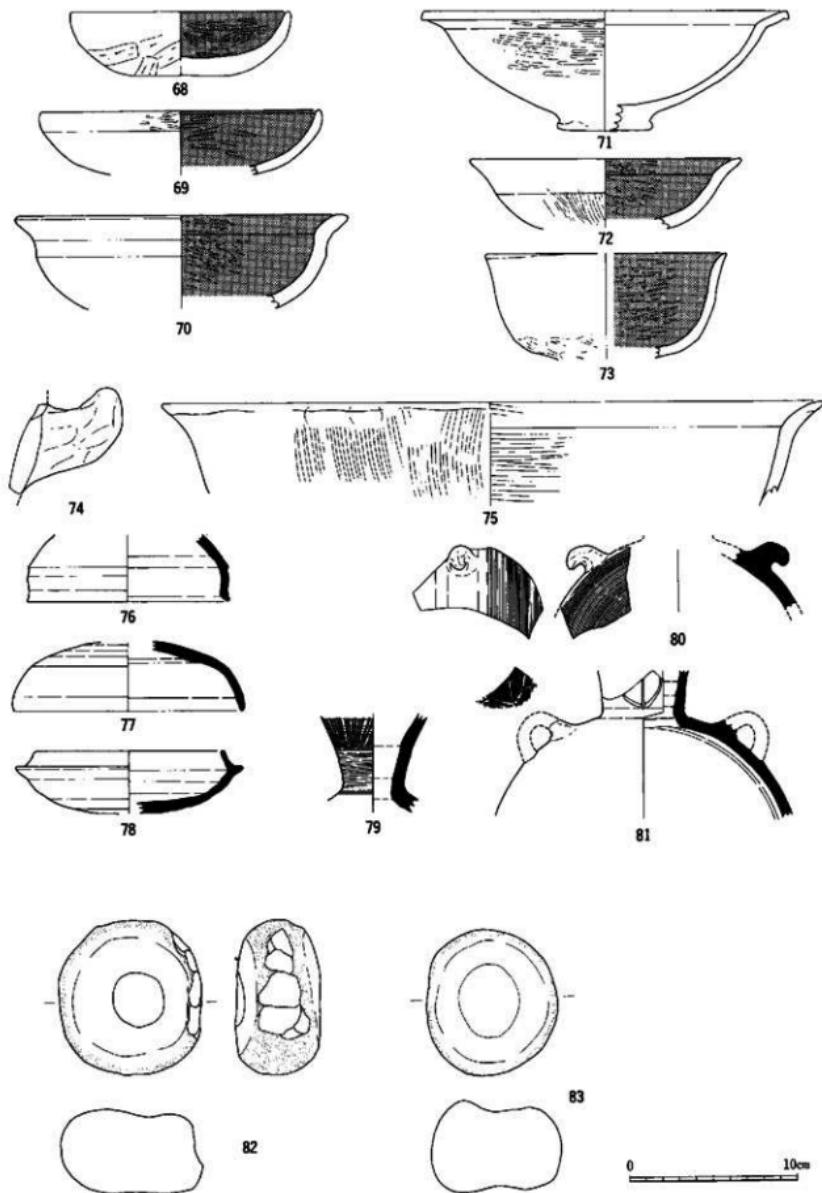


0 10cm

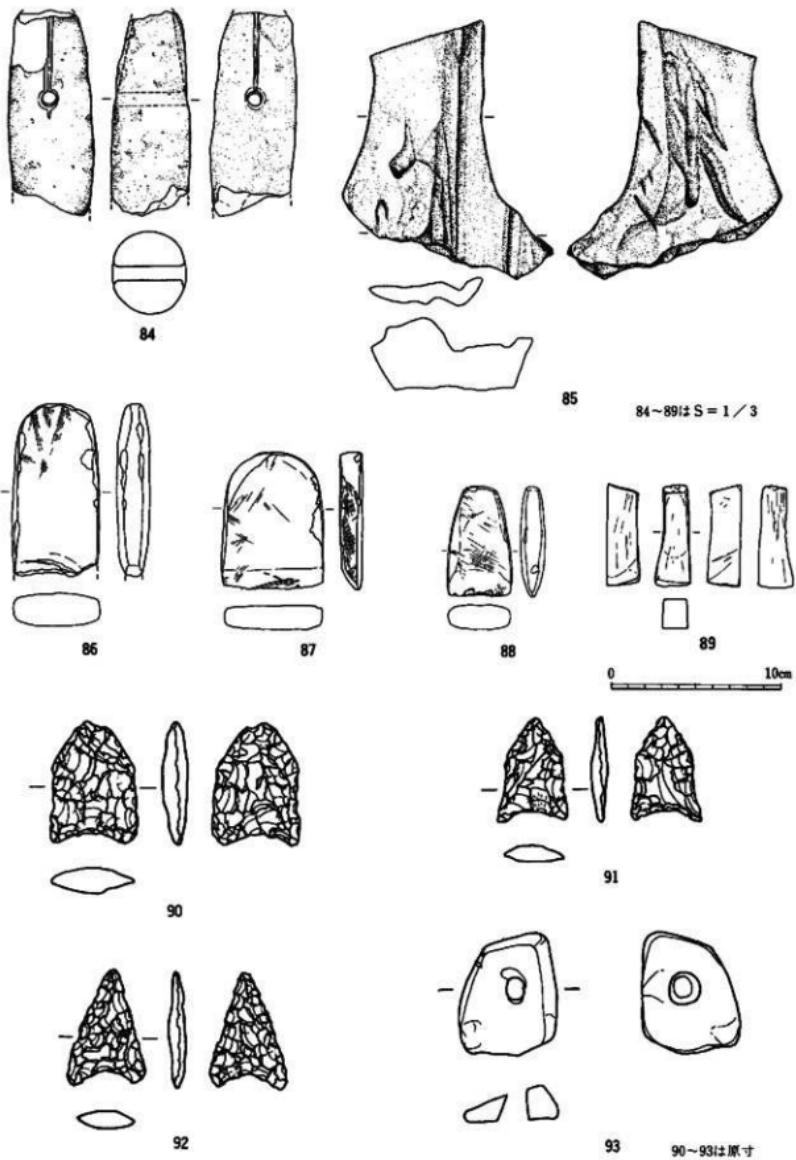
第50図 東小室キンダ遺跡 T. P 4・7 出土土器 (S = 1/3)



第51図 東小宮キンダ遺跡出土絵文～古墳時代の土器 (S = 1/3)



第52図 東小室キンダ遺跡出土縄文～古墳時代の土器・石器 (S = 1 / 3)



第53図 東小室キンダ造跡出土石器・石製品 (S = 原寸・1/3)

第10表 東小室キンダ遺跡 出土調査～古墳時代土器計測表

番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号
1	1溝	土師 梗	口: 14.8 高: D15	内黒
2	1溝	土師 梗	口: 15.5	内黒 D16
3	1溝	弥生 鉢	底: 8.5	D14
4	1溝	須恵器 瓶	口: 9.6	D11
5	1溝	灰陶陶器 底鉢	底: 7.6	D12
6	4溝	土師 梗	口: 15.0	C 9
7	4溝	土師 高杯	幅: 11.9	C 15
8	4溝	土師 器台	幅: (12.9)	C 10
9	4溝	土師 豆	底: 3.2	C 4
10	4溝	土師 鉢	底: 3.2	外 黒斑 C 8
11	4溝	土師 鉢	底: 6.1	外 灰付垂 C 5
12	4溝	土師 鉢	口: (13.2)	外 灰付垂 C 1
13	4溝	土師 豆	口: (15.0)	C 7
14	4溝	土師 豆	口: (12.0)	C 2
15	4溝	土師 鉢	口: (13.3)	C 11
16	4溝	弥生 鉢	底: 6.10	底部外面に記号文 C 3
17	4溝	土師 豆		C 2
18	4溝下層	土師	口: 8.6 高: 8.3 底: 13.0	C 12
19	4溝下層	土師 豆	口: 19.0	C 14
20	4溝下層	土師 豆	口: 23.2	C 13
21	6溝	須恵器 瓶	口: 12.0	D19
22	6溝	須恵器 瓶	口: 11.7	D17
23	8溝	須恵器 瓶		D18
24	8溝	土師 豆	口: 11.9 高: 16.7	pit219下と接合 C 16
25	pit279 A2	土師 豆	口: (23.3)	D48
26	pit219下 A2	土師 豆	口: 13.3 高: 11.7 底: 10.3	C 25
27	pit305 A2	土師 高杯	口: (14.0)	内黒 C 22
28	pit287 A2	土師 高杯	底: (10.9)	C 24
29	pit132 B1	土師 高杯	口: 19.0	内赤彩 C 19
30	pit116 B1	土師 豆	口: 15.4	67と同一直体 C 20
31	pit133 A1	須恵器 杯	口: 11.4 高: 8.4 底: 8.4	D37
32	pit285 A3	土師 梗	口: (16.0)	内黒 C 23
33	pit285 A3	土師 梗	口: (16.8)	内黒 C 26
34	pit132 B1	土師 梗	口: 15.3	内黒 C 21
35	包	土師	口: (10.4) 高: 8.5	pit167, 162, 163, 164間の灰色砂質土上面 C 49
36	包	土師 高杯	口: 16.8	pit167, 162, 163, 164間の灰色砂質土上面 C 50
37	包	土師 梗	口: (16.2)	内黒・不明落ち込み兩端 C 55
38	包 A2	土師 豆		不明落ち込み(2) C 38
39	包 A2	土師 豆	口: (20.0)	不明落ち込み(2) C 39
40	包 A2	須恵器 杯	口: (13.2) 高: 2.7 底: 8.6	D85
41	T_P1	土師 豆	口: 15.0	外 煙付着 C 31
42	T_P4下層	土師 豆	口: 16.4	T_P4灰付上層と接合 C 26
43	T_P4灰付	土師 豆	口: 22.1	C 27
44	T_P4灰付・灰砂	土師 豆	口: 17.6 高: 26.4 底: 3.6	外 黒斑 内底部 灰付着 C 29
45	T_P4灰付	土師 豆	口: 19.3	外 煙付着 C 35
46	T_P4	土師	口: 19.0	外 煙付着 T_P4灰付上層と接合 C 48
47	T_P4	土師	口: 18.2	C 34
48	T_P4灰付	土師 豆	口: (16.8)	外 煙付着 C 36
49	T_P4灰付下層	土師 豆	口: 18.0	外 煙付着 C 47
50	T_P4	土師	口: 14.1 高: 26.0 底: 2.6	C 30
51	T_P4灰付	土師 豆	口: 18.4	C 33
52	T_P7青灰付・砂	土師 豆	口: 19.6	外 口縁端部 内彩 C 32
53	包A1	圓文? 漆林		包A2と接合 B 4
54	包A1	圓文? 漆林		B 7
55	包B1	圓文? 漆林		B 8
56	包A1	圓文? 漆林		B 9
57	包A1	圓文? 漆林		包A1と接合 B 2
58	包B1	圓文? 漆林		B 3
59	包A1	圓文		B 6
60	包A2	圓文		B 6
61	包A1	圓文? 漆林	底: 11.0	B 1
62	包A3	土師 高杯	口: 19.2	C 45
63	包A2	土師 高杯	口: (16.0) 高: 12.5 底: 11.0	C 44
64	包B5	弥生 豆	底: 5.3	C 37

番号	出土地点	器種	法量(cm)	備考・実測番号
65	包A2	手づくね	口:4.6 高:3.1 底:4.1	C40
66	包B1	土師壺		C42
67	包B1	土師壺		33と同一個体 C41
68	包B2	土師壺	口:(13.0) 高:3.9 底:5.8	内黒 D90
69	包B2	土師壺	口:16.8	内黒 D93
70	包A3	土師壺	口:20.0	内黒 D92
71	包B1	土師壺	口:21.6 高:7.2 底:5.5	C43
72	包B2,3	土師壺	口:17.0	内黒 D76
73	包B2	土師壺	口:(14.3)	内黒 D65
74	Aトレンチ	土師壺		D73
75	包B2	土師壺	口:38.8	C46
76	Aトレンチ	須恵器蓋	口:14.8	C151
77	包A3	須恵器蓋	口:13.7	D57
78	包B2	須恵器杯	口:11.3 高:4.3	D94
79	拂土中	須恵器瓶		D84
80	包A1~3	須恵器瓶		D63
81	包A3	須恵器瓶		頸部に刻線 D97

第11表 東小室キンダ遺跡出土石器・石製品計測表

番号	出土地点	器種	法量(cm. g)	備考・実測番号
82	拂七中	くぼみ石	長:9.3 幅:8.55 厚:5.2 重:680	
83	Bトレンチ	須恵器	長:8.9 幅:7.85 厚:5.1 重:620	
84	包A1	石錐	長:12.2 幅:4.6 厚:315.7	石4
85	包A2	砾石	長:15.3 幅:12.5 厚:353.9	石12
86	包B1	磨製石斧	長:10.25 幅:5.15 厚:1.95 重:177.1	石6
87	包A5	磨製石斧	長:8.15 幅:6.05 厚:1.35 重:141.1	石5
88	包A-B1	磨製石斧	長:6.55 幅:4.90 厚:1.45 重:60.5	石7
89	包A3	砾石	長:6.0 幅:2.1 厚:2.0 重:37.0	石11
90	1号土坑	石臘	長:2.45 幅:1.65 厚:0.50 重:2.0	石8
91	包A1~3	石錐	長:2.1 幅:1.4 厚:0.3 重:0.7	石9
92	包A3	石錐	長:2.35 幅:1.52 厚:0.32 重:0.9	石10
93	包B4	玉	長:2.5 幅:2.0 厚:0.75 重:6.0	

第3章 古代・中世の遺構と遺物

概要

検出された遺構は掘立柱建物、柱列、土坑、溝、水田畦畔状遺構がある。掘立柱建物は5棟を復元するにとどまった。遺構密度の低い地点では容易に捉えられたが、密度の高い地点ではうまく捉えられなかった。また、柱穴自体もなかなか検出が難しく、すべての柱穴を掘り切れていない。また、柱痕部分のみ掘り下げているものも多々あると思われる。なお、現地で確認できたものではなく、すべて図面からの復元である。土坑は1基のみ検出した。溝は東西方向に延長を持つものが多い。

土坑

1号土坑（遺構 第56図左下、遺物 第39図）

A-1区南西側の調査区外の法面にかかるて検出された。調査では耕作中の水田に上が落ちないよう幅50cmの土手を残したが、この外側の法面に本遺構が見えたためこれを掘り下げた。南東側は既にT事で壊されている。短辺1m、長辺1.1mの長方形を呈するものと思われる。覆土は細かな地山ブロックの混じる暗褐色の砂質土の単層と判断したが、写真等で検討すると中央部の色調がやや暗く、拳大の礫の混入も中央部に限られており、中央部がU字状に落ち込むようなラインがひけたのかもしれない。横断面形は上部が若干開くもののほぼ箱形で、深さは55cmである。溝底中央やや東よりに11世紀中葉頃の土師器碗1個体が正位ではなく溝底に密着する形で出土している。碗の横には別個体の土師器碗の口縁部破片と長径4cmほどの赤みを帯びる安山岩の円礫と黄色の鉄石炎の角礫が置かれている。

溝

1号溝（遺構 第39図）

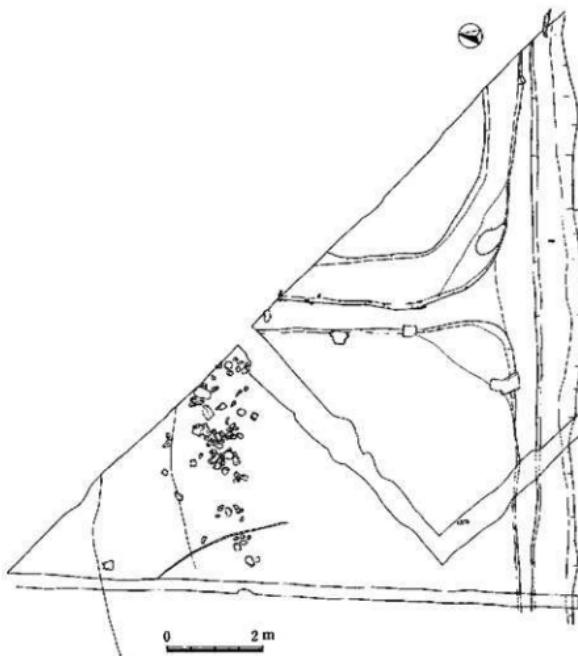
B-2区からA-3区にかけて位置し、東西方向に延長を持つ。幅90cm、深さ10cm程度横断面形は緩い弧状を呈す。この溝を境として西側は1段低くなる。覆土は汚れた茶灰色の砂質土で、断面観察では後述する2号溝より新しい。多量の土器が出土しているが、細片が多く、また、弥生から中世のものが混在しており時期を特定するに至らない。

2号溝・水田畦畔状遺構（遺構 第54図、遺物 第39図）

B-2・3区を中心とし一部A-3区に広がる。T字状を呈する畦畔状の盛り上がりとこれの内側のL字状の溝状遺構を、それぞれ水田畦畔状遺構、2号溝として捉えた。

2号溝は黄褐色の砂質土を覆土とし、畦畔状の盛り上がりの裾に打たれた杭を肩として考え追いかけたが、土層断面では畦畔状の盛り上がりの下に入り込むことが確認されたことより畦畔に伴うものではなく、また、田面と考えた部分にも黄褐色の砂層が点在することから遺構として成り立つか疑問が残る。洪水等でできた流れの跡なのかもしれない。遺物は多量に出土しているが細片が多く、図示した須恵器以外にも古墳から古代の遺物が混在しており時代を特定するには至らない。

水田畦畔状遺構は1号溝の西側に沿うものと、これから南北に派生するものが捉えられた。上幅は狭いところで約20cm、広いところで50cmで田面と考えた部分との比高は10cm程度である。前述したよう南北方向の畦畔の東側掘堀には、幅5cmほどの角材を主に用いた杭が不均等に打ち込まれている。西側掘堀にも数本が確認できる他、板状の礫が置かれた部分もある。また、東西方向の畦畔の北側堀や1号溝北側の肩にも間隔をあけて打たれた部分がある。B-3区に見られる東西方向の集石は、これを当初畦畔と考えていたが、土層断面の観察では畦畔の盛り上がりから崩れたものと考えられ、平面では確認できなかったが、この南側に畦畔が存在したものと思われる。この部分より西側および北側では同様な遺構を捉えるには至らなかった。田面および畦畔盛り土からも多量の遺物が出土しているが、やはり細片が多く、異なる時期のものが混在しているため、遺構の時期の特定はできていない。た



第54図 2号溝・水田畦畔状遺構平面図 ($S = 1/200$)

だし後述する3号溝が
畦畔除去後に確認でき
るため、これよりは新
しいものと思われる。
なお、遺物は包含層遺
物として載せている。

3号溝(遺構 第
39・40図、遺物 第59
図)

A-1区北東側中央
からB-2区中央にかけ
て位置する南北方向
に延長を持つ溝で、若
干西に振れている。東
端はわずかに南に折れ
ている。上幅40cm、深
さは10cm程度である。横
断面形は緩い弧状を呈
し、覆土は暗灰色の砂
質土である。掘立柱建
物の排水溝、あるいは
区画溝と考えられるが、
肝心の建物を建てきれ
なかった。これも多時
期の遺物が混在してい

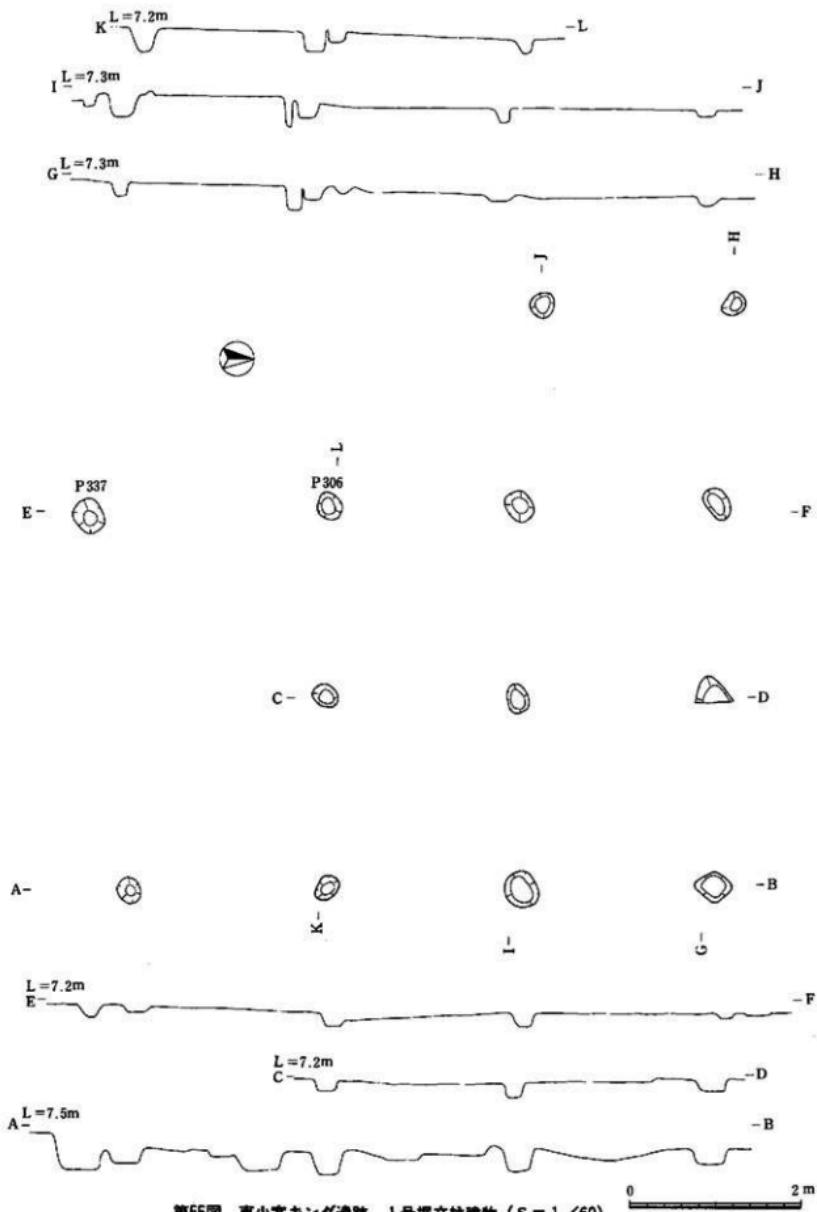
るが、9世紀前半代のものが多い。

6、7、9号溝(遺構 第38・39図)

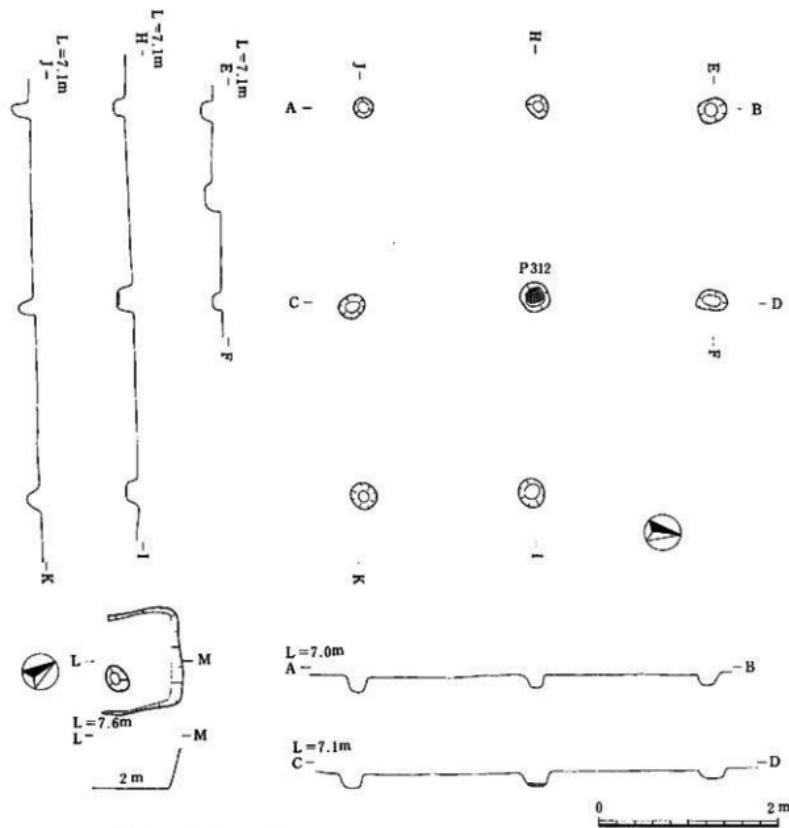
6号溝はA-3区、7号溝はB-3区からA-4区、9号溝はB-3区北東よりに位置する。すべて東西方向に延長を持つ溝であるが、9号溝は東側が確認できず、西側はとぎれている。上幅は6号溝が40cm弱、7、9号溝が50cm弱で、深さは共に5~10cm程度で、横断面形は緩い弧状を呈する。覆土は6号溝が暗灰色粘質土、7号溝が黄褐色砂質土である。遺物は古墳時代から古代のものが両者とも出土しているが、図示できる物がない。おおむね7号溝が11世紀代、6号溝はまとまりがなくはっきりしないが8世紀末頃と思われる。9号溝は遺物が少なくよく解らない。

A・Bトレンチ溝状落ち込み(遺構 第43図)

A、Bトレンチではトレンチに沿って溝状の落ち込みが確認されている。共に幅が狭くその全様ははっきりしない。Aトレンチでは落ち込みの肩が捉えられるが、Bトレンチでは全体が狭く落ち込んでおりその中にさらに深い所があるといった状況であった。最深部はどちらもトレンチ東側にあるが、Bトレンチでは中央から東壁から北側西壁に最深部がぬけている。どちらも古代から中世の遺物が出士している。



第55図 東小室キンダ跡 1号柱建物 ($S = 1/60$)



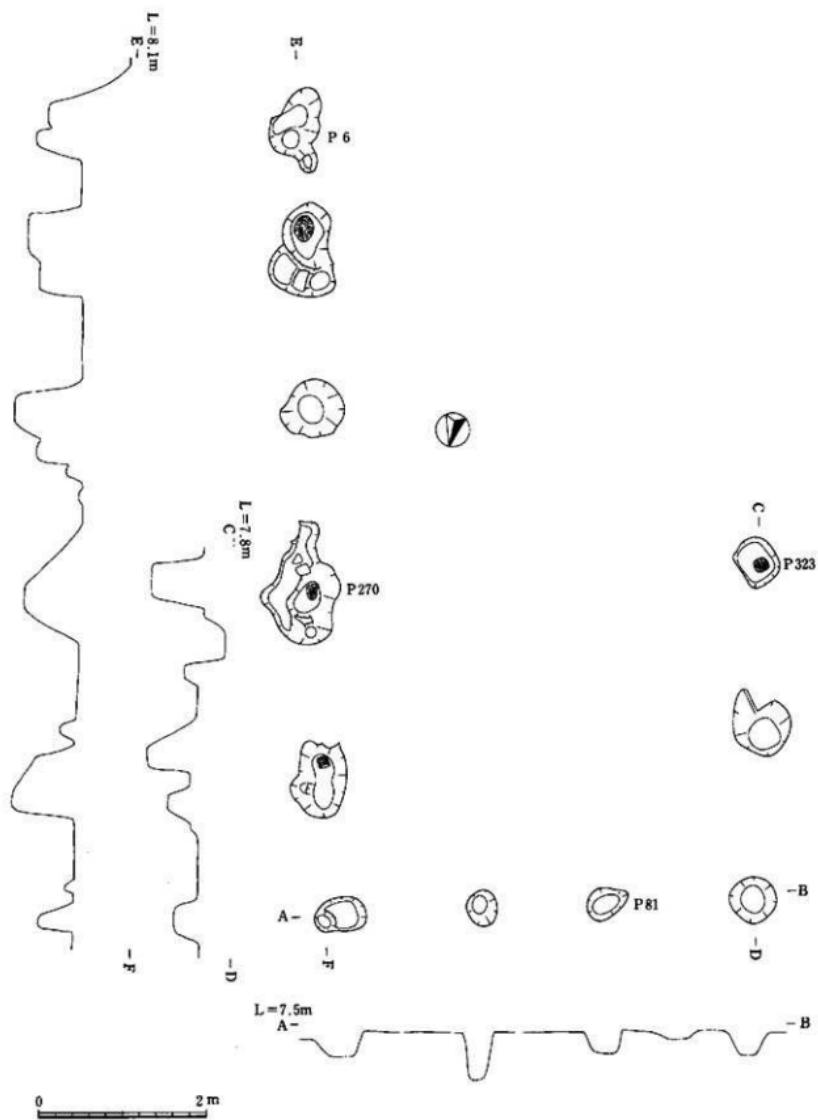
第56図 東小室キンダ遺跡 1号土坑(左下) 2号掘立柱建物(S=1/60)

1号掘立柱建物(遺構 第55図、遺物 第59図)

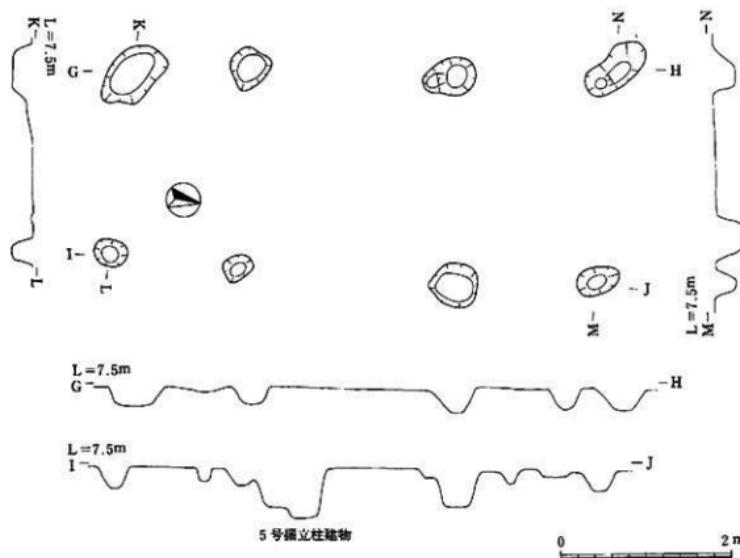
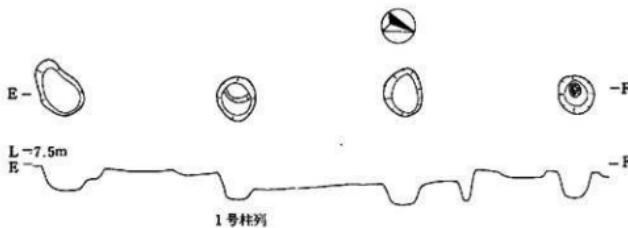
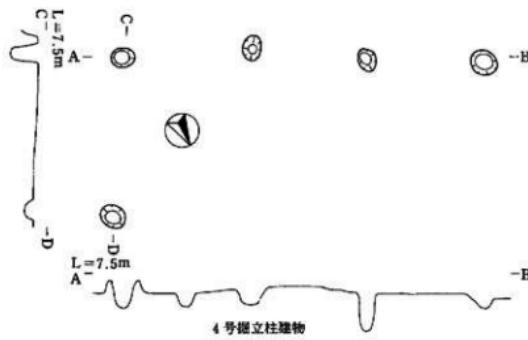
B-3区に位置し、一部A-3、B-4区に広がる。桁行3間(約6.9m)、梁行3間(約6.9m)の純柱の建物に復元した。主軸は南北よりやや西に振れています。柱穴のかけた部分が多いが、これが本来なのか、見落としなのかわからない。柱間は桁行、梁行とも約2.3mでばらつきは少ない。柱穴は円形を呈するものが多く、径約30cm、深さは残りの良いもので30cm程度である。柱穴出土遺物は第一回の須恵器甕を図示したが、多時期の土器が混在しており、これが建物の時期を示しているとは思えない。10~11世紀代と思われる土器の底部が出土しており、これが建物の時期を表すものと思われる。

2号掘立柱建物(遺構 第56図、遺物 第63図)

A-3、4区に位置する。ちょうど1号掘立柱建物の西隣となる。桁行2間(約4.4m)、梁行2間(約3.9m)に復元した。北東コーナーの柱穴を欠くが本来的なものかどうかわからない。柱間は桁行が約2.2m、梁行が約1.95mで、柱穴の形態、規模は1号掘立柱建物とはほぼ同じである。おおむね10世



第57図 東小室キンダ遺跡 3号掘立柱建物 ($S = 1/60$)



第58図 東小室キンダ遺跡 4、5号掘立柱建物・1号柱列 (S = 1 / 60)

紀代のものと思われる。

3号掘立柱建物（遺構 第57図、遺物 第59図、第64図）

A—1区に位置し、一部A—2区に広がる。南西側は調査区外に延びている。桁行5間（約9.6m）、梁行3間（約4.8m）に復元した。主軸は南北より西に振れている。桁行柱間は両端が約1.5m、他は約2.2mである。梁行柱間は約1.6mである。柱穴は切り合いが多く本来的な形態をとどめるものが少ないとみられる。径は梁行のものが30~50cm、他は60~70cmのものが多い。深さは梁行の柱穴P—80が約50cmとやや深いものの他は30cm弱である。桁行の柱穴は約60cmと深い。柱穴出土遺物は混じりが多く建物の時期の特定は難しいが、図示した土師器が一番新しく、おおむね10世紀頃のものと思われる。

4号掘立柱建物（遺構 第58図）

B—2区に位置するが、半分以上が調査区外に広がる。3間（約4.3m）×1間（約1.9m）以上に復元したが、北西列の柱穴を確認しておらず建物として成り立つか疑問が残る。他の建物とは異なり方向は北を意識していない。柱穴は径30cm弱の円形でまとまっているものの、深さは10~45cmとばらつきが大きい。柱穴出土遺物は図示できるものはないが、9世紀代の須恵器、土師器がある。

5号掘立柱建物（遺構 第58図）

A—1、2区にまたがって位置する。桁行3間（約5.5m）、梁行1間（約2.3m）に復元した。建物として成立するかやや疑問が残る。主軸は南北より若干西に振れている。桁行柱間は北から約1.5m、2.5m、1.5mで中央がかなり広い。柱穴は不整円形、あるいは楕円形を呈し、径は短径で30~50cm程度である。深さは20~30cmで大きなばらつきはない。柱穴出土遺物は図示可能なものはないが、9世紀頃の土師器壺の口縁部破片がある。

1号柱列（遺構 第58図）

B—1区に位置する。3間の柱列として復元したが、建物となる可能性もある。柱間は約2m、柱穴は円形ないし楕円形を呈し、径は短径で40cm前後である。方向は3号掘立柱建物とほぼ同じである。出土遺物は図示できるものはないが、須恵器が出土しており古代の遺構と思われる。

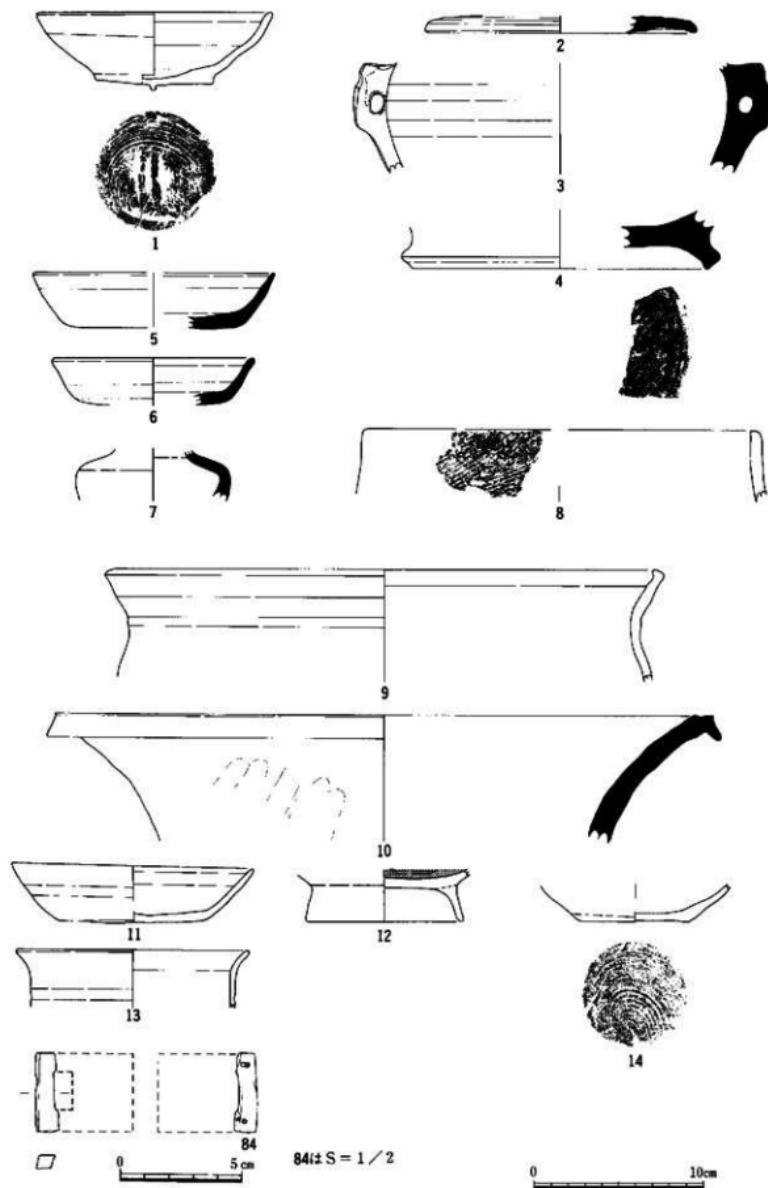
柱穴出土遺物（第60図）

柱穴出土遺物は多時期の遺物が混在するものが多い。よって必ずしも柱穴の時期を表しているとはい難いが、図示できたものはほぼ9世紀前半から11世紀前半のものに限られる。

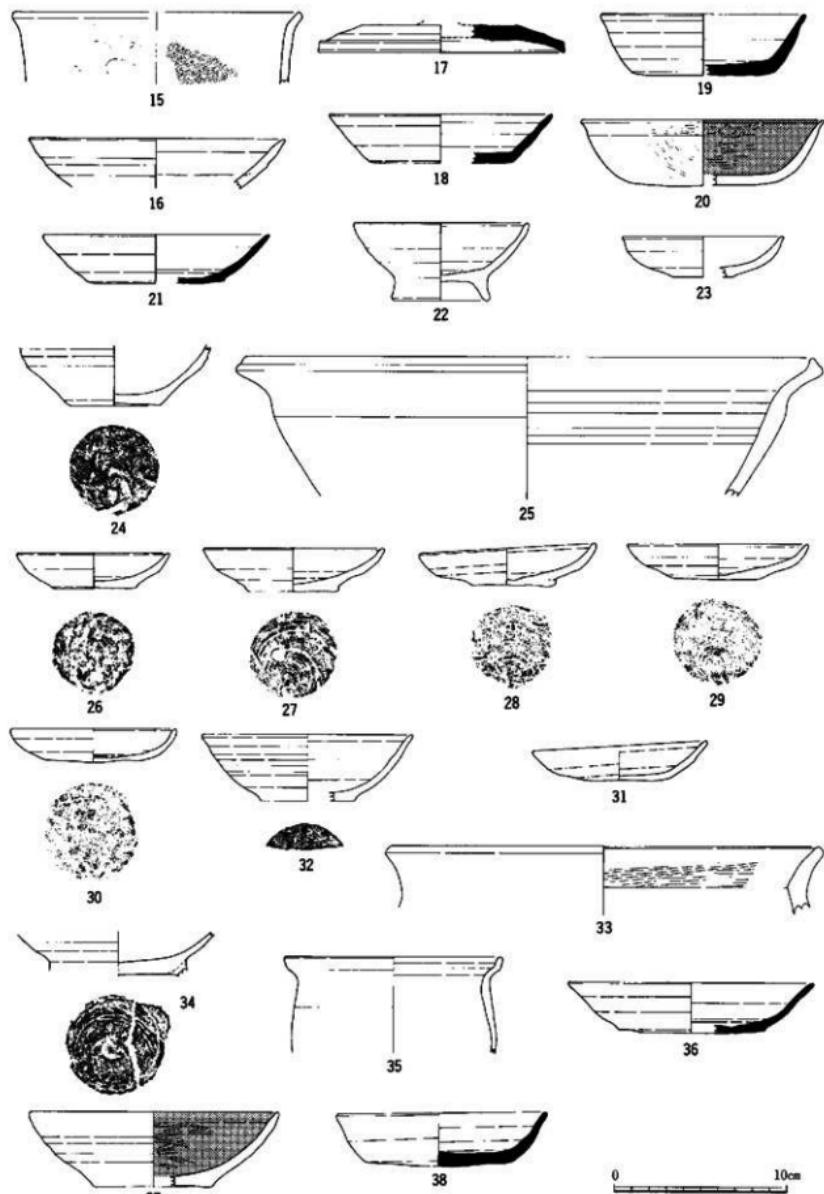
26~32はP—53出土で柱抜き取り後に埋納されたものと思われる。11世紀前半頃のものである。27~29と26、30はそれぞれ胎土、色調、形態が類似する。32は胎土が精選されて堅い焼き上がりとなっている。

包含層出土遺物（第61~63図）

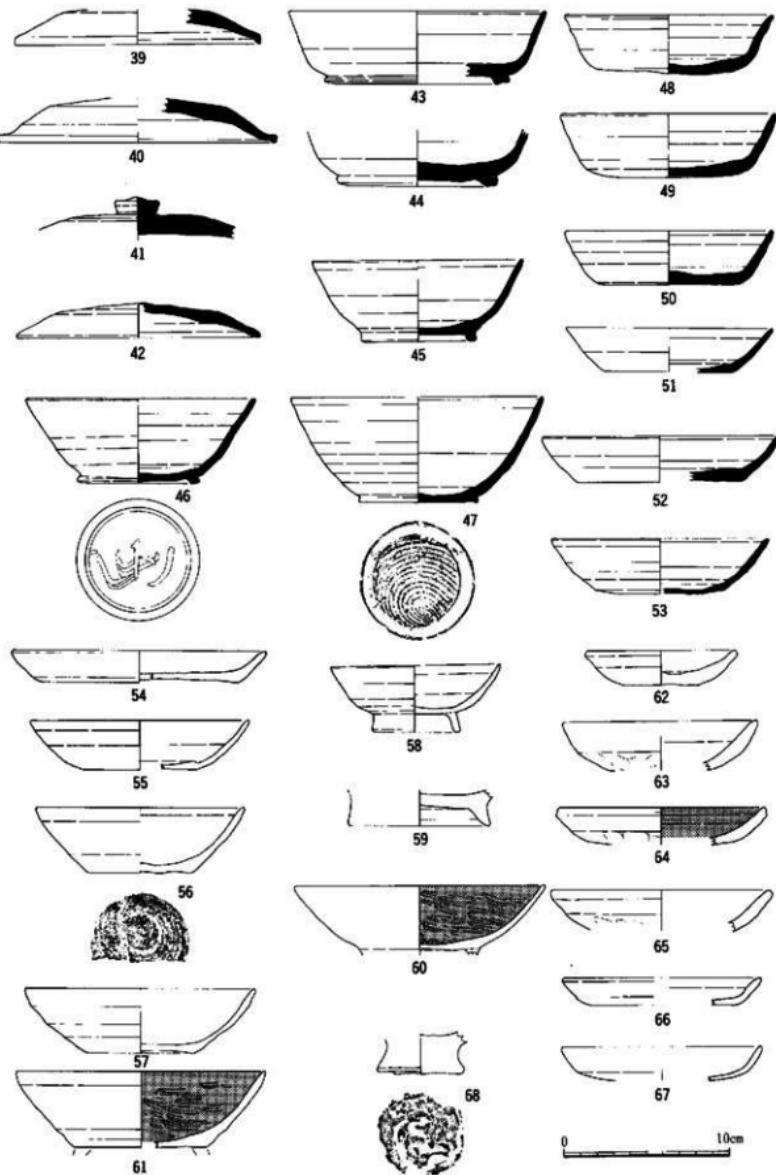
包含層からは多量の遺物が出土しているが、多時期の遺物が混在し、細片が多い。72~75はこの項で掲載したが、7世紀代のものと思われる。39~53は須恵器蓋および壺である。8世紀後半~9世紀代のものがある。54~70は土師器楕円類で9世紀末~11世紀前半、12世紀後半のものがある。76、77は須恵器壺・瓶類、78、79は珠洲焼底部でそれぞれ9世紀、13世紀頃のものであろう。木製品では柱、矢板、礎板の他下駄があり、鉄器では小刀がある。



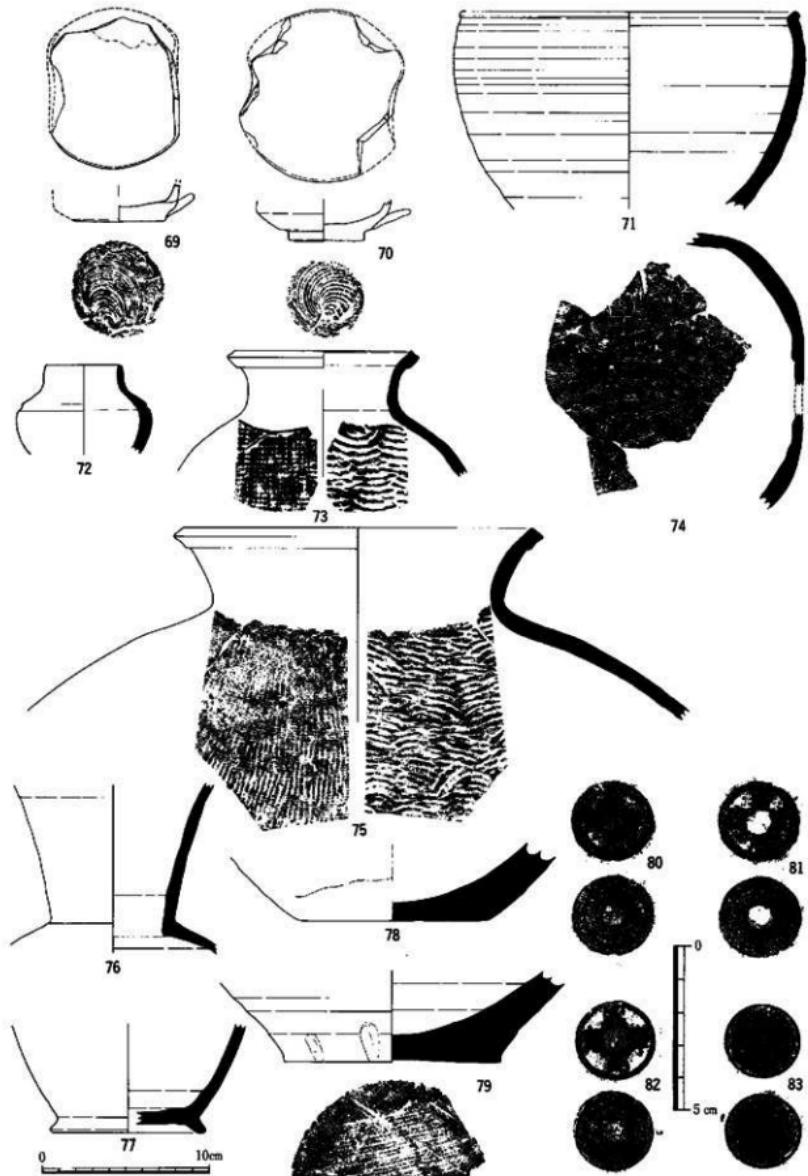
第59図 東小室キンダ遺跡出土古代・中世土器他〔1〕(S = 1/3)



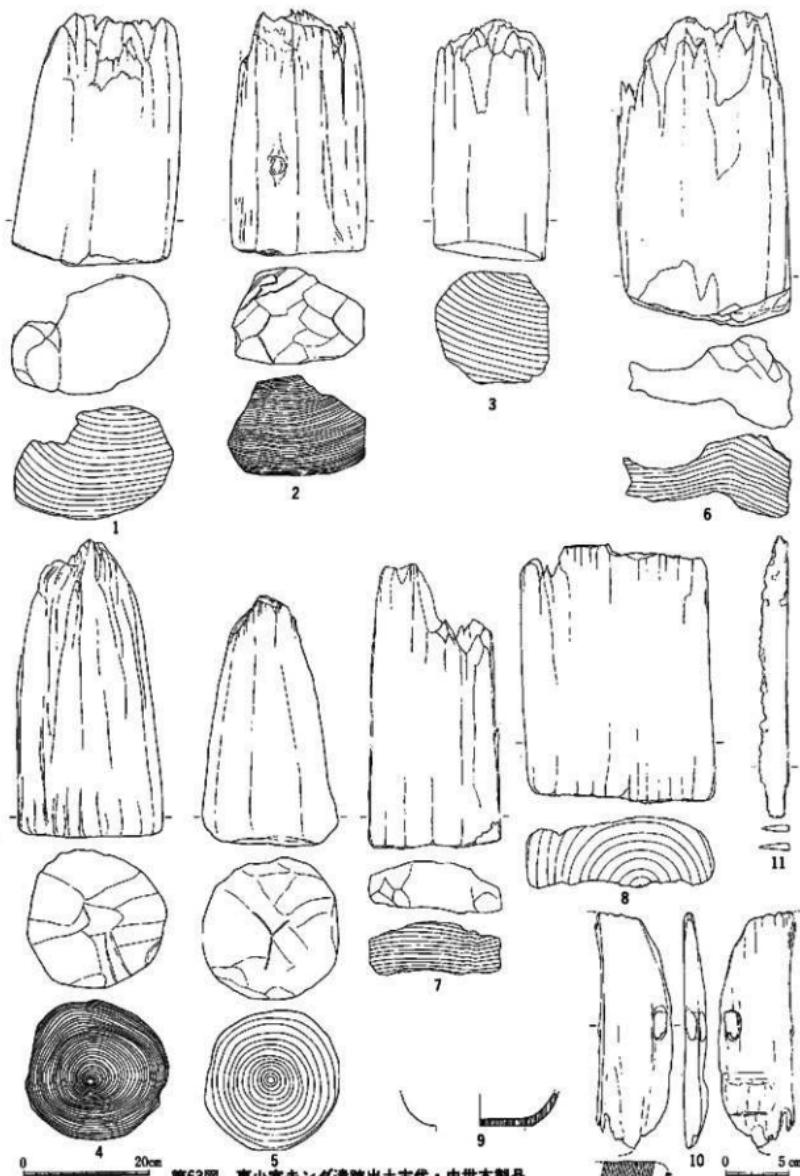
第60図 東小室キンダ遺跡出土古代・中世土器他〔2〕(S=1/3)



第61図 東小室キンダ造跡出土古代・中世土器他(3) (S=1/3)



第62図 東小室キンダ遺跡出土古代・中世土器他〔4〕(S=1/3)



第63図 東小室キンダ遺跡出土古代・中世木製品
(1~7, 11S = 1/8) (8, 9, 10, S = 1/4)
(S = 1/4)

第12表 東小室キンダ遺跡出土古代・中世土器他觀察表

検出No	出土地点	器種	法 量(cm)			色調 調査	焼成	調査 調(上位より)	粉 土	備考
			口径	器高	底径					
第59図1	1号上坑	土師器 無台輪	14.0	4.7	7.0	灰白 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 燒土塊を含む	
2	2号溝	須恵器 蓋	16.2			青灰 綠灰	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む	
3	2号溝	須恵器 双耳瓶				灰 灰白	良	ヨコナデ	礫、石英を含む	
4	2号溝	須恵器 盃形輪 底部			17.0	灰白 "	良	ハゲ ナデ	粗砂を多く含む 礫、石英を含む	
5	3号溝	須恵器 無台环	(14.4)	3.3	9.2	灰白 "	並	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英を含む	
6	3号溝	須恵器 無台环	12.0	2.8	5.2	灰白 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英を含む	
7	3号溝	須恵器 蓋				灰 "	並	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英を含む	
8	3号溝	土師器 深鉢	23.6			にぶい橙 "	並	ナデ 柔軟	粗砂を含む。 礫、海綿骨片、長石、 石英を含む	
9	3号溝	土師器 深鉢	33.4			淡黄橙 "	並	摩擦の為調整不明 ナデ	粗砂、礫を多く含む 燒土塊、石英を含む	
10	pit 295	須恵器 蓋	39.3			灰白 灰	良	ヨコナデ ヨコナデ、指おさえ後 ナデ	粗砂粒多く、石英、 長石を含む	割れ口灰 赤
11	pit 81	土師器 無台环	14.2	3.6	8.8	淡黄橙 "	良	摩擦の為調整不明 "	粗砂粒を多く含む 石英、長石を含む	
12	pit 265	土師器 有台环			9.5	黒 浅黄橙	良	ミガキ ヨコナデ	粗砂を含む 燒土塊を含む	
13	pit 270	土師器 蓋	13.7			黄灰 灰黄	良	摩擦の為調整不明 "	粗砂を含む	
14	pit 312	土師器 底部			6.3	淡黄 "	並	摩擦の為調整不明 ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石を含む	
第60図15	pit 26	甕	(16.8)			黒 にぶい橙	良	物織痕	粗砂多く、長石、 石英含む	内燃化 物あり
16	pit 27	土師器 瓶	15.0			淡黄橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 石英、長石含む	
17	pit 35	須恵器 蓋	14.5			暗灰 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く、礫が混る 長石、石英含む	
18	pit 35	須恵器 無台环	13.1	2.9	8.6	灰 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂少量化 長石、石英を含む	
19	pit 35	須恵器 無台环	12.0	3.6	8.3	灰 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂少量化 長石、石英を含む	
20	pit 35	土師器 瓶	14.0	3.9	8.5	黒 赤	良	ミガキ ミガキ	粗砂含む 長石、石英、海綿 骨片を含む	
21	pit 38	須恵器 無台环	13.3	2.9	8.0	灰白 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂少量化	
22	pit 49	土師器 有台环	10.4	4.6	5.8	にぶい橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英、海綿骨 片を含む	
23	pit 49	土師器 瓶	9.4	2.4	3.4	にぶい橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 礫、石英、燒土塊 を含む	
24	pit 49	土師器 無台环			5.3	橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 礫、石英、燒土塊 を含む	
25	pit 49	鍋	32.2			淡黄橙 にぶい黄橙	並	ヨコナデ、摩擦の為調 整不明 摩擦の為調整不明	粗砂を多く含む 石英、礫、燒土塊、 海綿骨片を含む	
26	pit 不明	土師器 瓶	9.0	2.15	4.9	橙 "	並	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英を含む	
27	pit 53	土師器 瓶	10.7	2.6	5.3	淡黄橙 灰白	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 燒土塊、礫、石英 を含む	
28	pit 53	土師器 瓶	10.4	2.6	4.9	淡黄橙 灰白	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂を多く含む 礫、石英、富士を 含む	
29	pit 53	土師器 瓶	9.8	2.0	5.8	淡黄橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 礫、石英を含む	
30	pit 53	土師器 瓶	10.6	2.2	5.2	淡黄橙 "	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 礫、石英を含む	

探団No.	出土地点	器種	法量(cm)			色調	焼成	調整内(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
31	pit 53	土師器 皿	10.2	2.45	5.6	橙 色	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 石英含む	
32	pit 53	無柄碗	12.4	4.0	5.5	にぶい橙 色	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く含む 石英含む	
33	pit 88	土師器 皿	25.6			褐褐色	良	ヨコナデ ハケ	粗砂多く含む 石英含む	
34	pit 101	土師器 有合碗				浅黄橙 にぶい黄橙	並	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂多く、海綿骨 針石英、燒土塊、 礫を含む	
35	pit 141	土師器 皿	12.8			灰白 色	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂含む、石英、 長石を含む	
36	pit 142	須恵器 無合环	14.3	2.95	8.5	灰 色	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂含む 海綿骨針石英	重ね焼痕
37	pit 270	土師器 無合碗	4.7	4.5	7.0	黑 灰白	良	ミガキ 摩擦の為調整不明	粗砂を多く含む	重ね焼痕
38	pit 291	須恵器 無合环	12.3	3.3	8.8	灰 色	良	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ	粗砂含む 石英、長石も含む	
第61団39	包含層	須恵器 皿	15.0			灰 色	不良	ヨコナデ ヨコナデ	礫、石英、長石を 多く含む	重ね焼痕
	包含層	須恵器 蓋	16.8			灰白 色	不良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石を含む	
	Aトレンチ 移レキ層	須恵器 蓋	11.6			灰 色	良	ケズリ	粗砂含む 長石、石英も含む	
42	包含層	須恵器 皿	14.6			灰 色	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り 後ナデ		内部にわらが筋土 に混じっていた痕跡有
43	堆積	須恵器 有合环	15.1	4.5	11.4		良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂少し含む 石英、長石含む	
44	包含層	須恵器 有合环		9.8		灰 色	不良	ヨコナデ ヨコナデ	礫を多く含む	内面擦付 着
45	包含層	須恵器 有合环	12.8	5.0	7.1	灰 色	良	オサエナデ	粗砂含む 長石、石英含む	
46	包含層	須恵器 有合环	13.9	5.2	7.4	灰黃色に近い 灰白	良		粗砂多く含む	
47	包含層	須恵器 皿	15.4	6.5	7.3	灰	良		礫少量含む	
48	包含層	須恵器 無合环	12.4	3.6	8.8	#	良	ヨコナデ ヨコナデ	礫少量含む 石英、長石含む	
49	包含層	須恵器 無合环	12.8	3.9	7.7	#	良		礫含む 石英、長石少し含む	
50	包含層	須恵器 皿	12.4	3.3	8.6	にぶい黄橙 に近い灰白	良		礫少量含む	
51	包含層	須恵器 無合环	12.5	2.7	7.8	灰	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂含む	
52	包含層	須恵器 無合环	14.2	2.8	10.0	#	良	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂含む	
53	包含層	須恵器 無合环	13.0	3.4	1.7	灰 灰、灰褐色	並	ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石含む	
54	包含層	土師器 盤	15.2	1.92	11.8	明椎	並	ナデ ナデ	1~3mm 白色粒含む	
55	包含層	土師器 皿	13.3	3.0	7.1	透	良		粗砂多く含む	
56	包含層	土師器 碗	12.5	4.0	6.4	浅黄橙	並		粗砂多く、石英、 長石含む	
57	包含層	土師器 碗	13.8	4.0	6.4	浅黄橙	不良	ヨコナデ	粗砂粒多く石英、 長石含む	
58	包含層	土師器 有合碗	14.0	4.2	5.4	浅黄橙	良		粗砂ごく少量含む	
59	包含層	土師器 台			8.8	浅黄橙に近 い灰白	良			
60	包含層	土師器 有合碗	15.2			黒 灰白	並	ヘラミガキ ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石、海綿骨針石英	
61	包含層	土師器 有合碗	15.0	4.7		黒 灰白	並	ヘラミガキ、ヘラナデ ヨコナデ、ナデ	粗砂粒多く、石英、 長石含む	スス付着
62	包含層	土師器 皿	8.9	2.1	4.7	浅黄橙	並	ヨコナデ ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石含む	
63	Cトレンチ	土師器 皿	11.6			にぶい橙 淡椎	差	ヨコナデ ヨコナデ、指頭压痕	粗砂粒多く石英、 長石含む	

探査No	出土地点	器種	法量(cm)			色調 評定	焼成	調整部(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
64	包含層	土師器 箱	12.4			黒 にぶい黄褐色、 黒	良	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	砂粒混入なし	
65	包含層	土師器 箱	13.2	2.5		灰青	良		粗砂ごく少量含む	
66	包含層	土師器 箱	(12.0)	1.7	8.8	浅黄褐色	良	ヨコナデ	粗砂ごく少量含む	
67	包含層	土師器 箱	(12.0)	2.1			良		粗砂ごく少量含む	
68	包含層	土師器 箱		2.7	5.4	浅黄褐色	良		粗砂少量含む	回転糸切り
第62・66	包含層	土師器 耳皿	9.8		5.6	棕	良	ナデ ナデ	粗砂多く含む	
	包含層	土師器 耳皿	10.6		4.6	浅黄褐色	差	ナデ ヨコナデ		未切り底
71	Aトレチ	須恵器 鉢	20.0			灰	良	ナデ ナデ	粗砂多く含む 長石、石英、海綿骨 針含む	
72	包含層	須恵器 小盤	4.4			青灰色	良	ロクロナデ ロクロナデ、沈線1条	ち密	
73	包含層	須恵器 楕円	11.6			灰	良	ヨコナデ ヨコナデ、タタキ	粗砂多く含む 鐵、石英含む	
74	包含層	須恵器 楕円				灰	良	ナデ ナデ	粗砂多く含む 鐵、石英含む	
75	包含層	須恵器 鉢	22.2			黒褐色	良	タタキ、カキ目 タタキ	粗砂多く含む 鐵、石英含む	
76	Aトレチ	須恵器 盆				灰	良	ヨコナデ ナデ	粗砂多く含む 鐵、石英含む	
77	包含層	須恵器 鉢			9.4	赤灰	良	ナデ ナデ	粗砂多い 石英、長石含む	
78	Aトレチ	須恵器 鉢			11.2	灰白	不良	ヨコナデ	粗砂粒多く、石英、 長石含む	ヘラ切り
79	包含層	珠玉(すり玉)			13.1		良			粗砂多い
80	包含層	墨矢束	2.4							995年～ 997年 北宋銘
81	包含層	墨矢束	2.4							1064年 北宋銘
82	Aトレチ	砂利(さり)	2.3							1068年 北宋銘
83	包含層	一鉢	2.2							大正12年
第59・84	包含層	石盤	長冬	幅	厚さ					
			2.3	0.9	0.5					

第13表 東小室キンダ遺跡出土古代・中世木製品他計測表

探査No	出土地点	名称	法量(cm) 長さ×幅×厚さ(残存値)			備考
			長さ	幅	厚さ	
第63・1	Pit 173	柱	41.1	25.6	18.2	
2	1号溝中	柱	40.0	21.0	16.2	
3	Pit 197	柱	38.9	18.8	18.2	
4	Pit 323	柱	48.4	22.2	22.8	3号掘立柱建物
5	Pit 6	柱	40.6	22.0	22.8	3号掘立柱建物
6	B-2区	矢板	51.2	27.2	14.0	
7	B-3区	矢板	45.9	21.4	8.1	
8	Pit 312	礎板	20.5	15.0	5.7	2号掘立柱建物
9	A-5区	漆器	底径 14.4	器高 2.6		
10	B-6区	下駄	19.2	6.1	1.9	
11	Bトレチ 溝状造構	小刀	22.9	2.4	0.55	

引用・参考文献

- 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988 「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」
 報告編・資料編
 出越茂和・楠 正勝 1987 「千木ヤシキダ遺跡」金沢市教育委員会
 安 英樹・柿田祐司 1995 「富来町貝田遺跡・貝田C遺跡」石川県立埋蔵文化財センター

報告書抄録

ふりがな	ひがしおもろばがやちいせき・ひがしおもろきんだいせき						
書名	東小室ボガヤチ遺跡・東小室キンダ遺跡						
副書名	県営ほ場整備事業東小室地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	本田秀生・松山温代						
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター						
所在地	〒921-8044 石川県金沢市米泉町4丁目133番地 TEL 076-243-7692						
発行年月日	西暦 1998年3月27日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
東小室 ボガヤチ	石川県羽咋郡 富来町東小室	17382		37度 8分 23秒	136度 44分 52秒	1,200	ほ場整備事業
東小室 キンダ	石川県羽咋郡 富来町東小室	17382		37度 8分 40秒	136度 45分 8秒	930	ほ場整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
東小室 ボガヤチ	集落遺跡	縄文時代 ～中世	竪穴式住居11基 掘立柱建物7棟 土坑 2基 溝 23状 水場遺構	縄文土器、弥生土器、 土器、須恵器、 中世土器、陶磁器、 石削片、石器石製品、 木製品、錢貨			
東小室 キンダ	集落遺跡	縄文時代 ～中世	掘立柱建物11棟 土坑 1基 溝 12状	縄文土器、弥生土器、 土器、須恵器、陶磁器、 中世土器、石器、石製品、 木器、木製品、金屬器			

図版1

富来川流域（南西から）



木尾根城跡から海を臨む（北東から）



図版2 (東小室ボガヤチ遺跡)

遺跡遠景 (北西から)



調査区全景 (上が西)



総柱建物完掘状況 (北東から)



図版3（東小室ボガヤチ遺跡）



1号竪穴住居



2、
3号竪穴住居



4号竪穴住居

図版4 (東小室ボガヤ子遺跡)



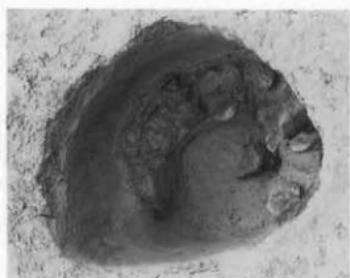
P15 (北から)



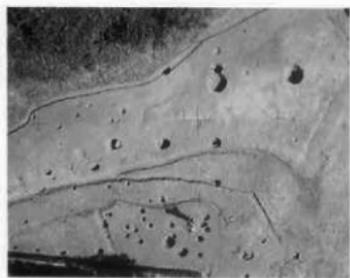
P12 (北から)



P306 (東から)



P11 (北から)



7号掘立柱建物 (上が北)



12号溝土器出土状況 (南東から)

図版5 (東小室ボガヤチ遺跡)

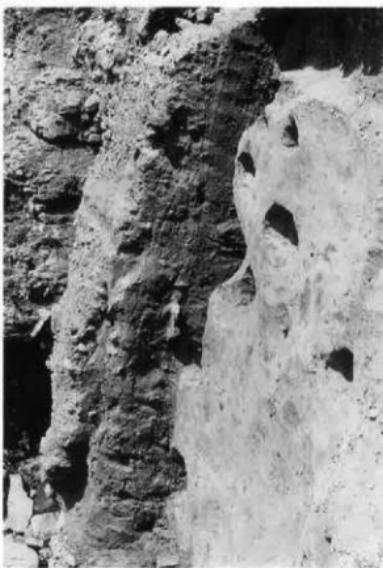
E・F2・3区完掘状況(南から)



3、4号溝土層断面・遺物出土状況(南から)

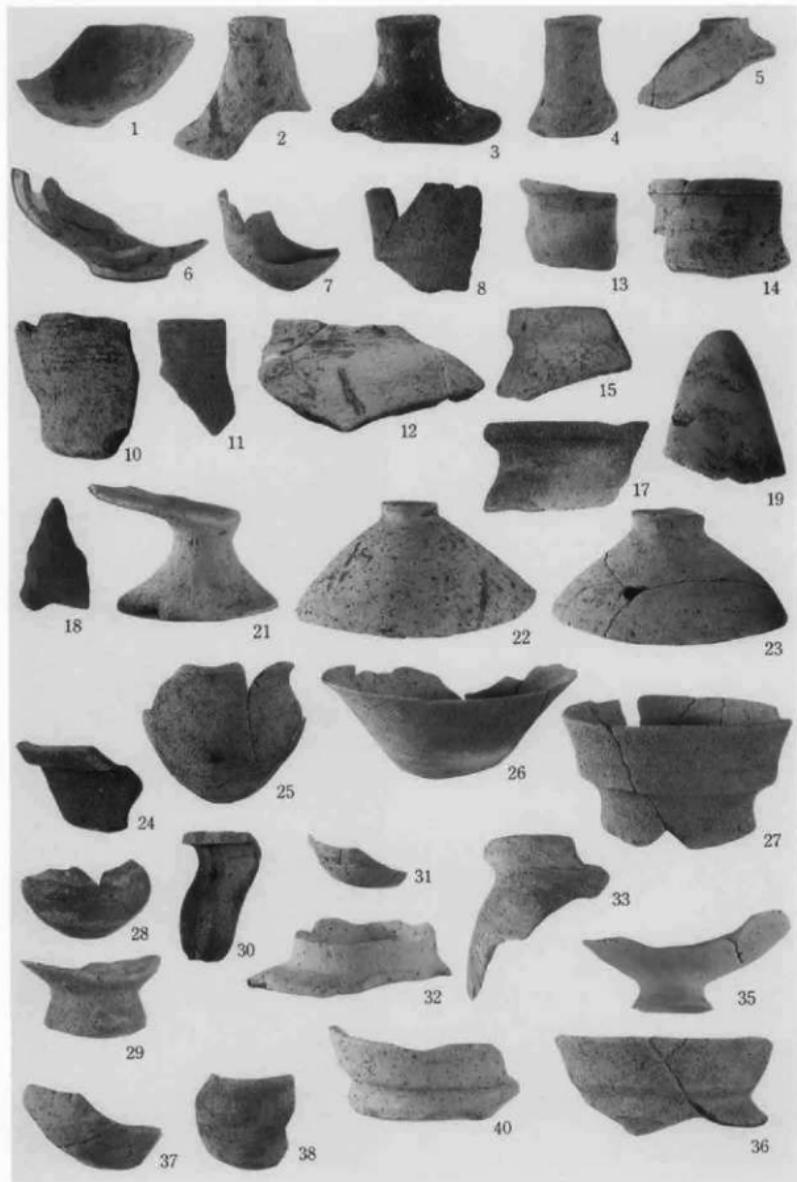


7、9号溝完掘状況(南から)

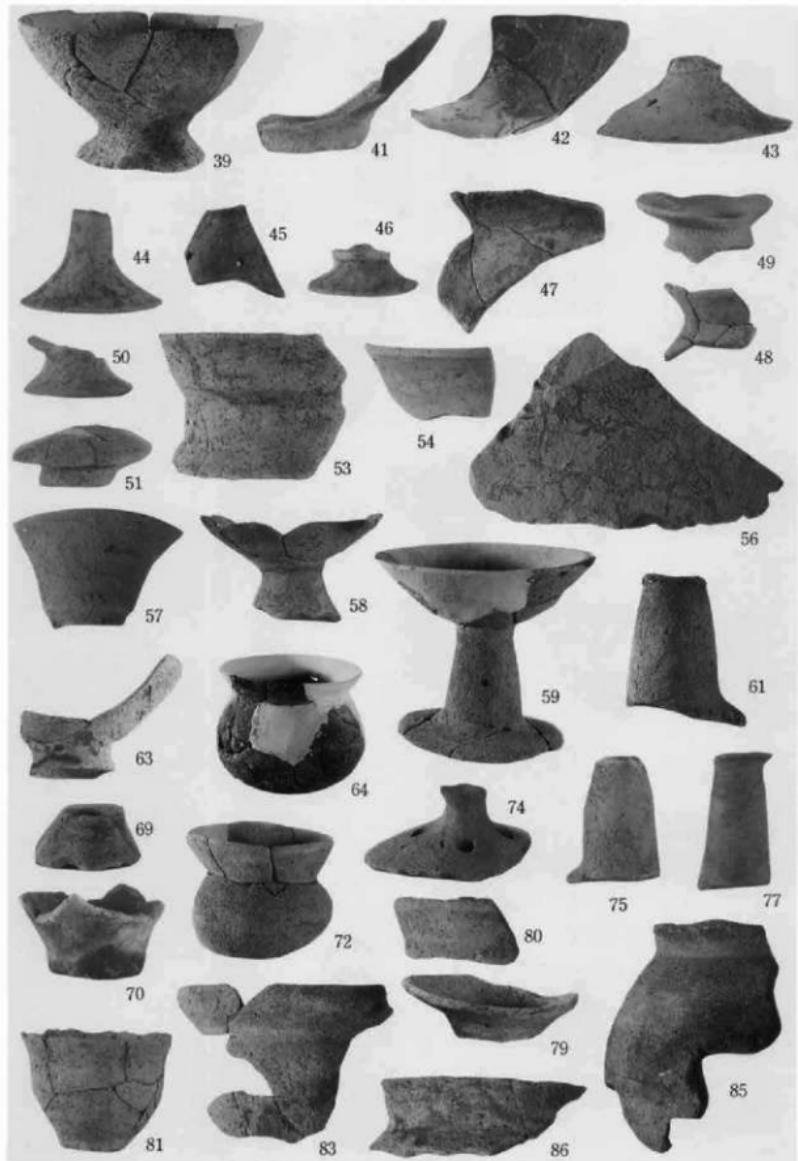


水堀遺跡(北西から)

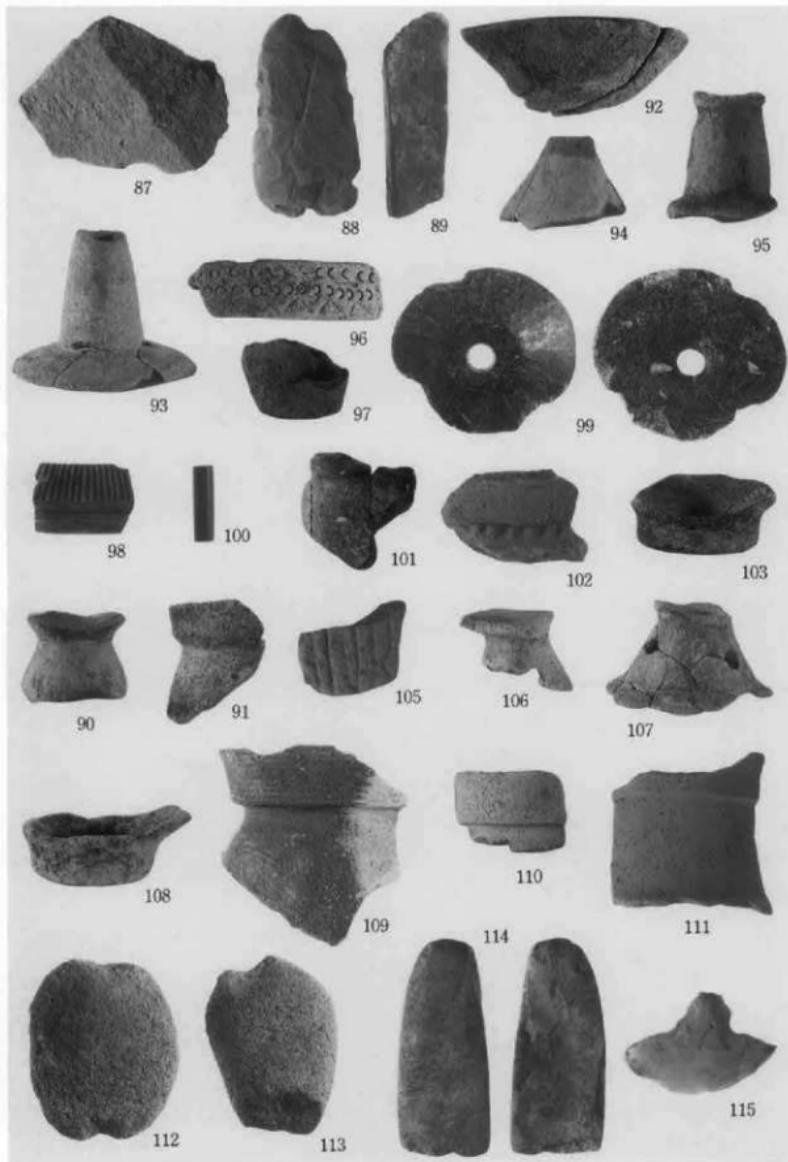
図版6
(東小室ボガヤチ遺跡)



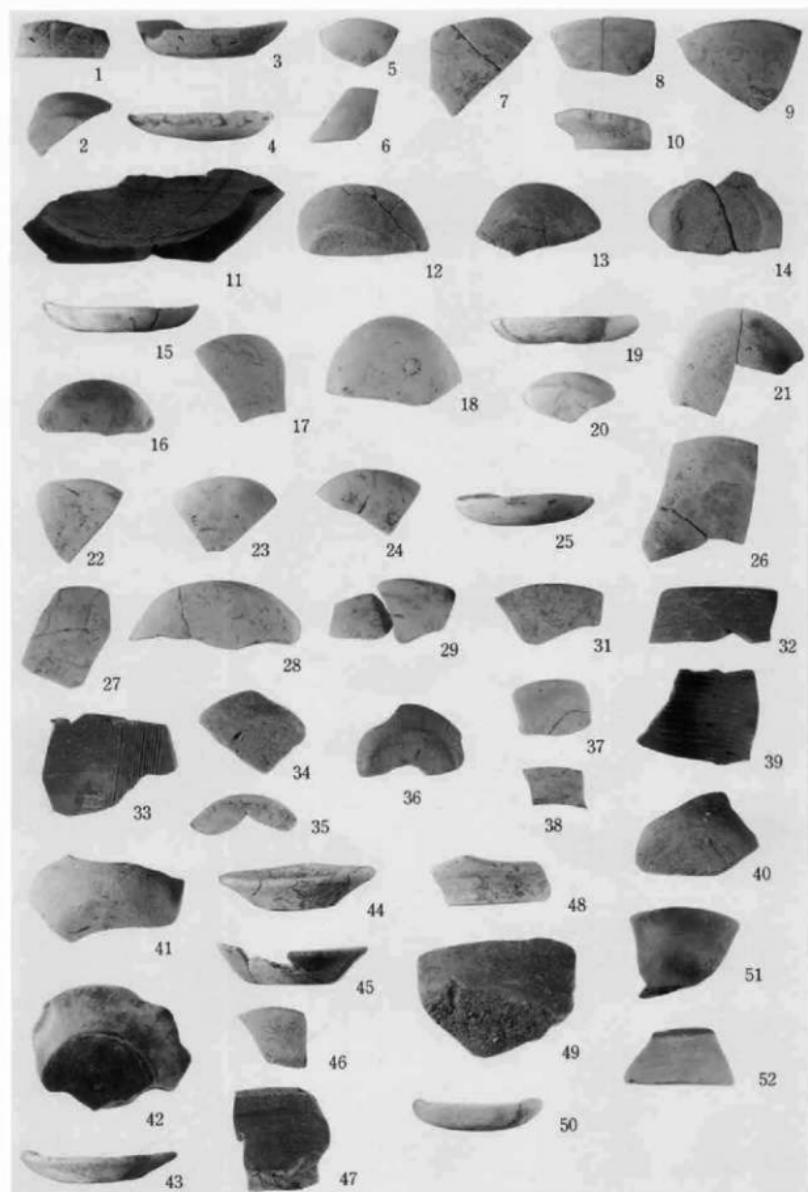
東小室ボガヤチ遺跡出土縄文～古墳時代の遺物〔1〕



東小室ボガヤチ遺跡出土繩文～古墳時代の遺物 [2]

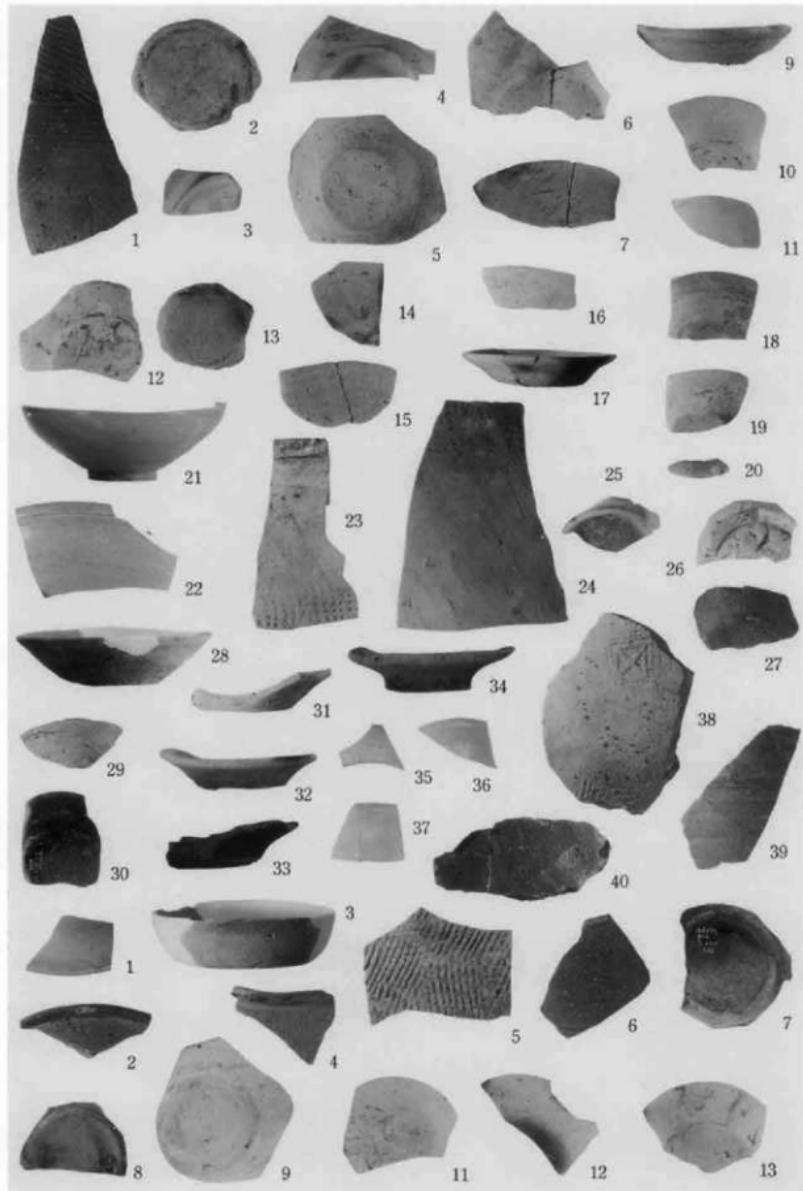


東小室ボガヤチ遺跡出土縄文～古墳時代の遺物 [3]

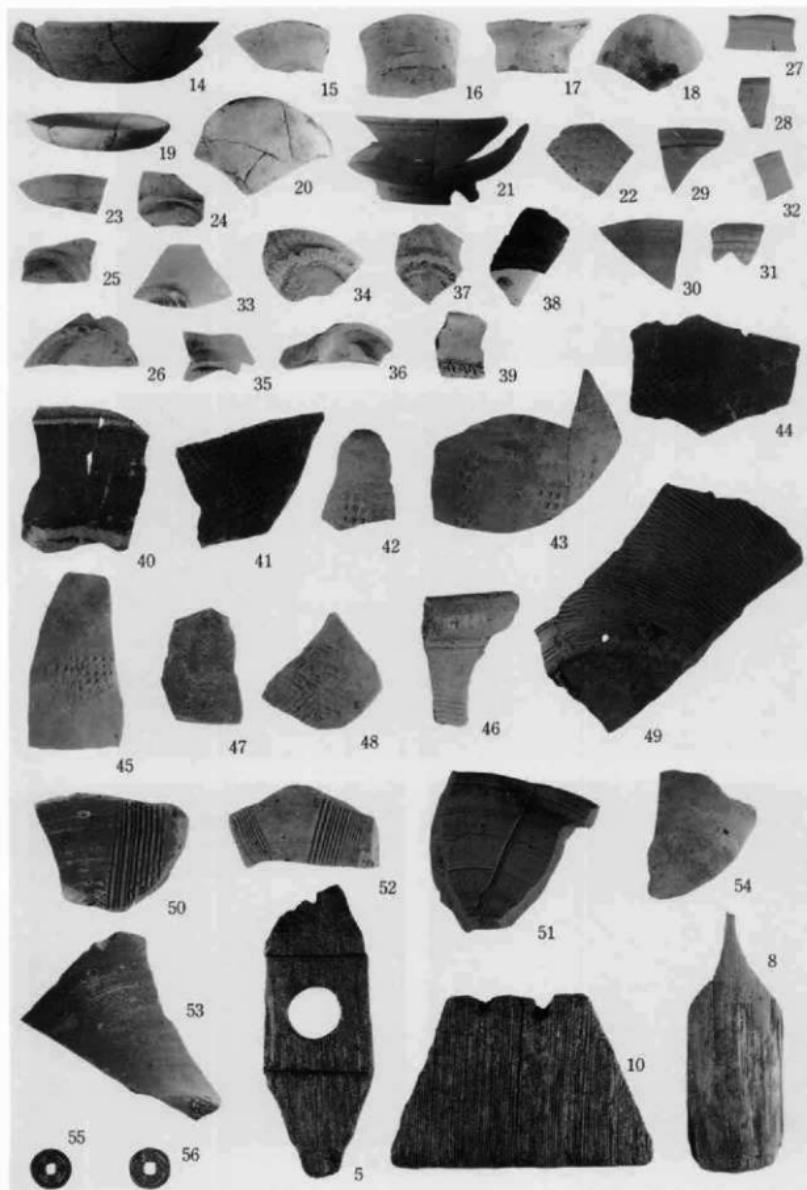


東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世遺物〔1〕

図版 10
(東小室ボガヤチ遺跡)



東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世遺物 [2]



東小室ボガヤチ遺跡出土古代・中世遺物〔3〕

図版12 (東小室キンダ遺跡)



遺跡遠景（西から）



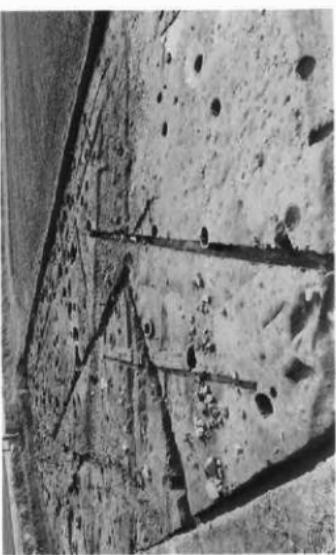
調査区全景（南西から）



A・B1~4 区完掘状況

図版 13 (東小室キンダ遺跡)

調査区東半部発掘状況 (北から)



作業風景 (北西から)



6号溝土器出土状況



4号溝土器出土状況 (東から)



図版 14 (東小室キンダ遺跡)



1号土坑土層断面（南西から）



1号土坑完掘状況（南西から）



P53土坑皿出土状況



水田畔状況（南から）

図版 15
(東小室キンダ遺跡)



T.P.4 土器出土状況（北西から）



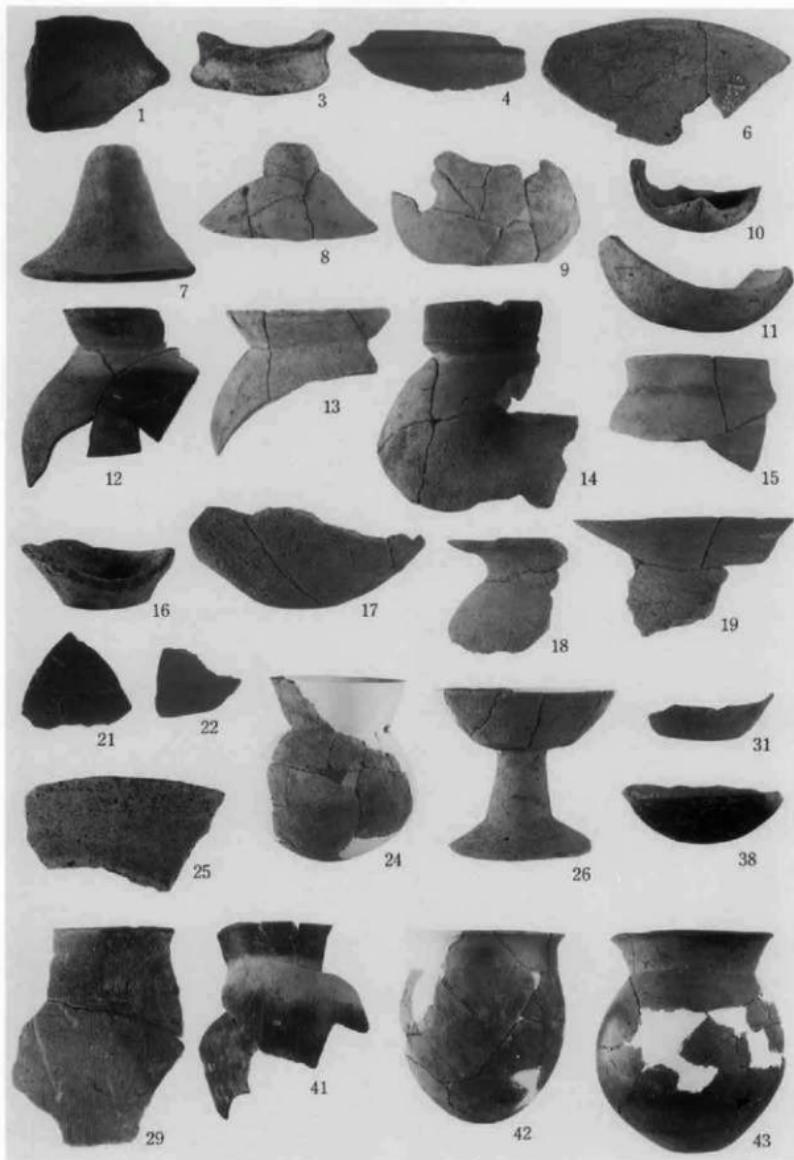
T.P.7 土器出土状況（北から）



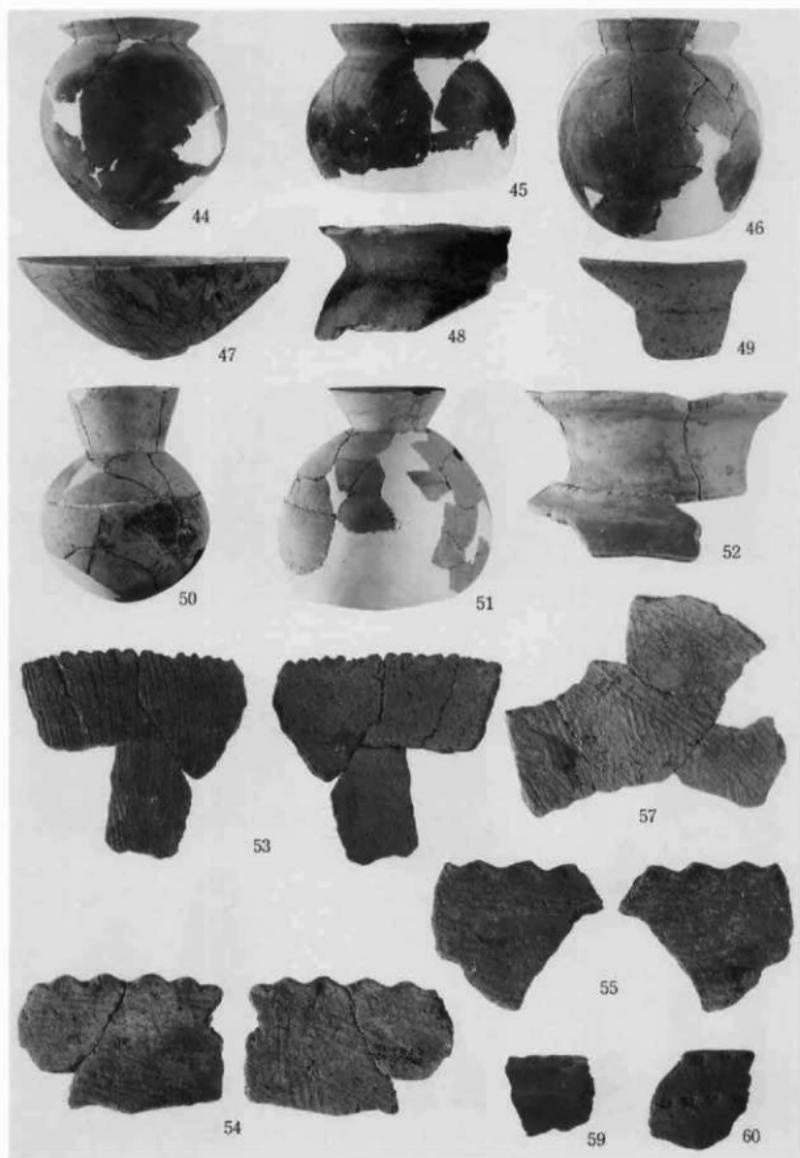
B レンチ完掘状況（北から）



C レンチ完掘状況（南から）

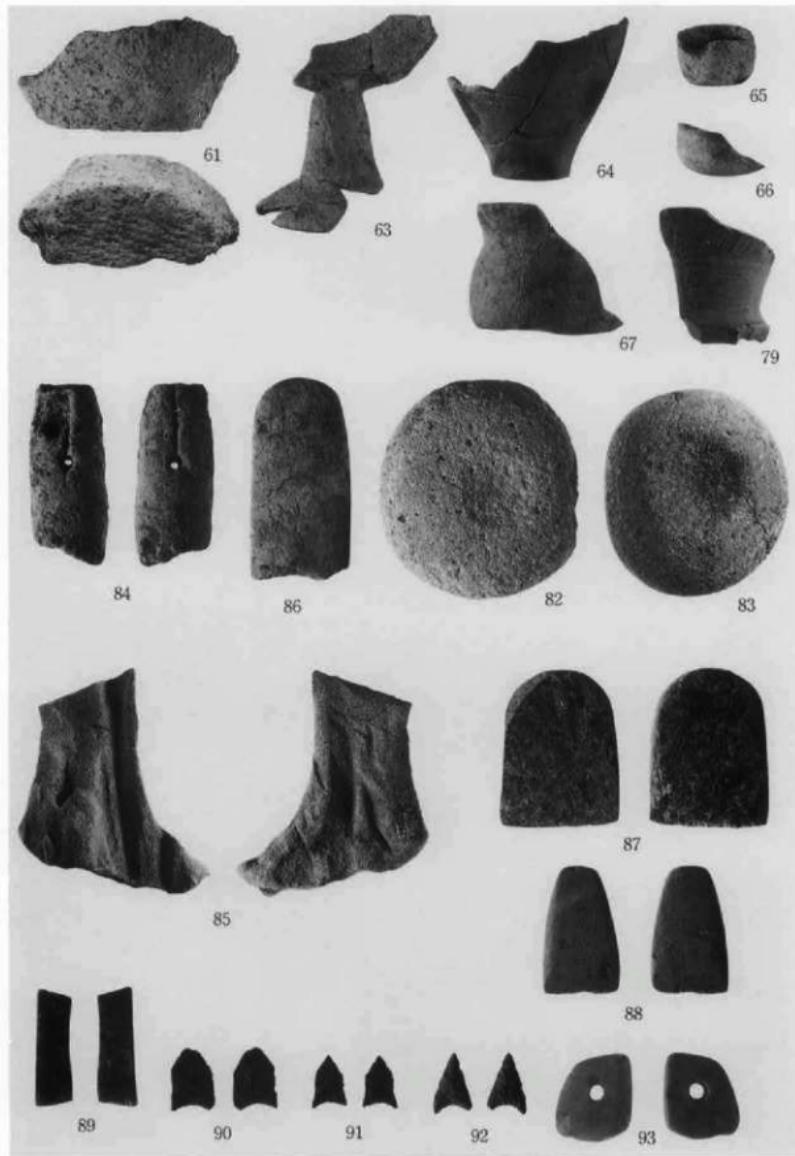


東小室キンダ遺跡出土縄文～古墳時代の遺物〔1〕

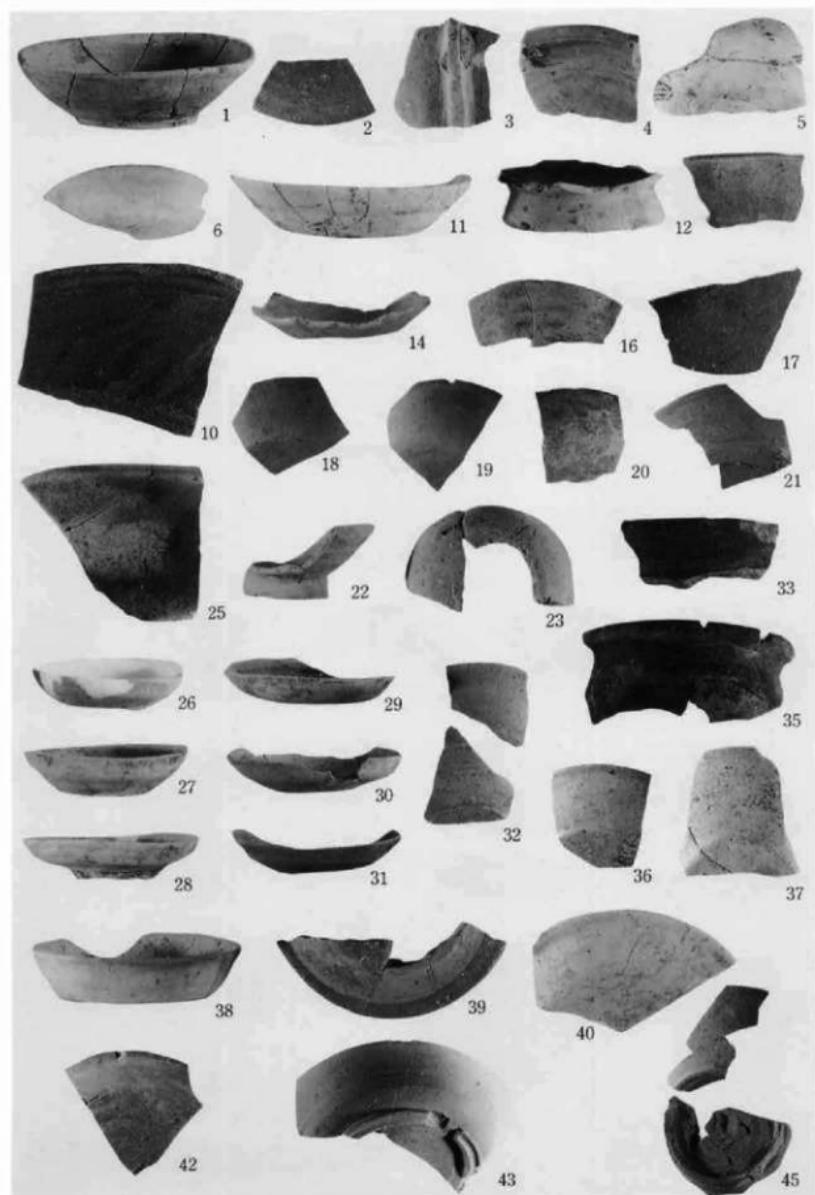


東小室キンダ遺跡出土縄文～古墳時代の遺物〔2〕

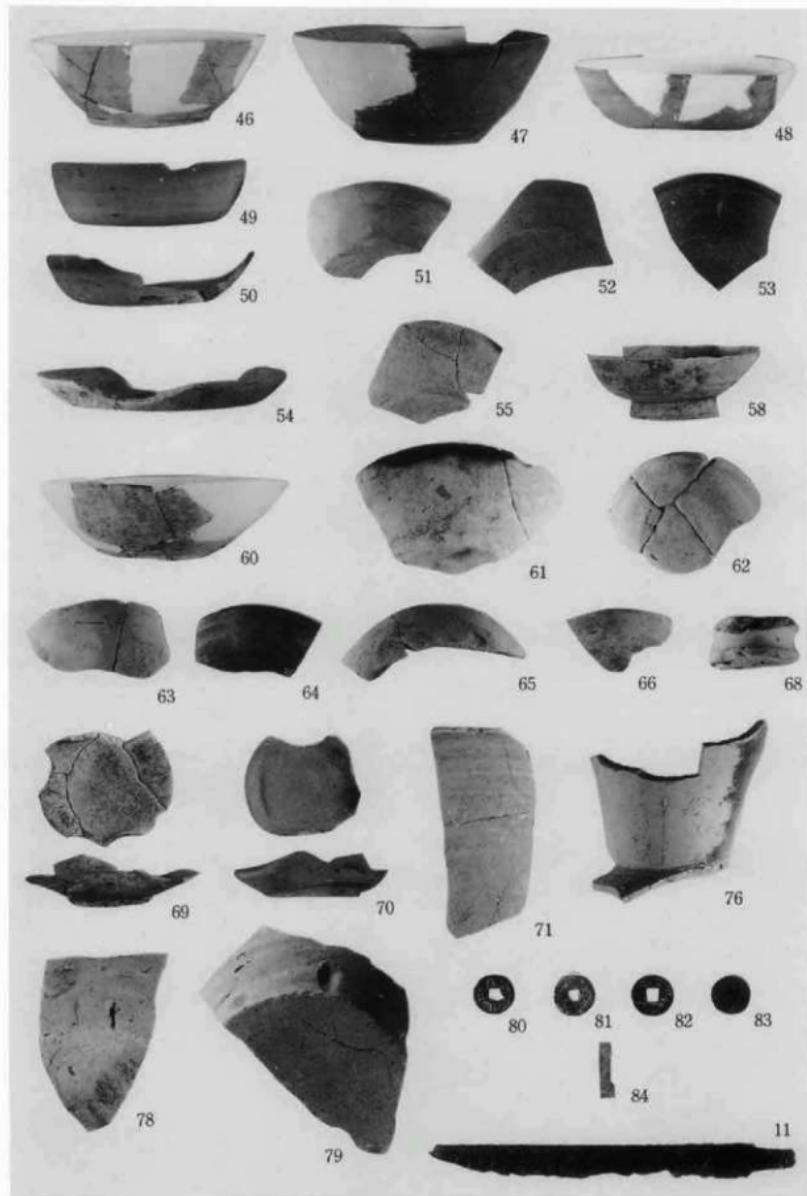
図版18
(東小室キンダ遺跡)



東小室キンダ遺跡出土純文～古墳時代の遺物〔3〕



東小室キンダ遺跡出土古代・中世遺物〔1〕



東小室キンダ遺跡出土古代・中世遺物〔2〕

東小室ボガヤチ遺跡・東小室キンダ遺跡

—県営は場整備事業東小室地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成10年3月27日 印刷・発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター

〒921-8044 石川県金沢市米泉町4丁目133番地
電話 (076) 243-7692

印 刷

株式会社 ハクイ印刷

〒925-0053 羽咋市南中央町2-83-51
電話 (0767) 22-1243